

非ス又裁判所モ之ヲ併セテ許容スルコトヲ妨ケサルモノトス

(同主旨)

起訴者ニ於テ相併立シ得サル二箇ノ原因ヲ主張シ甲ノ法律關係ニ非サレハ乙ノ法律關係ニ因リ請求ヲ爲スト云フカ如キハ不合法ノ訴ナレトモ苟モ請求ノ原因一定セル限ハ縱令二箇以上ノ原因ヲ主張スルモ併立シテ相妨ケサルトキハ之ヲ以テ不合法ノ訴ト爲スヘキモノニ非ス

○請求ノ原因トハ單純ナル事實關係ノ謂ニ非スシテ請求ノ權利即チ法律關係ノ由テ生スル事實關係ヲ指稱セルモノトス

(同主旨)

請求ノ原因トハ請求權ノ因リテ生スル直接關係ノ事實ノ謂ナリ

○一定ノ申立不明瞭ナル場合ニ於テ裁判所ハ民事訴訟法第百十二條第二項ニ基キ之ヲ釋明セシメス直ニ要件ヲ欠クモノトシテ其訴ヲ却下シタルハ同法第百九十條ノ適用ヲ誤リタルモノトス(第百十二條三〇年二卷一頁參照)

○一定ノ申立ハ起訴者カ事件ニ付キ如何ナル判決ヲ請求スルニ在ルヤ其意思ヲ表示セシムル爲メノ要件ナレハ其請求ノ主旨ヲ明記スレハ足り必スシモ訴求ノ目的物ヲ逐一列記スルノ要ナシ

(同主旨)

一定ノ申立ハ起訴者カ事件ニ付キ如何ナル裁判ヲ請求スルニ在ルヤ其意思ヲ表示セシムル爲

四〇	三六	三五	四〇	三八	三〇
五三	六八	二九	四〇	五八	二
		二〇	二		
			八九		
					七

メノ要件タルヲ以テ其請求ノ主旨ヲ明記スレハ足り必スシモ之ニ訴求ノ目的物ヲ逐一列記シ又ハ係争場所ヲ詳記スルノ必要アルモノニ非ス

○原告カ一定ノ申立トシテ二者擇一ノ權ヲ相手方ニ與ヘ其一ヲ履行スヘキコトヲ請求スルハ違法ニ非ス

(同主旨)

契約不履行ノ一ノ原因ニ基キ地所ヲ賣戻スカ又ハ損害金ヲ支拂フカ二者擇一ノ請求ヲ爲スハ一定ノ申立ナリ

○訴狀ニ請求ノ目的物ヲ掲ケタルトキハ一定ノ申立ハ其目的物ニ對シ如何ナル判決ヲ求ムルカヲ知ルヲ得ル程度ニ於テ記載スレハ足ル故ニ一定ノ申立中再ヒ請求ノ目的物ヲ列記スルノ要ナシ

(同主旨)

訴狀ニ請求ノ目的物ト一定ノ申立ヲ分別シテ開示スルトキハ一定ノ申立ハ單ニ事件ニ付キ如何ナル判決ヲ求ムルモノナリヤチ開示スレハ足り重ネテ目的物ノ何タルヲ開示スルノ必要ナシ故ニ一定ノ申立ニ某地所外何筆ト記載スルモ不合法ノ訴ニ非ス

○一定ノ申立ニ於テ賣買約定ノ取消ヲ求ムル申立ヲ爲シタル上ハ既ニ受取リタル金員返還ノ旨趣ハ自ラ其中ニ含蓄シアルニ依リ特ニ其申立中ニ之ヲ明示スルノ要ナシ

○訴ヲ以テ契約ノ解除ヲ求ムヘキモノニ非サルモ他ノ請求ト同時ニ訴狀

三〇	二九	三〇	三〇	三二
二	九	九	二	三
				二六

ニ解除ノ意思ヲ併記スルハ妨ナキモノトス

○一定ノ申立ハ請求事項ヲ書面ニ基キ明確ニ申立ツルヲ以テ足ルモノニシテ其表示ニ要式アルコトナシ隨テ訴狀中一定ノ目的物ヲ詳細表示シ其目的物ニ對シ權利ノ確認ヲ求ムル旨ノ一定ノ申立ハ洵ニ明確ニシテ不明ニ非ス裁判所カ之ヲ採用シタルハ相當ナリ

○共有物ノ分割スヘキモノナルヤ否ヤニ關シテ共有者間ニ爭ヲ生シ且分割ノ方法ニ付テモ爭アルカ爲メ訴訟ヲ提起スルニ當リテハ共有物ヲ分割スヘキコトト其實行トニ付キ請求セサルヘカラサルモノニシテ殊ニ分割ノ權利ヲ確定スル爲メ持分ニ關スル原告ノ一定ノ申立ハ判決ヲ求ムル要點トシテ之ヲ明瞭ニ表示スヘキモノトス

○一定ノ申立トハ起訴者カ其訴ニ於テ請求スル所ヲ明確ニ表示スルノ謂ナリ

○一定ノ申立ニシテ一箇ノ地所中其地域ノ分界ナキ若干坪ノ分筆ヲ求ムルモノナルトキハ訴狀ノ要件ヲ具備セサル不法アリトス

○甲乙及ヒ乙丙ニ對シ獨立シテ確的ニ債務ノ履行ヲ求ムルコトナク乙丙ニ對シテハ其請求ヲ甲乙カ履行セサレハトノ條件ニ繋ラシメタル申立ハ不法ナリ

三四	四	三七	六〇	三五	二	三
三六	二	三六	二	三六	二	三
三七	二	三七	二	三七	二	三
三八	二	三八	二	三八	二	三
三九	二	三九	二	三九	二	三
四〇	二	四〇	二	四〇	二	三
四一	二	四一	二	四一	二	三
四二	二	四二	二	四二	二	三
四三	二	四三	二	四三	二	三
四四	二	四四	二	四四	二	三
四五	二	四五	二	四五	二	三
四六	二	四六	二	四六	二	三
四七	二	四七	二	四七	二	三
四八	二	四八	二	四八	二	三
四九	二	四九	二	四九	二	三
五〇	二	五〇	二	五〇	二	三

○民事訴訟法第九十條第二項第三號ニ謂フ一定ノ申立ハ原告カ其訴訟ニ於テ請求スル旨趣ノ表示ナレハ唯其旨趣ヲ明記スルヲ以テ足り必スシモ一定申立ナル標目ノ下ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス

(同主旨)

訴狀中請求ノ一定ノ目的物ト云フ題目ヲ掲ケサルモ他ニ之ヲ知り得ヘキ記載アルトキハ訴狀ノ要件ヲ具備セサル不法アルモノト云フヲ得ス

訴狀ノ各要件ハ必スシモ標題シテ之ヲ記載スルコトヲ要セス唯之ヲ認識シ得レハ足ル

一定ノ申立ノ記載ハ特ニ表示シタル題號中ニ於テ十分ナラサルトキハ一定ノ請求ノ原因又ハ其他ノ題號中ニ記載シタル所ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得ヘシ

○起訴者ニ於テ先ツ一定シタル物件ノ給付ヲ求メ若シ債務者ヨリ其給付ヲ爲ササレハ該物件ノ價額ニ相當スル金錢ノ支拂ヲ求ムト云フカ如キハ請求ノ旨趣明確ナルヲ以テ其申立ハ一定セサルモノト云フヲ得ス

(同主旨)

一定ノ物件引渡ヲ請求スルニ當リ若シ其物件ヲ引渡ササルトキハ之ニ代ルヘキ一定ノ金額ヲ請求ストノ申立ハ不確定ノ申立ニ非ス故ニ其中立ニ涉ルモ一定ノ申立タルヲ妨ケス
債權ノ目的カ判決確定後其執行上損害賠償ニ換ヘテ強制執行ヲ求メ得ヘキ性質ノモノナルトキハ債權者ハ初ヨリ物件給付ノ請求ニ附加シ其給付ノ履行ヲ爲サス若クハ爲シ能ハサル場合ニ損害賠償ヲ爲スヘキコトヲ一定ノ申立トシテ請求スルヲ妨ケス
起訴者ニ於テ先ツ一定シタル物件ノ給付ヲ求メ次ニ債務者カ其給付ヲ爲ササレハ相當價額ノ

三元	二	二元	二	三元	二	三元
四元	二	三元	二	四元	二	三元
五元	二	四元	二	五元	二	三元
六元	二	五元	二	六元	二	三元
七元	二	六元	二	七元	二	三元
八元	二	七元	二	八元	二	三元
九元	二	八元	二	九元	二	三元
十元	二	九元	二	十元	二	三元
十一元	二	十元	二	十一元	二	三元
十二元	二	十一元	二	十二元	二	三元
十三元	二	十二元	二	十三元	二	三元
十四元	二	十三元	二	十四元	二	三元
十五元	二	十四元	二	十五元	二	三元
十六元	二	十五元	二	十六元	二	三元
十七元	二	十六元	二	十七元	二	三元
十八元	二	十七元	二	十八元	二	三元
十九元	二	十八元	二	十九元	二	三元
二十元	二	十九元	二	二十元	二	三元

支拂ヲ求ムト云フカ如キハ請求ノ旨趣明確ナルヲ以テ其中立ハ一定セサルモノト云フヲ得ス

○債權ノ目的カ判決執行上損害賠償ニ換ヘテ強制執行ヲ求メ得ヘキ性質ヲ有スルトキハ債權者ハ初ヨリ物件給付ノ請求ニ附加シ其給付ノ履行ヲ爲サス若クハ爲シ能ハサル場合ニ損害賠償ヲ爲スヘキコトヲ一定ノ申立トシテ訴求シ得ルモノトス

○如上ノ場合ニ於テハ起訴者カ物件ノ給付ヲ求ムル原因ヲ開陳シタル以上ハ特ニ損害要償ニ付キ開陳セサルモ請求ノ原因ヲ欠ク不法アリト云フヲ得ス

〔第九十一條〕

○民事訴訟法第九十一條ニ規定スル所ノ訴訟ノ併合ハ特ニ目的物ノ併合ヲ許スニ止マリ同法第四十八條ノ場合ノ如ク訴訟主體即チ當事者ノ併合ヲ許セルモノニ非ス仍ホ之ヲ詳言スレハ第九十一條所定ノ併合ヲ爲スニハ單ニ裁判所カ管轄權ヲ有スルト訴訟手續ノ同種類ナルトノ條件ヲ具備スルノミヲ以テ足レリトセス必ス常ニ同一被告ニ對スルモノタルヲ要ス

○民事訴訟法第四十八條ニ依リ共同訴訟ヲ許サレタル共同被告中其一人ノミニ係ル同一性質ノ請求ハ之ヲ共同訴訟ニ併合スルコトヲ禁シタル

三七
六〇二

四〇
三九四

四〇
三九四

三
三〇八

〔第九十二條〕

規定ナキヲ以テ同法第九十一條ニ依リ之ヲ併合シ得ヘキモノトス

○地上ノ工作物ヲ收去シテ之ヲ明渡スヘキコトヲ請求スルカ如キハ固ヨリ一ノ訴ヲ以テスルヲ許スノミナラス斯ル請求ハ其性質上之ヲ分離シテ二箇ノ訴ト爲サンヨリハ寧ローノ訴ヲ以テスルヲ相當トス

〔第九十三條〕

○送達後ニ爲シタル補正ノ申請ニ對シ被告カ異議ヲ唱フルトキハ補正ハ無効ナリ然レトモ其補正ニ對シ被告カ異議ナク答辯シ既ニ辯論ヲ經過シタル上ハ裁判官之ニ干渉シテ其補正ヲ無効タラシムヘキモノニ非ス被告モ亦後ニ至リテ其補正ニ異議ヲ唱フルヲ得ス

○不適法ノ訴狀ハ權利拘束ノ發生前ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ差戻シ得ヘキモ口頭辯論ヲ經タル後判決ヲ以テ之ヲ却下スルヲ得ス

(同主旨)

要件ニ缺漏アル訴狀ノ送達後補正ヲ許ス規定ナシ

〔第九十三條〕

○呼出狀ニハ一定ノ方式ナシ故ニ其記載事項ニシテ訴訟者カ其訴訟ノ爲メニ呼出サレタルコトヲ知り得ヘキトキハ呼出ノ效力ヲ有スヘキハ勿論ナリ

三四
九
一八六

二九
九
五二

二九
九
五九

二九
九
五二

三四
三
四

三三
七
一五

〔第九十條〕

- 權利拘束ノ生シタル後訴訟ノ目的物ヲ被告カ他ニ讓渡スルモ爲メニ原告ノ請求權ニ變動ヲ生スヘキモノニ非ス
- 訴狀送達ニ因リ權利拘束ノ效力ヲ生シタル後ニ於テ爲替訴訟ヲ通常訴訟ニ改ムルハ民事訴訟法第九十五條第二項第二號ニ所謂管轄ヲ定ムル事情ノ變更アル場合ノ一ニ該當ス故ニ受訴裁判所ノ管轄ハ此事情ノ變更ニ因リテ變換スヘキモノニ非ス
- 變更シタル訴ニ對シ其本案ノ口頭辯論前ニ對手者カ異議ヲ述ヘサルニ於テハ訴ノ變更ハ有效ナルモノトス
- 訴狀ニハ被告カ論地ニ對シ故障スルノ權利ナシトノ判決ヲ求メ訴狀訂正申立書ニハ所有權ノ實行ニ對スル妨害タルヘキ棒杭ヲ取除クヘキ義務アリトノ判決ヲ請求シタルモノナルトキハ之カ訂正申立ハ訴ノ變更ニ非ス
- 訴名並ニ一定ノ申立ヲ變更スルモ訴ノ原因ヲ變更セサレハ相手方ニ於テ之ヲ不當トスルヲ得ス
- 契約履行ノ訴ヲ同一ノ義務確認ノ訴ニ變更スルカ如キハ訴ノ原因ニ變更ナシ

三三	三二	二六	二九	三〇
四	三	二	一	一〇
四一	一四	四七	五一	四五

- 訴狀ニ於ケル取消ノ二字ヲ一定ノ申立書ニ依リ解除ノ二字ニ改メタルトキト雖モ其起訴ノ精神定約ノ解除ヲ求ムルニ在ルコト明瞭ナルニ於テハ其用語ヲ改メタルカ爲メ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス
- 當初相手方ノ違約ヲ理由トシテ手附倍還ノ請求ヲ爲シタルモノ後ニ至リ當事者間ノ契約解除アリタリトシテ手附金ノ返還ヲ請求スルハ訴ノ原因タル契約ノ不履行ヲ變更シテ不當利得ト爲スモノニシテ訴ノ變更ナリトス

- 當事者ノ變更ハ訴ノ變更ノ一ニシテ法律ニ於テ其承繼ヲ認メ又ハ其脱退ヲ認ムル明文アル場合ノ外ハ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス
- 民法上地上權ノ地代ニ付テハ賃貸借ニ關スル規定ヲ準用スヘキ法規アレトモ元來地上權ト賃貸借トハ法律上之ヲ同一視スルヲ得ス故ニ賃貸借ノ關係ヲ原因ト爲シタル訴ヲ地上權ノ關係ニ變更スルハ訴ノ變更ト云ハサルヘカラス
- 訴ハ原因ト目的ト相俟テ成立スルモノナルカ故ニ民事訴訟法第九十五條第三號ノ規定中ニハ自ラ訴ノ變更ヲ包含シ第四百十三條ノ規定中ニハ自ラ訴ノ原因ヲ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス
- 原告カ訴ヲ變更シタルトキハ元來ノ訴ノ外一ノ新訴ヲ提起シタルモノ

三〇	三四	三三	三五
二	九	一〇	九
一	六九	三七	三

リ更ニ連帶辨濟ノ申立ヲ爲スハ法律上ノ申述ヲ補充シタルモノニシテ
訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス

(同三三)

第一審ニ於テ單ニ辨濟ノ請求ヲ爲シ第二審ニ於テ連帶辨濟ヲ求ムルハ法律上ノ申述ヲ補充ス
ルニ止マリ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス

○原告カ第一審ニ於テ被告ノ或行爲ヲ以テ契約違反ノ行爲ト主張シテ違
約金請求ノ申立ヲ爲シ第二審ニ至リテハ更ニ他ノ行爲ヲ以テ均シク同
契約違反ノ行爲ト爲シ併セテ之ヲ主張シタルトキハ民事訴訟法第九
十六條ニ所謂訴ノ原因ヲ變更セスシテ事實上ノ申述ヲ補充シタルニ外
ナラサルモノトス

○土地所有者カ借地契約ノ滿期後借地人ニ於テ故ナク其地所ヲ使用シ居
ルトノ事實ニ基キ之カ明渡ヲ請求シ控訴審ニ至リ明治三十三年法律第
七十二號ニ依リテ地上權者ト推定スルモ滿二個年間ノ地料ヲ支拂ハサ
ル爲メ該地上權ハ全ク消滅ニ歸シタリトノ新事實ヲ提出シ同裁判所カ
之ヲ認容シ地料不拂ノ新事實ニ因リ其請求ヲ至當ト爲シ地所ノ明渡ヲ
命シタル裁判ハ違法ナリ

○金錢ノ消費貸借關係ヲ訴ノ原因トスル者カ第一審裁判所ニ於テハ單ニ

三〇九三

二元九三

三九四

三七二

貸借關係存在ノ事實ノミヲ陳述シ其目的タル金錢ハ現實ニ之ヲ授受シ
タルモノナルヤ又ハ現存ノ債務ヲ消費貸借ノ目的ト爲シタルモノナリ
ヤニ付テ詳細ノ申立ヲ爲サス第二審裁判所ニ至リ始メテ之ニ關スル詳
細ノ事實ヲ供述スルハ事實ノ補充ニシテ訴ノ變更ニ非ス

○辯論ノ進行中請求金額ヲ増減スルハ民事訴訟法第九十六條第二號ノ
所謂訴ノ擴張又ハ減縮ニ外ナラス之ヲ訴ノ變更ト云フコトヲ得ス

○控訴審ニ至リ利息ノ辨濟ヲ添加シ請求スルハ民事訴訟法第九十六條
第二號ニ該當スルモノニシテ訴ノ變更ニ非ス

○債權者カ詐害行爲取消ノ訴訟ヲ提起シ最初債務者ヨリ第三者ニ讓渡シ
タル債權ノ讓渡行爲ノ取消ヲ請求シタルモ其讓受人カ既ニ債務者ノ債
務者ヨリ債權ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テ最初ノ請求ニ附加シテ讓受
人カ辨濟ニ因リテ得タル金額ヲ債務者ニ返還スヘキコトヲ求ムルハ請
求ノ擴張ニ外ナラスシテ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス

○手形ノ受取人カ支拂人ニ對シ引受手續履行ノ請求ヲ爲シタル後其申立
ヲ擴張シ若シ直接履行ヲ得ル能ハサレハ損害金ノ支拂ヲ受ケントノ請
求ヲ爲シタル場合ニ裁判所カ唯手形ノ滿期日後ニ其引受ヲ求ムルハ不
當ナリトノ理由ノミニ依リ損害賠償ノ請求ヲ排斥シタルハ不法ナリ

三元二〇四

二元一四

三元八二六

三元三〇〇

三元一四五

○第一審ニ於テ直接履行タル目的物ノ給付ヲ求メ若シ其履行ヲ爲スコト能ハサル場合ニハ之ニ代ルヘキ損害ノ賠償ヲ求メタル後第二審ニ至リ其請求ノ中損害賠償ニ關スル部分ヲ減縮シタルトキハ訴訟法上請求ノ減縮ニ該當シ訴ノ一部取下ニ非ス

○數回ノ株主總會ニ付キ其無効ヲ請求スル場合ニ於テハ其各總會ヲ明示スルコトヲ要ス故ニ當初提出セシ一定ノ申立ニ掲ケサル別箇ノ總會決議ノ無効ヲ追加スルハ訴ノ擴張ニ非スシテ新ナル訴ノ提起ナリトス

○第一審ニ於テ地所賃貸借ノ無効ヲ原因ト爲シ登記ノ抹消及ヒ收益賠償ヲ請求シタル後第二審ニ至リ同一ノ原因ニ基キ更ニ無効確認ノ請求ヲ附加スルカ如キハ即チ訴ノ申立ヲ擴張シタルモノニ外ナラス

○第一審ニ於テ數名ノ被告ニ對シ債務分割履行ノ請求ヲ爲シ分割請求ヲ爲ス所以ノ事實關係ノミヲ陳述シ第二審ニ至リ更メテ各被告ニ對シ連帶債務履行ノ申立ヲ爲シ連帶債務ノ事實ヲ陳述セル場合ト雖モ若シ其係爭債務カ元來連帶債務ナルトキハ第二審ニ於ケル連帶事實ノ供述ハ事實上ノ補充ニシテ其請求額ノ増加ハ申立ノ擴張ニ外ナラス

○民事訴訟法第九十六條第三號ハ訴訟提起後ニ生シタル出來事ノ爲メ執行不能トナリタル場合ニ民法ノ原則ニ從ヒ賠償ノ責ヲ盡サシムルコ

三

三七六

三

三九六

三

四

三

一〇〇

トヲ許シタル規定ニシテ單ニ其物件ノ代價ニ限り請求ヲ許スカ如キ狹隘ナル意義ニ解スヘキモノニ非ス

○請求物件ノ減盡又ハ變更ニ依リ求ムル賠償ハ債務者ノ善意又ハ惡意ニ從ヒ其賠償金額ニ等差ヲ生スルコトアルモ其請求ハ最初求メタル物件ノ代用ナルヲ以テ訴ノ原因ニ變更ナシ

○質權者ハ其債權ノ満期ニ至ラサル間ハ質物ノ差押及ヒ公賣ヲ拒ムノ權利アリ故ニ債務者ノ他ノ債權者ヨリ不法ニ其占有ヲ奪ハレタル場合ハ訴追ヲ以テ異議ヲ主張シ之カ返還ヲ請求シ得ルハ勿論若シ公賣等ニ依リ現物ノ返還不能ニ至リタル場合ハ民事訴訟法第九十六條ニ依リ直ニ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

○請求ノ目的物カ新法令ノ規定ニ因リテ給付不能ト爲リタル場合ニ於テハ請求者ハ民事訴訟法第九十六條第三號ノ規定ニ依リ賠償ヲ求メ得ルモノトス

○民事訴訟法第九十六條第三號ノ最初求メタル物トハ同第九十條第百九十五條等ニ於ケル請求ノ目的物又ハ訴訟物ト同シク請求ノ目的タル事物ヲ謂ヒ物(有體物)ヲ請求スル場合ニノミ限定セル法意ニ非ス故ニ確認ノ訴ニ付テモ亦同號ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

二

一〇

二

一〇

二

一〇

三

八七〇

四

八八六

〔同主旨〕

民事訴訟法第九十六條第三號ニ所謂最初請求メタル物トハ同法第九十條第九十五條等ニ於ケル請求ノ目的物又ハ訴訟物ト同シク請求ノ目的タル事物ヲ指稱シ物(有體物)ヲ請求スル場合ニノミ限定セル法意ニ非ス

〔第九十七條〕

○第一審裁判所カ訴ノ原因ニ變更ナシト裁判シタル件ニ付キ第二審裁判所カ更ニ訴ノ變更アリタルモノト爲シ其訴ヲ却下シタルハ不法ナリ

〔同主旨〕

訴ノ變更ナシトノ裁判ハ民事訴訟法第九十七條ノ規定ニ依リ一審級ニ於テ直ニ確定シ爾後審査ヲ許スヘキモノニ非ス故ニ上告審ニ於テ訴ノ變更ナシトシタル判斷ニ反シ控訴裁判所カ更ニ訴ノ變更アリト裁判シタルハ該法條ヲ無視シタルノ不法ヲ免レス

○訴ノ變更ナシトスル中間判決ハ形式上ノ確定力ヲ生スルノミニテ固ヨリ當事者間ニ實質上何等ノ確定力ヲモ有スルモノニ非ス

〔第九十八條〕

○一ノ訴ヲ以テ獨立セル二箇以上ノ請求ヲ爲シタル後其一箇ノ請求ヲ全然取下ケタルトキハ訴ノ一部取下ト稱スヘキモノナリ

〔第九十九條〕

○答辯書ノ提出ハ提出者自ラ裁判所ニ出頭シテ之ヲ爲スコトヲ要スルニ

三九 六八四

三〇 四 六〇

三〇 三 一六二

三三 二八二

三七 三七八

非スシテ郵便其他ノ方法ヲ以テモ亦之ヲ爲シ得ルモノナレハ單ニ答辯書カ提出シアル事實ノミニ依リ提出者ハ其住所ヨリ裁判所マテ往復旅行ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス

〔第二百一〕

〔第二百一條〕

○反訴ニ依リ義務ノ相殺ヲ求メタルモノニ對シ法律上ノ相殺ヲ主張スルモノトシテ其申立ヲ排斥シタルハ申立以外ニ於テ裁判ヲ爲シ申立ニ付テ裁判ヲ爲ササル不法ヲ免レス

○訴訟ニ於テ被告ノ地位ニ立ツ者カ或契約ヲ詐害行爲ナリトシテ廢罷セシメントスルニハ之ニ因リ不當ニ利得シタル者ニ對シ尙ホ債務者ヲ參加セシメ更ニ訴ヲ提起シテ判決ヲ受クルカ又ハ其行爲カ事件ノ裁判ニ影響ヲ及ホス場合ニ於テハ第一審ノ審理中右ト同一ノ訴訟手續ヲ履ミ反訴ヲ提起シテ判決ヲ受クヘキモノトス

○反訴ニ由リ詐害行爲ノ廢罷ヲ主張セス單ニ之ヲ抗辯方法トシテ主張シタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ採用シテ原告ノ請求ヲ斥ケタル裁判ハ不法ナリ

○民事訴訟法第二百一條第二項ハ訴訟手續ノ遲滯ヲ避ケンカ爲メニ設ケラレタル公益規定ナリトス從テ期間經過後ノ反訴ハ縱合相手方ヨリ何

三〇 九 五

三〇 九 五

二九 三 一〇四

三七 五七

○國有土地森林原野下戻法ニ依リ下戻ヲ受ケタル目的物ノ引渡請求ノ訴ハ特別ノ争點ヲ生セサル限り果シテ下戻開届ノ指令アリタルヤ否ヤノ一事ヲ判断スレハ直ニ其當否ヲ斷定スルニ足ルヘク毫モ行政處分ニ影響スル嫌ナキヲ以テ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス

四〇

七六五

○權利拘束ノ抗辯ハ訴ヲ絶對ニ不適法ナリトスル事由ニ基クニ非スシテ唯權利拘束ノ期間ナルカ故ニ不適法ナリト云フニ過キササルヲ以テ訴ヲ提起シタルトキハ縱令權利拘束中ナリトスルモ判決ヲ爲ストキニ於テ權利拘束ノ事由消滅シタルトキハ其抗辯ハ理由ナキニ歸スルモノト云ハサルヲ得ス

三六

八 五

○訴訟ヲ提起シタル當時ハ權利拘束中ナルモ判決ヲ爲ス時ニ至リ其事由消滅シタル場合ニ於テ妨訴ノ抗辯カ理由ナキニ歸スヘキコトハ第一審ト第二審トニ依リテ異同アルコトナシ

三七

四三

(刑) ○受寄者カ擅ニ寄託物タル土地ヲ他人ニ賣渡シタル場合ニ於テ寄託者ヨリ民事ノ訴ヲ提起シ所有權移轉登記ノ抹消ヲ求メタル後更ニ民事原告人トシテ其登記抹消ノ私訴ヲ提起シタルトキハ訴訟ノ原因ハ孰レモ委託契約ニ存スルヲ以テ民事被告人ハ權利拘束ノ抗辯ヲ主張シ得ルモノトス

三九

一〇五八

○民事訴訟法第二百六條第四號ニ所謂法律上代理欠缺ノ抗辯ハ被告ヨリ其相手方即チ原告ノ法律上代理人ニ對シ代理權限ナキコトヲ争ヒ得ヘキ規定ニシテ被告タル會社ノ代表者トシテ指名セラレタル者カ自ラ其代理權ノ欠缺ヲ争フ如キハ同法上妨訴ノ抗辯トシテ之ヲ提出シ得ル規定アルコトナシ

三六

九六

○民事訴訟法第二百六條第二項ニ所謂前訴訟費用未濟ノ抗辯ハ原告カ一旦取下ケタル訴訟ヲ再ヒ提起シタル場合ニノミ之ヲ主張シ得ルモノトス

三九

二九二

○民事訴訟法第二百六條第七號ニ延期ノ抗辯ヲ妨訴ノ抗辯ナリトスル規定ハ實體法即チ民法債權擔保編第二十四條ニ基クモノトス故ニ其實體法ノ實施ナキ日ニ在テハ延期ノ抗辯ヲ主張スルヲ得ス

三六

一

○地所買戻ノ訴訟ニ付キ代金ノ提供ヲ要スルト否ハ相手方カ有效ニ拋棄シ得ヘキ抗辯ノ一方法ニ屬シ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ非ス

三九

六 八六

○訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯ハ職權調査ニ屬スル事項ナルヲ以テ當事者ハ其過失ニ非スシテ第一審ニ提出シ能ハサリシコトヲ説明スルノ要ナク第二審ニ於テ之ヲ提出シ得ヘキノミナラス決シテ

之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス
 ○損害賠償ノ訴ヲ管轄違ナリトスル妨訴抗辯ハ民事訴訟法第二百六條ニ所謂有效ニ拋棄スルコトヲ得ヘキ抗辯ナリトス從テ其抗辯ヲ棄却シタル第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲ササル以上ハ之ヲ拋棄シタルモノト看做ササルヘカラス

〔第二百七條〕

○訴訟委任欠缺ノ争アルモ後ニ其欠缺ナキ事實明瞭シ當事者間異議ナキトキハ特ニ之カ中間判決ヲ爲ササルモ可ナリ
 ○妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ本案ノ判決ト同時ニ之ヲ言渡シタルト否トヲ論セス上訴ニ關シテハ終局判決ト看做スヘキモノナルヲ以テ之ニ對シ特ニ上訴ヲ爲ササレハ該判決ハ法定期間ノ經過ニ因リ自ラ確定スルモノトス

〔第二百九條〕

○行政官ノ土地官民有區分ノ査定ニ不服ナレハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ヘキモ其不服ノ理由ハ普通訴訟ニ對スル防禦方法ト爲スコトヲ得ス
 ○既判力ニ因ル不受理ノ抗辯ハ訴訟ノ審級如何ヲ問ハス又一旦拋棄シタル

三四	三五	三九	四〇	四二
五	七	八	一〇	一二
一三	一四	一五	一六	一七

ルニ拘ハラス判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ提出スルコトヲ得

○秘密證書即チ反對證書ノ效力ハ其結約當事者間ニ限ラス其證書存在ノ事實ヲ知レル特定權原ノ承繼人及ヒ當事者ノ債權者ニ對シ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ

○磯漁場區域ノ確定並ニ之ニ關シ行政官廳ニ提出スヘキ書面ニ調印ヲ請求スル訴訟ハ財産ノ利益ヲ得ントスルモノニ外ナラサルカ故ニ財産權上ノ請求ニ付テノ訴ニ非スト云フコトヲ得ス

○起訴後ニ生シタル事實ト雖モ一ノ攻撃若クハ防禦ノ方法ト爲スコトヲ得ルハ判例ノ認ムル所ナリ

○差圖證券ノ債務者ハ其證券ニ記載シタル事項又ハ其證券ヨリ當然生スル抗辯ニ由ルニ非サレハ其債權者ニ對抗スルヲ得ス

○權利拘束中ノ債務ニ對スル相殺ノ意思表示ハ反訴ノ手續ニ依ルニ非サレハ爲シ得サル旨ノ法則ナキヲ以テ抗辯ニ依テモ之ヲ爲シ得ヘキモノトス

(反對)

請求ヲ受ケタル金額ニ對シ別途ノ貸借ニシテ返済期限ノ約定ナキ金額ヲ以テ相殺セント欲セ

二元	三元	四元	五元	六元
七元	八元	九元	十元	十一元
十二元	十三元	十四元	十五元	十六元

ハ須ラケ反訴ノ方法ニ依ルヘク抗辯ノ方法トシテ之ヲ求メ得ヘキニ非ス
 法律上ノ相殺ハ現行法中之ヲ認メス故ニ相殺ノ抗辯ハ民事訴訟法第二百一條ニ從ヒ反訴ノ方
 法ニ依ルニ非サレハ之ヲ提出スルコトヲ得ス

○抗辯方法ハ請求ノ原因ノ如ク必スシモ一定ノモノタルコトヲ要セスシ
 テ數多ノ方法中時ニ彼此抵觸スルコトアルモ妨ナシ
 (同主旨)

防禦方法ハ請求原因ノ如ク必スシモ一定スルコトヲ要セサレハ數多ノ防禦方法中時ニ彼此抵
 觸スル事項アルモ妨ナシ

○不法ノ原因ニ基ク請求ハ之ヲ許スヘキモノニ非サルモ請求ノ不法原因
 ニ基クコトヲ主張シ之ニ應スヘキ義務ナシトノ抗辯ヲ提出スルハ違法
 ニ非ス

〔第二百一
 一條〕

○給付ノ訴ニ於ケル判決ノ理由タルヘキ法律關係カ起訴ノ當時既ニ爭ト
 爲ルトキハ其確認ヲ求ムル訴ヲ併セテ提起スルコトヲ得ヘシト雖モ
 此場合ニ於ケル確認ノ訴ハ民事訴訟法第二百一條ニ規定シタルモノ
 ト全然其旨趣ヲ同フスルヲ以テ給付ノ訴ノ當否ハ之ニ因リテ決セラル
 ヘキモノナラサルヘカラス

〔第二百
 二條〕

〔第二百十二條〕

○民事訴訟法第二百十二條ハ口頭辯論中ニ生シタル適法ノ請求ニシテ當
 然許スヘキモノニ關スル規定ナレハ訴ノ提起トシテ許スコトヲ得サル
 請求ニ付テハ同條ヲ適用スルノ限ニ在ラス

〔第二百
 三條〕

〔第二百十二條〕

- 身代限ノ事實ヲ申立ル者ニ於テ其證據ヲ提出セサル以上ハ之ヲ非認ス
 ル者ニ於テ舉證ノ責任アラス
- 明示ヲ受ケサルモノハ舉證ノ責ナシ
- 見本ノ爭點ニ係ルコトヲ認メナカラ之ヲ遺却シテ何等ノ排斥ヲ示サス
 反對立證ノ責任ヲ歸シタルハ違法ノ裁判ナリ
- 貸借ノ關係ナキ者ヨリ金圓ヲ受取リタルカ爲メ爭ヲ生スルトキハ先ツ
 其送金ヲ受クヘキ理由即チ他人ノ代償金トシテ受取リタル等ノ確證ヲ
 舉ケサルヘカラス
- 債務追認ノ證書アルモ他ニ同一ノ主趣ニテ債務ノ關係アルトキハ其證
 書ハ他ノ債務ノ追認ニ非スシテ此債務ノ爲メナルコトノ舉證ハ之ヲ提
 出シタル者ノ責任タル論ヲ竣タス故ニ其舉證ノ責任ヲ盡ササルトキハ
 之ヲ理由トシテ排斥スルハ當然ナリ
- 船籍ニ登錄シアル船舶ハ法律上現存スルモノト推測スヘキハ當然ナル

三七	二四	二五	二五	二六
一	一	二	二	二
四	一四	五三	六六	一〇一

ヲ以テ該公簿ニ記載ノ船舶ニシテ現在セサルモノトセハ其反對主張者ニ於テ舉證ノ責ヲ負ハサルヘカラス

○凡ソ訴訟當事者ニ於テ物ノ所有權ヲ争フニ方リテハ之ヲ占有セサル者ハ現ニ之ヲ占有スル者カ所有ノ權利ナクシテ之ヲ占有スルコトヲ證明スル責任アリ之ヲ占有スル者ヨリ先ツ自己所有ノ權利ヲ證明スルノ責任ナキヲ法則トス

○事實ノ主張者ハ其主張ヲ證明スヘキ一應ノ證據方ヲ有スル證據ヲ舉ゲサレハ自ラ立證ノ責ヲ盡シ相手方ニ舉證ノ責ヲ負ハシメタルモノト云フヲ得ス

○裁判ハ適法ニ爲サレタルモノト推定スヘキハ當然ノ條理ナリ故ニ訴訟手續ニ違背シタル不法アリト論告スル者ハ其主張ノ事實ヲ證明セサルヘカラス

○婦ハ其夫ト共棲スヘキ義務アルモノナレハ其夫家ヲ立出タルハ自己ノ任意ニ非スト主張スル婦ハ之カ立證ヲ爲スノ責任アリ

○公共河水ノ使用者カ他ノ新工事ヲ差止ムルニハ其河水ノ分量ト工事ノ爲メ用水ノ減少スヘキ事實ヲ證明セサルヘカラス

○一件記録焼失シ原審訴訟手續上ノ違法ヲ調査スル道ナキ場合ニ於テハ

二元	二元	二元	二元	二元	二元
三	三	二	二	二	二
九二	八	三	五〇	六	二四七

其違法ヲ攻撃スル者ヨリ之カ立證ヲ爲ササルヘカラス

○無的ノ事實ハ之ヲ證明シ能ハストノ原則ナシ故ニ契約ニ原因ヲ缺クコトヲ主張シ其成立ヲ争フモノハ之ヲ證明スルノ責任アリ

○地所ノ取戻ヲ請求スル者ニ於テ其地所カ自己ノ所有ナリトコトヲ立證シ得サルトキハ對手者ノ主張セル原因カ虛無ニ屬スルコトヲ證シ得タリトスルモ取戻ノ權ナシ

○貸借契約ニ於テ當事者カ一年毎ニ元利金ヲ精算シテ借用證書ヲ書改メ利金ヲ元金ニ組込ムハ普通有リ得ヘキ事柄ナルニ之ヲ異常ノ事柄ナリトシテ其事實ノ主張者ニ立證ノ責ヲ負ハシメタルハ不法ナリ

○檢眞ヲ經タル私署證書ト雖モ未タ其裁判確定セサル以上ハ之ニ關スル舉證ノ責任ハ普通ノ場合ト毫モ異ナルコトナシ故ニ其證書成立ノ眞正ナルコトヲ主張スル者先ツ之カ舉證ノ責ヲ負フヘキハ證據法上當然ノ順序ナリトス

○當事者ノ提出セサル證據ニ依リ出訴期限中斷ノ事實ヲ認定シタルハ違法ナリ

(同前)

原院カ法廷ニ提出セサル證據ヲ裁判ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ縱令該證ヲ法廷ニ提出シタ

二元	二元	三元	三元	三元	三元
八	一〇	六	一	七	七
八	五〇	六	三	四	四

リトスルモ當事者カ該證ニ不服ナルニ其文詞ヲ採用シテ之カ裁判ヲ爲サンニハ相當ノ理由ヲ示ササルヘカラス

當事者ノ引用セサル證人ノ證言ヲ採リテ判斷ノ材料ト爲シタル裁判ハ不法ナリ

○母ノミ存在スル幼者ノ後見人トナリタル者ハ其母カ後見人ノ選定ヲ承諾シタル事實ヲ立證スルノ責任アリ

○印影盜用證書偽造ノ如キ異常ノ事實ヲ主張スル者ハ自ラ其舉證ノ責任セサルヘカラス

(同主旨)

立證ノ責任ハ異常ヲ主張スル者ニ在リ

例外ノ事ハ通常明示スヘキモノトス之ヲ推定スルヲ得サルハ一般普通ノ法理ナリ

請求者ハ其主張ヲ證明スル責任アリ異常ノ事實ヲ主張スル者モ亦舉證ノ責任アルモノトス

異常ノ事實又ハ既存ノ狀態ニ反スル事實ヲ主張スル者ハ舉證ノ責アリ

○不當利得ノ返還ヲ請求スル者ハ其相手方カ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ得タル事實ヲ立證セサルヘカラサルノミナラス尙ホ之カ爲メ自己ノ被フリタル損失ノ事實ヲモ立證スルノ責アリトス

○債務ノ消滅ヲ主張スル者ハ其主張ノ眞實ナルコトヲ證明スルノ責アリトス

○官署又ハ公署ニ在ル證書カ眞實ニ非サルコトヲ主張スル場合ニ於テ之

二七	二九	三二	三三	三五	二八	三〇	三三	三三
九	九	八	一〇	五	四	八	二〇	八
一九二	一	二四	二	三	七	四	二	二

カ反證ヲ許スヘキハ論ヲ竣タス

○拒絕證書カ拒絕者ノ營業所又ハ住所以外ニ於テ作成セラレタルモノナルヤ否ヤヲ争フトキハ被拒絕者ニ於テ其場所ハ拒絕者ノ營業所又ハ住所ナルコトヲ證明スルノ責任アルモノトス

○選舉ニ關スル運動費ト稱スルモノノ給付ナレハ即チ不法ノ原因ニ出テタル給付ナリトハ概言スルコトヲ得サルヲ以テ其金錢給付ノ目的不法ナリシコトヲ主張スル者ニ證明ノ責任アリ

○民法實施以前ニ於テハ詐害行爲取消ノ訴ニ付キ原告カ債務者ノ害意ヲ證明シ得タルトキト雖モ立證ノ責任受益者ニ移轉スル旨ノ規定ナキヲ以テ普通ノ場合ノ如ク債務者ノ害意ヲ知りテ債務者ト取引シタリト主張スル原告ニ於テ其立證ヲ爲スヘキモノトス

○契約ノ成立ヲ證書調製ノ條件ニ繋ラシメ意思表示ハ證書ニ記載シテ之ヲ爲スヘク證書ノ調製ナキトキハ意思表示ナシト看做スヘシト云フカ如キ特約アル場合ノ外當事者ハ人證ヲ以テ契約ノ成立ヲ證明スルコトヲ得

○後見人ハ財産上ノ事ニ付キ被後見人ニ代リ他人ト法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナレハ後見人ノ代表行爲ハ一應相當ナルモノト看做スヘ

三三	三三	三三	三三	三五	三五	三五	三五	三五
九	一	二	二	二	二	二	二	二
八九	三	七	七	六	六	六	六	六

キハ當然ノ條理ナルニ付キ其行爲ヲ以テ權限外ナリト主張スル場合ニハ其主張者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

○金錢ノ給付ヲ請求スル者ハ漠然金錢上ノ債權ヲ有スルコトヲ證明スルモ其數額ヲ證明セサルトキハ未タ充分ニ其證明ノ責任ヲ盡シタルモノニ非サレハ其數額ヲ證明セサル理由ヲ以テ敗訴ノ裁判ヲ受クヘキハ當然ナリ

○事實上債務ノ存在セサリシ場合ニ債務ノ辨濟トシテ或給付ヲ爲シタル者アルトキハ反證ナキ限りハ債務アリシモノト誤信シテ其辨濟ヲ爲セシモノト推定スヘシ

○寄託者カ寄託シタル特定物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ受寄者ハ中等ノ物質ヲ有スル物ヲ以テ返還スヘキモノナリトノ法則又ハ寄託物ハ寄託物ノ品質ヲ證明スルノ責任ヲ免ルルコト能ハス

○請求ノ原因ト其數額トニ付キ爭アリ之ヲ分離シテ裁判ヲ爲ストキト雖モ請求者ニ於テ其原因及ヒ數額共ニ證明スヘキ責任アルモノトス
○詐害行爲取消ノ訴ニ於テ受益者又ハ轉得者ノ惡意ナリシコトニ付テハ債權者ニ立證ノ責任ナク法律上之ヲ推定セラルヘキヲ以テ受益者又ハ

三五 六一七

三五 〇 四九

三五 二 三三

三五 二 一〇

三六 八

轉得者ヨリ自己ノ善意ナリシコトヲ證明セサルヘカラサルモノニシテ

此等ノ者ノ立證責任ハ自己ヨリ先ニ他ノ債權者カ債務者ト行爲ヲ爲シタルヤ否ヤノ事實ヲ調査スル方法アルト否トニ依リ異ナルコトナシ

○當事者ノ委任狀ヲ携帶セル代理人カ公證役場ニ出頭シテ契約締結ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ該委任狀ノ眞否ハ公證人ノ敢テ關知セサル所ナレハ其署名者ナリト主張セラルル者ニ於テ之ヲ否認スル以上ハ之カ眞正ヲ主張スル相手方ニ舉證責任ノ歸スルコト當然ナリ

○當事者カ或場所ヲ其住所ナリトシテ自己ノ所有家屋ナルコト及ヒ同所ニ自己ノ本籍アルコトヲ立證シタル場合ニハ他ニ何等特別ノ事情ナキ以上其所ヲ以テ住所ト見ルヘキハ當然ナリ故ニ該當事者ニ對シテ尙ホ立證ヲ要メタルハ舉證責任ヲ顛倒シタル違法アリトス

○原告ニ於テ被告カ一タヒ其所有物ヲ不法ニ占有シタル事實ヲ證明シタル以上ハ他ニ反證ナキ限りハ被告ニ於テ引續キ之ヲ占有スルモノト推定セサルヘカラス故ニ被告カ現ニ之ヲ占有セサルコトヲ主張シテ其返還ノ義務ヲ免ルルニハ自ら占有喪失ノ事實ヲ證明スルノ責任ヲ負フモノトス

○取引所仲買人カ買建ノ委託ヲ受ケ乍ラ之ヲ履行セサルニ付キ注文者ヨ

三六 九七〇

三六 一四二九

三六 三

三六 一三九

リ委託契約ヲ解除シ證據金ノ返還ヲ請求スル場合ニ仲買人ニ於テ其委託ノ事實ヲ争ハサル以上ハ之ヲ正當ニ履行シタルコトニ付テハ先ツ立證ノ責任ニ任セサルヘカラス故ニ注文者カ其不履行ノ事實ヲ叙スルニ當リ仲買人ニ反則行爲タルヘキ吞込ノ事實アルコトヲ述フルモ之カ爲メニ立證責任ノ移動スヘキ謂レナシ

○證明責任ヲ移轉セシムルニハ當事者一方ノ證明ニシテ一應其結果ヲ得タルモノト認メ得ヘキ場合ナラサルヘカラス

○相手方ノ故意又ハ過失ヲ主張シテ責任ヲ負ハシメントスル場合ニハ法律ニ特別ノ規定アルモノノ外主張者ヨリ其證據ヲ舉示スヘキハ當然ナリ

○相殺ノ事實ヲ立證セントスル者ハ自己ノ主張スル債權ノ成立スルコト並ニ其債權ノ辨濟期既ニ到來シ適法ニ相殺ヲ爲シタルコトヲ證明セサルヘカラス從テ債權ノ成立ニ付キ證據調ノ申請アルモ同債權ノ辨濟期ニ到達シタルコトニ付キ何等立證ノ申出ナキトキハ裁判所ハ該申請ヲ不必要トシテ却下スルコトヲ得ヘシ

○被告タル者ト雖モ利益ヲ主張スルニ於テハ立證ノ責任ヲ負フモノトス

○或事實ヲ主張スル者ニ舉證ノ責任アル場合ニ於テ其舉證ニ依リ一應右ノ主張ヲ眞實ナリト推定スルヲ當然ト爲ストキハ舉證ノ責任ハ反對ノ事實ヲ主張スル相手方ニ移轉スヘキモノトス

○擔保附消費貸借ヲ賣買契約ノ名義ニ假裝セル場合ニハ當事者間ニ於テ之ヲ必要トスル事由ナカルヘカラス從テ債權者ナルト將タ債務者ナルトヲ問ハス其賣買ヲ以テ假裝ノ契約ナリト主張スル者ハ之カ立證ノ責任ニ任スヘキモノトス

○貸借ヲ證スヘキ證書アル場合ニ該證書カ債權者ノ手裡ニ存在セサルトキハ正當ノ原因ニ依リ其債權消滅ニ歸シタルモノト推測セサルヘカラス

○係争不動産カ原告不知ノ間ニ所有權移轉登記及ヒ抵當權登記ヲ受ケタリトシ被告ニ對シテ登記ノ抹消ヲ請求スル訴訟ニ於テハ原告ハ所謂利益ヲ主張スルモノナルヲ以テ第一ニ立證ノ責任ヲ負フモノトス

(同前旨)
舉證ノ實ハ某權利ヲ有スト主張スル原告ニ在ルモノトス
○裁判所ニ於テ當事者間ニ延期貸ノ存在セシ事實ヲ認ムル以上ハ縱令債權者ヨリ各延期貸期間ノ終始ヲ證明セサルモ貸借ニ關スル計算ノ不能ヲ惹起スヘキモノニ非ス

三元	二元	三元	三元	二元	三元
九五六	四四一	九〇九	二六八	八一	二七五

三元	三元	三元	三元
二〇四二	二〇四二	九九二	四九四

- 有夫ノ婦カ原告タル場合ト被告タル場合トヲ分タス其意思表示ニ因リテ權利ヲ取得シタリト主張スル者ハ相手方カ夫ノ許可ヲ受ケタル事實ヲ立證スヘキ責任アルモノトス
- 執行異議ノ訴ハ強制執行ノ當否ヲ争フモノナレハ執行債權者ニ於テ先ツ其執行ノ正當ナルコトヲ證明セサルヘカラス
- 不法行為ヲ原因ト爲シ損害賠償ヲ請求スル訴訟ニ於テ其損害カ被告ニ過失アルニ非サレハ通常生セサルヘキ事情存スル場合ニハ一應被告ノ過失ニ基因シタルモノト推定シ得ルモ斯ノ如キ事情ノ存スルコトハ先ツ原告ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス
- 登記ハ登記官吏カ法律ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキモノナレハ現ニ登記ノ存スル場合ハ一應適法ニ行ハレタルモノト推定セサルヘカラス隨テ反對ノ事實ヲ主張スル者ハ之ヲ證明スヘキ責任ヲ負フモノトス
- 明治十九年法律第一號登記法施行以前ニ在テハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續人カ土地ノ如キ公證記名ノ財産ヲ承繼スルトキハ特ニ讓渡ノ公證ヲ受クヘキヲ原則トシ其公證ヲ經サルモノハ反證ナキ限り隱居者之ヲ留保シタルモノト看做スヲ慣例トス從テ其當時隱居者ノ公證記名アル財産ニ付キ讓渡ノ公證ヲ經サリシニ拘ハラヌ實際相續人カ

三九

四〇

四〇

四〇

一六五三

二四六

三三八

六七二

之ヲ承繼シタルコトヲ主張スル者ハ其事實ヲ立證スルノ責任アリ

○手形ノ所持人カ之ヲ呈示シタル事實ハ拒絕證書作成義務ノ免除セラレサル場合ニハ法律上該證書ニ依リテノミ之ヲ立證スルコトヲ得故ニ拒絕證書ニシテ適法ナル以上ハ所持人ハ之ニ因リテ呈示ノ事實ヲ立證シタルモノトス

【第二百十六條】

○同審級ニ於ケル臨檢及ヒ鑑定等ノ立證方法ハ當事者ニ於テ特ニ之ヲ引用スルコトヲ申立テサルモ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲スヲ以テ足レリトス

【第二百十七條】

○書面證據ノ提出ヲ望ムヘカラサル事柄ハ證人若クハ情況ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ許スハ當然ニ付キ民事裁判所ニ在テモ單ニ情況ノミニ依リ判斷ヲ下スコトヲ得

○一方ノ舉證ヲ排斥セントナラハ必ス反對舉證ノ責任アル一方ノ立證如何ヲ審究セサルヘカラス

○當事者間ニ於テ曾テ争ハサル事實ヲ理由トシ基本トシテ爲シタル裁判ハ越權不法ナリ

【第二百十七條】

○書面證據ノ提出ヲ望ムヘカラサル事柄ハ證人若クハ情況ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ許スハ當然ニ付キ民事裁判所ニ在テモ單ニ情況ノミニ依リ判斷ヲ下スコトヲ得

○一方ノ舉證ヲ排斥セントナラハ必ス反對舉證ノ責任アル一方ノ立證如何ヲ審究セサルヘカラス

○當事者間ニ於テ曾テ争ハサル事實ヲ理由トシ基本トシテ爲シタル裁判ハ越權不法ナリ

四〇

四〇

三七

二四

二五

二五

七九

八五〇

六四

二四二

三元

五

- 供述ノ事實ヲ誤認シタル判決ハ不法ヲ免レス
- 證書偽造ノ告訴ニ對シ檢察ニ於テ起訴ノ手續ヲ爲ササレハトテ爲メニ民事裁判ヲ羈束スヘキモノニ非ス
- 投票ノ得點數ヲ斷定スルニハ必スシモ現在ノ投票其物ノミニ依ルヲ要セス證人ノ證言ヲ採用シテ事實ヲ斷定スルモ不法ニ非ス
- 當事者間ノ前訴訟ニ於テ一方カ他方ノ株券ヲ委任狀附ノ儘委任權ヲ超越セル訴外人ヨリ抵當ニ取リタルハ其不注意ニ出テタルモノナリトノ斷定ヲ受ケ其實事確定セシトキハ爾後他ノ訴訟ニ於テ該抵當ニ取リタル行爲ハ自己ノ過失ニ非スシテ其責他方ニ在リト主張スルヲ得ス隨テ其商習慣有無ノ點ニ對スル原判決ノ理由不穩當ハ以テ其判決理由ノ基本ニ影響ヲ及ホサス
- 後見人ノ爲シタル貸借カ幼者ノ爲メ必要ナルヤ否ハ幼者ト後見人トノ間ニ於テ其責任ノ如何ヲ判定スルノ憑據タルコトヲ得
- 債務ハ一旦成立シタルモ既ニ辨濟シタリトノ自認ヲ分割スルハ自認不可分ノ規則ニ抵觸スルヲ以テ採用スヘキモノニ非ス
- 證據ハ共通ナルカ故ニ當事者ノ一方ヨリ提供シタル證據ニ依リ他ノ一方ニ利益ナル事實ヲ認定スルモ不法ニ非ス(第五節三三年二卷六〇頁)

二五	二六	二六	二六
一	二	一	二
一六二	四	四〇	二五〇

參照)

- 如何ナル場合ニテモ證人ノ證言ハ書證ヲ打消スノ力ナシトノ裁判ハ不法ナリ
- 養嗣子ニ非サル養子又ハ養女ハ當然相續權ヲ有スルモノニ非スト雖モ事實ノ如何ニ因リ其相續權ノ有無ヲ判斷スルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス
- 地租ハ土地所有者ノ負擔スヘキ公ノ義務ナリト雖モ地租ヲ上納スルカ爲メニ其土地ニ對シ常ニ完全ナル所有權ヲ有スルモノト斷スルコトヲ得ス
- 當事者ノ申請ニ因リ第三者ヲシテ提出セシメタル證據ハ相手方ノ認否如何ニ拘ハラズ裁判官力之ニ心證ヲ措クニ足ルト認ムル以上ハ之ヲ採用スルコトヲ得ルモノトス
- 判事カ心證ヲ以テ證據ヲ取捨スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テ其心證ノ憑據トスヘキモノハ必スシモ當事者ノ申立テタル事項ニ限定セラルヘキモノニ非ス

(同主旨)
當事者ノ争ハサル事實ハ直ニ探テ之ヲ事實認定ノ材料ニ供スルモ違法ニ非ス

二九	三〇	三一	三二
一	九	一	二
一八七	二五	五六	一四二

- 攻撃論争ノ點顯然タルニモ異議ナキ證據ノ如ク卒然之ヲ採用シテ認定シタルハ違法ノ判決ナリ
- 當事者ノ辯論セズ立證セサルモノヲ以テ事實ヲ確定シ法則ヲ不當ニ適用シタル裁判ハ違法ナリ
- 凡ソ裁判官カ心證判斷ニ供スル材料ハ必スシモ辯論ヲ經タル事柄タルヲ要セス
- 婦カ一時夫ノ家ヲ立去リタルハ默示ノ離婚ナリヤ否ヤヲ判斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス
- 養育料額ノ多寡ハ裁判所カ自由ノ心證ヲ以テ判斷スヘキ事柄ナルカ故ニ其心證ノ由來ヲ説明スルヲ要セス
- 執達吏カ當該官署若クハ公署ニ問合ヲ爲サスシテ振出人ノ住所ナリト判斷シタル事項ハ裁判所ヲ羈束スル效力ナシ
- 取消シ得ヘキ法律行為ノ追認ニ關スル規定特ニ其制限ハ民法實施以前ニ在テハ之アラサリシヲ以テ事實裁判所ハ相當ノ證據ニ依リ自由ナル心證ヲ以テ其追認ヲ判斷スルコトヲ得ルモノトス
- 民法施行前ニ於テハ占有者ノ意思ノ善惡ヲ判定スルニ付キ別段ノ法則ナカリシヲ以テ裁判所ハ之ヲ事實問題トシテ各證據ニ依リ自由ナル心證ヲ以テ判定スヘキモノトス
- 會社カ其債權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ會社ノ商號ヲ以テ爲シタル通知

二五	二	八四
二五	五	一〇六
二五	六	一〇六
三三	二	三
三三	四	五
三四	一	六
三四	二	八二
三四	六	三七

- ハ果シテ其代表者ノ爲シタルモノナルヤ否ヤハ全ク事實上ノ問題トシテ裁判所カ自由ノ心證ヲ以テ判斷スヘキ事項ニ屬ス
- 裁判所ノ職權調査ニ屬スル事項ニ付テハ當事者ノ特ニ援用セサル證據ト雖モ訴訟記録上明白ナル事實ノ存スルトキハ裁判所ハ之ヲ資料トシテ判斷ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
- 民法第九十二條ニ謂フ過失ノ有無ハ事實裁判所カ各場合ニ於テ事實上ノ問題トシテ判定スヘキ事項ニ屬ス
- 貨物引換證ニ運送賃ヲ記載スル必要アルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニ屬スルモノニシテ承審官カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ非ス
- 里程ノ如キハ其性質上裁判所ノ事實判斷ヲ以テ之ヲ左右シ得ヘキモノニ非ス
- 故障期間懈怠ノ當時訴訟代理人ニ於テ如何ナル注意ヲ必要トスルヤ又其注意ヲ缺カサリシヤ否ヤハ場合ト情況トニ從ヒ事實裁判所ノ裁量ヲ以テ自由ニ判定スヘキ事項ニ屬シ法律上ノ問題ニ非ス
- 證據ノ取捨ハ一ニ事實裁判所ノ心證判斷ニ屬スルモノニシテ該判斷ニ對シテハ其心證ノ因テ生シタル理由ヲ説示スルノ責ヲ負フモノニ非ス
- 舊縣廳カ庄屋ニ土地ヲ付與スルニ當リ之ニ一ノ負擔ヲ加ヘタルハ條理

三五	七	五
三五	九	八一
三五	一〇	一
三五	一〇	一
三五	一〇	八
三六	一	一
三六	二	二六
三六	三	八〇元

ニ背反セル處置ナリト假定スルモ條理ニ適合セサル事實ハ存在シ得サルモノニ非サルヲ以テ之カ存在ヲ認定シタレハトテ其認定ヲ目シテ條理ニ背反セリト云フヲ得ス

○契約ノ各條項ノ果シテ分離スルヲ得ルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニ屬ス

○法律上債務ヲ負擔セサルコトヲ知リ乍ラ其辨濟ノ名義ヲ以テ金錢ヲ給付シタル場合ニ於テ他ニ何等ノ證據ノ存セサルトキハ債務ノ辨濟トシテ之ヲ爲シタルニ非スシテ無償ノ給付ヲ爲スノ意思ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト認定スルモ不法ト謂フヲ得ス

○立證ハ當事者一方ノ權利ニ非スシテ寧ロ雙方ノ權利ナリ而シテ原告若クハ被告カ互ニ證據ヲ提出シタル場合ニ於テ其間適切ト思料スルモノヲ選擇シ之ヲ採用シテ係爭事實ノ眞否ヲ判斷スルハ裁判所ノ自由ニシテ固ヨリ法ノ禁スル所ニ非ス

○賣買ノ豫約者ニ對シ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ノ表示方法ニ付テハ法律上形式ヲ要スヘキ明文ナケレハ其意思ヲ表示シタルヤ否ヤハ全ク事實上ノ問題ニ屬スルモノトス

○契約書ノ旨趣ヲ解釋シ又或行爲ヲ履行シタルヤ否ヤヲ認ムルカ如キハ專ラ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノトス

三六	二三五
三七	二二五
三八	二二五
三九	二二五
四〇	二二五
四一	二二五
四二	二二五
四三	二二五
四四	二二五
四五	二二五
四六	二二五
四七	二二五
四八	二二五
四九	二二五
五〇	二二五
五一	二二五
五二	二二五
五三	二二五
五四	二二五
五五	二二五
五六	二二五
五七	二二五
五八	二二五
五九	二二五
六〇	二二五
六一	二二五
六二	二二五
六三	二二五
六四	二二五
六五	二二五
六六	二二五
六七	二二五
六八	二二五
六九	二二五
七〇	二二五
七一	二二五
七二	二二五
七三	二二五
七四	二二五
七五	二二五
七六	二二五
七七	二二五
七八	二二五
七九	二二五
八〇	二二五
八一	二二五
八二	二二五
八三	二二五
八四	二二五
八五	二二五
八六	二二五
八七	二二五
八八	二二五
八九	二二五
九〇	二二五
九一	二二五
九二	二二五
九三	二二五
九四	二二五
九五	二二五
九六	二二五
九七	二二五
九八	二二五
九九	二二五
一〇〇	二二五

○府縣ノ工事入札請負規則ハ其府縣ノ工事ニ付キ民法上ノ請負契約ヲ爲ス者ノ遵守スヘキ條項ヲ表示シタルモノニシテ固ヨリ法令ノ性質ヲ有セサレハ該規則ノ解釋ハ契約事項ノ解釋ト同シク事實裁判所ノ專權ニ屬スルモノトス

○暴風カ同一程度ノ力ヲ以テ同時ニ數里ニ涉リテ吹クコトハ往往之アル所ナレハ甲地ノ風力ヲ證明スルニハ附近乙地ニ於ケル被害ノ事實ヲ以テスルコトヲ得ヘク必スシモ甲地ニ於ケル被害ノ事實ニ依ラサルヘカラサルモノニ非ス

○家屋カ一部焼失シ一部殘存スル場合ニ於テハ其程度形狀如何ニ依リ法律上或ハ之ヲ家屋ト認メ或ハ之ヲ家屋ニ非スト認ムヘキモノナレハ其殘存部分ノミニテハ家屋トシテノ存在ヲ失フモノト斷定スルニハ先ツ殘存ノ程度形狀如何ヲ判示セサルヘカラス

○既知ノ事實ニ依リ未知ノ事實ヲ推定スルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス從テ其推定ニ不服ヲ唱ヘテ上告ノ理由トスルヲ得ス

○特定ノ物件カ賣主ヨリ更ニ他人ニ賣却セラレ又其他人ヨリ他人ニ輾轉シタル場合ニ於テハ縱令其物件未タ滅失ニ歸セサルトキト雖モ之カ所在ヲ知了シ能ハサルコトナキニ非サレハ必スシモ常ニ其賣主カ之ヲ取

三六	六九〇
三七	六九〇
三八	六九〇
三九	六九〇
四〇	六九〇
四一	六九〇
四二	六九〇
四三	六九〇
四四	六九〇
四五	六九〇
四六	六九〇
四七	六九〇
四八	六九〇
四九	六九〇
五〇	六九〇
五一	六九〇
五二	六九〇
五三	六九〇
五四	六九〇
五五	六九〇
五六	六九〇
五七	六九〇
五八	六九〇
五九	六九〇
六〇	六九〇
六一	六九〇
六二	六九〇
六三	六九〇
六四	六九〇
六五	六九〇
六六	六九〇
六七	六九〇
六八	六九〇
六九	六九〇
七〇	六九〇
七一	六九〇
七二	六九〇
七三	六九〇
七四	六九〇
七五	六九〇
七六	六九〇
七七	六九〇
七八	六九〇
七九	六九〇
八〇	六九〇
八一	六九〇
八二	六九〇
八三	六九〇
八四	六九〇
八五	六九〇
八六	六九〇
八七	六九〇
八八	六九〇
八九	六九〇
九〇	六九〇
九一	六九〇
九二	六九〇
九三	六九〇
九四	六九〇
九五	六九〇
九六	六九〇
九七	六九〇
九八	六九〇
九九	六九〇
一〇〇	六九〇

- 得シテ買主ニ引渡スコトヲ得ルモノト云フヘカラス從テ其引渡ノ可能ナルヤ否ヤハ裁判所ノ事實認定權ニ屬スルモノトス
- 本人ノ或行爲カ代理人ノ行爲ヲ追認シタルモノナルヤ否ヤヲ定ムルハ事實ノ認定ニ外ナラス
- 法例第七條ヲ適用スル場合ニ於テ法律行爲ノ成立及ヒ效力ニ付キ何レノ國ノ法律ニ從フヘキカヲ定ムルニハ契約當事者ノ意思如何ヲ審究セサルヘカラス而シテ之ヲ審究スルコトハ事實問題ニ屬スルモノトス
- 衆議院議員ノ選舉訴訟ニ於テ同選舉法第八條第二號ノ選舉人カ其選舉區内ニ住所ヲ有スルヤ否ヤヲ判定スルハ專ラ事實承審官ノ職權ニ屬ス
- 錯誤ノ問題ハ當事者ノ意思表示カ其眞意ト一致シタルヤ否ヤニ關スルモノナレハ當事者ヨリ該事實ヲ主張セサル以上ハ裁判所ニ於テ其有無ヲ判定スヘキモノニ非ス
- 證據調ノ申請者ニ於テ殊更ニ其證據調ノ結果ヲ自己ノ利益ニ援用スル旨ヲ申立テサルモ裁判所ハ之ヲ以テ申請者ノ爲メニ證據ト爲スコトヲ得ヘシ
- 裁判所カ或事實ニ因リテ他ノ事實アリトスル推定ハ廣義ニ於ケル證據ニ外ナラス

三	三	三	三	三	三	三
二〇三	二六五	一八〇六	二八六	八五四	二三八	二九八

○事實承審官ニ於テ當事者ノ供述ノ一部ヲ信用シ他ノ部分ヲ信用セサルトキハ其一部ヲ採用シ他ノ部分ヲ排斥スルコトヲ得

(同主旨)

事實裁判所ハ當事者ノ主張シタル事實ノ範圍内ニ於テ自由ニ事實ノ認定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

- 債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知り乍ラ賣買ヲ爲シタル場合ニ於テ賣買代金時價以上ニ相當シ且其授受アリタルカ如キコトハ必スシモ常ニ之ヲ以テ其詐害ノ事情ニ付キ買受人ノ善意ナリシコトヲ當然推定スヘキモノニ非スト雖モ事件ノ情狀ニ依リ此等ノ事實ヲ以テ其善意ヲ認ムルノ資料ニ供スルコトヲ妨ケス
- 地上權者カ目的地ノ加工改善ヲ爲シタル如キ事實アル場合ニ於テ土地所有者ノ變更セル後公租公課ノ増加等ニ因リ地代ヲ増加スヘキトキ尙ホ之ヲ斟酌スルノ慣行アリヤ否ヤノ問題ハ事實判斷ノ範圍ニ屬スルモノトス
- 民法施行法ニ依リ代人規則ノ廢止セラレタル後ハ法律上總理代人ト稱スル者ナケレハ縱令民間ニ於テ舊慣ニ從ヒ此名稱ヲ用キテ代人ヲ任スコトアルモ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ授權關係ヲ審究シ其權限ノ範

三	三	三	三
二	二	二	二
二五二	二七二	二七二	二七二

○園ヲ判断スルコトヲ得ルモノトス

○家ニ存在スル財産ハ一應其戸主ノ所有ト認ムヘキモノナリ

○或生命保険業者ニ契約ノ申込ヲ爲シ若干期間ヲ経過スルモ承諾ノ通知ナキ場合ニ於テ之ヲ契約ノ拒絶ト認ムヘキヤ否ヤハ全然事實問題ニ屬スルモノトス

○確定判決ト雖モ一事不再理ノ原則ニ適合スルモノニ非サル以上ハ裁判所ハ之ニ羈束セラルヘキモノニ非ス從テ一般ノ證據ト等シク之カ判断ヲ爲シ得ヘキモノトス

(同五言)

同一ノ探證法ヲ以テ同一ノ斷定ヲ下スニ非サル限りハ裁判所ハ他ノ裁判ニ羈束セラルルモノニ非ス

裁判上既ニ確定シタル事實ハ之ヲ争フコトヲ得ス

裁判官ハ證據調ノ結果ニ就キ他ノ判決ニ羈束サルコトナク自由ナル心證ヲ以テ判断スルノ權アリ

○既ニ死亡シタル者ノ氏名ヲ答辯書及ヒ委任狀等ニ記入調印シテ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所亦其死亡者ニ對シテ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ其判決タル死亡者ノ相續人ニ對シ何等ノ效果ヲ生セス

○寺院ニ對スル訴訟ニ付キ住職ニ非サル者ニ爲シタル訴狀ノ送達ハ實質

四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
五三	八七	九五	一九	二二	二二	二二

上送達ノ效ナシト雖モ其者ニ於テ寺院ノ代表者トシテ應訴シ裁判ヲ受

ケ其裁判確定シタルトキハ形式上寺院ニ對シ確定力ヲ生スルモノトス

○民事裁判上當事者ノ提出スル刑事判決書ハ固ヨリ一ノ書證ニ過キサルヲ以テ民事訴訟法第二百十七條ニ規定ノ探證自由ノ原則ノ適用ヲ制限スル規定アルニ非サレハ刑事判決ニ依リ確定シタル事實ニ反スル判断ヲ下ス妨ケトナルモノニ非ス

(反對)

民事裁判所カ刑事ノ確定判決ニ依據スルハ犯罪ノ性質若クハ罪責等ノ事柄ニ限ル

民事ノ判決ハ犯罪ノ眞實犯罪ノ性質及ヒ被告ノ罪責ニ付キ刑事ノ判決ニ羈束セラルルモ無罪ヲ言渡シタル判決ニ羈束セラルル事ナシ

民事ノ判決ハ刑事判決ニ於テ確定シタル犯罪所爲ノ眞實其犯罪ノ性質被告人ノ罪責等ニ羈束セラルルモノトス

刑事裁判ハ犯罪ノ性質被告人ノ罪責ニ付キ裁判シタル場合ニ非サレハ民事裁判ニ其既判力及ホスヘキモノニ非ス

刑事ノ判決カ民事ノ判決ヲ羈束スルハ犯罪ノ眞實犯罪ノ性質及ヒ被告人ノ罪責ニ限ルモノトス

○刑事判決ノ確定シタル場合ト雖モ其判決ト異ナリタル事實ヲ眞實ナリト認ムヘカラストノ法規存在セサルカ故ニ民事裁判所ハ尙ホ自由ナル

三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
九	九	九	九	九	九	九
四	四	四	四	四	四	四

心證ヲ以テ事實ノ眞否ヲ判斷スヘク刑事判決ニ羈束セラルヘキモノニ非ス

○請求ノ原因アリトノ中間判決アリタルトキハ爾後其數額ニ付キ裁判ヲ爲スニ當リ其中間判決ニ羈束セラレ該判決ヲ無效視スルヲ得スト雖モ原因アリトノ判決アレハ絶對的ニ其請求ノ數額幾分ノ存在ヲ認メサルヲ得サルノ限ニ在ラス

○刑事裁判所カ犯罪ノ證據十分ナラサルコトヲ理由トシ無罪ノ判決ヲ爲シタル場合ニ於テ民事裁判所カ同一ノ資料ヲ憑據トシテ犯罪行爲ヲ構成スヘキ事實アルコトヲ認定スルモ之ヲ以テ既判力ノ法則ニ戻ルモノト云フヲ得ス

(同主旨)

判決ノ理由中ニ認定シタル事實ハ確定ノ效力ヲ有セスト雖モ事實裁判官ノ心證判斷ニ委スヘキ證據トシテハ之ヲ提出スルヲ得ヘシ故ニ原院カ其事實ヲ認定シタルハ違法ニ非ス證據不充分ナリトシテ無罪ヲ言渡シタル刑事ノ判決ハ民事ノ裁判ヲ羈束セス刑事ノ確定判決ハ一箇ノ證據トシテ判斷ノ資料ニ供スルハ格別ナルモ民事裁判所ハ之ニ羈束セラレサルモノトス

○裁判上ノ自白ハ之ヲ爲シタルモノニ對シ完全ナル證據力ヲ有スルモ裁判外ノ自白ハ必スシモ證據ノ效力ヲ有スルモノニ非ス

三五	二七	三	三	三五
一〇	四	一	五	一〇
三	二七	三	七〇	三

○自白ハ同一事件同法廷若クハ其二審ニ於テ效力ヲ有スルモ別件又ハ他ノ裁判所ニ於テハ之カ效力ヲ有セス

○訴訟當事者ノ一方カ訴外者ニ對シテ別訴訟ニ於テ爲シタル事實上ノ陳述ハ他ノ一方ニ對シ裁判上ノ自白タル效力ヲ有セス

○裁判上ノ自白ハ口頭辯論ノ經過中ニ發生シタルモノニ限り單ニ準備書面中ニ存在スル自白ノ如キハ裁判外ノモノニ屬ス

○裁判上ノ自白アルトキハ其自白セラレタル事實ハ例外ノ場合ヲ除ク外法理上常ニ必ス確實ナルモノト看做スヘク裁判所モ亦自白ノ存スル限リハ之ニ從テ裁判ヲ爲ササルヘカラサルモノナルニ依リ此場合ニ於テ對手人ハ他ノ證明ヲ爲スノ責任ナシ

(同主旨)

裁判上ノ自白ハ例外ノ場合ヲ除クノ外法理上常ニ必ス確實ナルモノト看做スヘク隨テ裁判所モ亦自白ノ存スル限リハ之ヲ無視スルコトヲ得ス對手人ハ他ノ證明ヲ爲スニ及ハス唯其自白ノミチ以テ充分ニ證明スルコトヲ得ルモノトス

○當事者カ錯誤ニ因リテ自白ヲ爲シタル場合ニハ反對ノ規定アラサル限ハ其取消ヲ許ササルヘカラス

(同主旨)

自白ハ法律上有效ノ意思表示タルヲ要ス從テ錯誤ニ基ク自白ハ之ヲ取消シ得ヘキモノトス

二元	三元	二元	三元	二元
四	一八五	五	三	六
一	二八五	四	一八三	五七

錯誤ニ出テタル自白ハ之ヲ取消スコトヲ得
裁判上ノ自白ト雖モ錯誤ニ出テタルトキハ之ヲ取消シ得ルモノトス

- 民事訴訟法ニ所謂自白トハ當事者ノ一方カ爲シタル陳述ニシテ權利ノ存在又ハ不存在ニ關スル事實上ノ主張ニ對シ他方ノ當事者ニ於テ其主張事實ノ眞實ノ承認ヲ言明スル意思表示ヲ指稱シ當事者カ自己ニ不利益ナル事實ヲ陳述シタル總テノ場合ヲ包含スルモノニ非ス
- 豫審調書ノ如キ私文ト異ナルモノハ縱令當事者ノ一方之ヲ認メスト云フモ探テ事實認定ノ材料ト爲スコトヲ得
- 公正證書ノ明文ニ反對スル事實ノ證明ナキ以上ハ其公正證書ニ依リ事實ヲ確定シタルハ至當ナリ
- 公正證書ハ正當ノ方式ヲ遵奉シテ作成シタルモノナリト雖モ公吏カ當事者ヨリ託セラレタル事實ヲ證スルニ過キサレハ裁判官ニ於テ該書ノ成立セシ事實ヲ調査シ不正ノ成立ニ係ル事實ヲ認メタル以上ハ別ニ證據ヲ要セス之ヲ無効ト爲スコトヲ得ヘシ
- 判決、決定書ノ如キ書面其モノハ公正證書タル勿論ナレハ乃チ某證中ニ記載セラレタル或事項即チ曾テ某氏カ刑事ノ訴追ヲ受ケ被上告會社ニ不利益ノ供述ヲ爲シタリトノ點ニ就テハ證據ト爲ルヘキモ其刑事ノ

三〇	三	三	三	三	三	三
三六	二	二	二	二	二	二
二四	一	一	一	一	一	一
二九	八	八	八	八	八	八
二六	二	二	二	二	二	二
二六	二	二	二	二	二	二
二六	二	二	二	二	二	二

- 被告八等カ隨意ニ爲シタル供述ハ法律上第三者タル被上告會社ニ義務ヲ負ハシムヘキ證據力ヲ有スルモノト論定スヘカラス
- 戸長ノ公證若クハ登記ノ如キハ當事者間ニ於テハ反對ノ證據ニ依リ其效力ヲ滅却スルコトヲ得ルト雖モ第三者ニ對スル關係ニ付テハ法律上當然不成立ニ歸スヘキ原因アルニ非サレハ其效力ヲ失ハセ得ヘキモノニ非ス
- 當事者ノ否認ニ依テ公簿ノ證據力ヲ抹殺シ得ルモノノ如ク判斷シタルハ不法ヲ免レス
- 村役場備附ノ印鑑ハ單ニ其印鑑提出者ノ否認ヲ以テ信憑力ヲ失フモノニ非ス
- 縣廳ノ訓令若クハ戸長ノ證明書ハ當事者ノ否認ニ因リ其效力ニ輕重アルヘキモノニ非ス
- 村長カ其職務上所管ノ公簿ニ依リ調査ノ結果ヲ記述セシ書面ハ村役場ノ公印押捺ナキモ其成立ヲ認メタル者ニ對シ法律上證據力ヲ有ス
- 村長カ一己ノ想像ヲ記述シタル證明書ハ法律上證據タルノ價值ヲ有セス
- 村會ノ議決書ハ公文書ナルカ故ニ對手人ニ於テ偽造若クハ變造ナリト

元	元	元	元	元	元	元
四	四	四	三	四	四	四
七	五	三	五	〇〇	〇	六
七	五	三	五	〇〇	〇	六
七	五	三	五	〇〇	〇	六
七	五	三	五	〇〇	〇	六
七	五	三	五	〇〇	〇	六

シテ其眞否確定ノ申立ヲ爲サス從テ裁判所カ之ヲ偽造若クハ變造ナリト認メサリシトキハ其議決書ニ記載ノ事實ハ眞正ノ事實ナリト爲ササルヘカラス

○公ノ役場ニ保存シアル圖書ト雖モ概シテ完全ノ證據力ヲ有セス故ニ下調等ニ屬シ未タ完備セサルモノニ對シテハ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其效力ノ有無ヲ判スルコトヲ得

○裁判所ノ發付スル正本又ハ謄本ノ信憑力ハ法律上其原本ト同一ナリトノ推定ヲ受クルニ在リテ原本ニ對シ獨立ノ效力ヲ有スルモノニ非ス

○陸軍省等ノ指令ハ法律ノ效力ナキヲ以テ其取捨ハ裁判官ノ自由ナリ

○公正證書成立後ニ不必要ノ記入ヲ爲スモ其證書全部ノ無效ヲ來サス

○戶籍及ヒ人別ニ關スル事項ハ當然村長カ管理スヘキモノナルヲ以テ之ニ對スル事實ノ證明ハ有效ナリ

(同主旨)

公正ノ證書ヲ以テ證明シタル後見人ハ法律上有效ニ認ムヘキモノナリ

戶籍ハ身分ヲ證スル公正ノ簿冊ナルヲ以テ其記事ノ虛構ヲ證示セサル限りハ戶籍ニ依據シテ人ノ身分ヲ定メサルヘカラス

人ノ身分ヲ證スル公正ノ帳簿ナル戶籍ニ依リ親子ノ關係ヲ認メタル原院判決ハ適當ナリ

○公證ノ形式ヲ具備セル書入證文ハ偽造若クハ變造ノ證明アルマテハ一

二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
四	五	六	八	二	二	二
八七	一六	八九	八	二	二	二

應債務者ノ承諾上公證ヲ受ケタルモノト推測スヘキモノトス

(同主旨)

村役人ノ與書又ハ裏書アル不動産買入又ハ書入ノ證書ハ登記法發布以前ニ於テ戶長ノ公證シタル契約書ト同シク反證アラサル限りハ裁判上證據トシテ採用セサルヘカラス然ルニ原院カ上告人ノ提出セル村役人ノ裏書アル證書ノ眞否ヲ審究セス之ヲ一己人ノ私證書ト同視シ被上告人ノ否認シタルノミナリ理由トシテ上告人ノ證據方法ヲ排斥シタルハ採證ノ法則ニ違背セル裁判ナリ(第八節三四年五卷一〇〇頁參照)

○公正證書ヲ以テ約シタル事項ノ變更ヲ證スルニハ必スシモ公正證書ヲ以テセサルヘカラサルノ法規ナキヲ以テ如何ナル證據方法ニ依ルモ妨ケナシトス

○戶籍吏ハ戶籍簿ノ記載事項ニ關シ事實ノ判斷ヲ爲シテ證明ヲ爲スノ權限ヲ有セス故ニ出生年月日ニ關シ戶籍吏自身ノ判斷ニ依レル事實ヲ掲載シタル書面ハ何等ノ證據力ナシトス

○公文書記載ノ事項ト雖モ法律ノ規定ニ依リ公吏若クハ官吏カ特ニ無資力ヲ證明スル爲メニ作成シタル文書ニ非サルヨリハ之ヲ以テ争ニ係ル無資力ノ事實ヲ認定スルニ足ルヤ否ヤヲ決スルハ事實裁判官ノ自由判斷ニ屬スルモノトス(第八節三四年一卷一頁參照)

(同主旨)

三元	三元	三元	二元	三元
五	九	三	七	九
三	六	一四	五〇	五

登記簿上會社ノ代表社員トシテ記載シアルモ此一事ヲ以テ實際ノ代理者ヲ認ムルノ根據ト爲スニ足ラス又同會社カ其引繼ヲ受クルニ付キ有效ニ代理セラレタルヤ否ヤヲ決スルニハ先ツ何人カ實際其代理ヲ爲シタルカヲ定メサルヘカラス

○帝國圖書館ニ於テ某圖書ヲ某年某月日ヨリ公衆ノ閱覽ニ供シタルコトヲ證明スルカ如キハ官署カ管掌ニ係ル事項ヲ證明シタル一ノ官文書ナリトス從テ其眞否ヲ判斷シ之ヲ取捨スルハ固ヨリ裁判所ノ自由ナレトモ該證明書ヲ權限外ノ作成トシテ排斥シタルハ不法ナリ

○舊登記法實施以前ノ法規ニ從ヒ戸長ノ公證ヲ經タル證書ハ署名者ヨリ其證書ヲ戸長役場ニ差出シ戸長ノ奧書割印ヲ受クル等制規ノ手續ヲ踐ミタル後之ヲ當事者間ニ授受スヘキモノニシテ一應其成立ノ真正ナルコトヲ推定スルニ足ルモノトス

(同三三)

戸長ノ證明書ハ當事者ノ認否ニ依リ其效力ヲ左右セラルルモノニ非ス
戸長ノ公證アル地所建物書入金子借用證書ハ公正證書タリ故ニ相手方ノ否認ニ因リ其效力ヲ失フモノニ非ス

○公吏ノ作成シタル管掌ノ文書ト雖モ其作成ノ眞實ナルコトニ付テノミ

三	二元	三元	三元	三元
五	九			
一一九	八	二〇七	九六〇	一九三

裁判所ヲ羈束スヘキモノニシテ其記載ノ内容カ果シテ眞正ノ事實ナルヤ否ヤヲ判斷スルハ専ラ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノトス

(同三四)

上告人カ地租改正ノ際相當吏員ノ職權ヲ以テ調製シタル一村ノ圖面ニ錯誤アルコトヲ主張セント欲セハ先ツ行政手續上圖面ノ訂正ヲ求メサルヘカラスト論告スレトモ原院ハ其圖面ニ記載スル道形ヲ誤認ナリトシテ非認シタルニ非ス從來道敷アルコトヲ證スルニ足ラストシテ之ヲ排斥シタルニ過キス之ヲ排斥スルニ付テノ理由トシテ地主總代ノ陳言等ヲ以テスルニ於テハ縱令公文書ト雖モ司法裁判上之ヲ取捨スルヲ得ヘシ

村助役カ證明シタル繪圖面カ粗製ニシテ其記入間數ニ少差ナキヲ保シ難キ場合ト雖モ該圖自體ヲ眞正ナリト認ムルトノ説明ハ相當ナリ
公正證書ト私署證書トノ中ニ記載ノ金高符合セサル場合ニ於テ其何レカ事實ニ適スルヤヲ定ムルハ事實裁判官ノ自由タリ

公正證書記載ノ事項ニ付キ事實裁判所カ證人ノ證言又ハ其他ノ狀況證據ニ依リ之ト反對ノ事實ヲ認ムルモ不當ニ非ス
戸長カ職權上認證セル證書ナリト雖モ信用スルニ足ラサル理由存スルトキハ之ヲ排斥スルコトヲ得

公正證書ハ形式的確實ナリトスルモ尙ホ實質的不確實ナルコトアルヲ免カレサルモノナレハ裁判所ハ其記載事項ノ裏面ニ存スル事實ノ眞否ニ付テハ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ判斷スルコトヲ得
公正證書ト雖モ其内容タル約旨ニ付キ事實裁判所ハ自由ナル心證ニ依リ其事實ヲ判斷シ得ヘ

三〇	三〇	三〇	二元	二元	二元	三元
三	三	一	九	一	一	一一三六
一一九	一〇九	一〇	三三	二〇	一六三	

- 代人ノ作リタル證書ニシテ本人ノ名義ヲ用ヒサルトキハ必ス無効ナリトノ規定ナシ
- 計算書ハ證書トシテ提出シタルモノニ非サルトキハ作製者ノ如何ニ由テ效力ニ消長ヲ來スモノニ非ス
- 銀行ノ頭取及ヒ株主總代兼ノ肩書ヲ附シテ取締役支配人之ニ連署シ銀行ノ印章ヲ押捺シタル證書ハ完全ナル契約書ナリト認メナカラ之ヲ無効ノ契約ト認定スルニハ確實ナル反證ヲ舉クルカ又ハ他ニ相當ノ理由ナカルヘカラス然ルニ該銀行ノ考課狀ニ該契約ヲ締結スヘキ議決ノ記載ナキヲ唯一ノ理由トシテ該契約ハ株主總會ノ議決ヲ經サルモノト爲シ該證ノ契約ヲ無効ナリト認定シテ判決ヲ下シタルハ探證ノ法則ニ違背シテ事實ヲ確定シタル違法ノ裁判ナリ
- 計算書中自己ニ不利益ナル部分ヲ認メ利益ナル部分ヲ認メサルモ之カ爲メニ自認不可分ノ原則ニ反スルモノト云フヲ得ス
- 對手人ノ否認スル私署證書ノ取捨ハ裁判所ノ自由ニ屬ス
- 契約證書ノ占有者ハ單ニ其占有ノ事實ノミヲ以テ契約ノ當事者若クハ其代理者タルコトヲ證スルニ足ラス
- 私署證書中其記名及ヒ名下ノ印影ヲ記名者ニ於テ眞實ト認ムルトキハ

二五	二六	二六	二六	二九
一	二	三	二	二
七五	九一	七三	一六	五五

- 縱令其用紙數葉ヨリ成立ツトキト雖モ一應ノ推測上證書ノ全部カ記名者ノ承諾上成立シタルモノト看做スヘキモノトス
- 證書ノ成立ヲ認メサル者ハ其解釋ヲ爲ス必要ナク從テ之ニ付キ意見ヲ述ヘサルモ舉證者ノ解釋ニ同意シタルモノト云フヲ得ス故ニ裁判所ハ其解釋ニ付キ舉證者ノ意見ニ羈束セラレサルモノトス
- 證書ヲ以テ眞正ナリト爲ストキハ之カ記載事項モ亦眞正ト爲スヲ當然トス
- 往時ニ在テハ私權ニ關スル文書ノ作成ニ付キ法規上一定ノ方式ナシト雖モ其眞實ヲ保證スル爲メ之ニ記名調印スルハ我邦古來ノ慣行ナリ故ニ官吏公吏ノ記名アル書面ト雖モ之ニ調印ヲ缺クカ又ハ記名者ノ印章ニ相違ナキコトヲ證明シ得サルモノニ付テハ裁判官ハ自由ナル心證ヲ以テ其眞否ヲ決スルコトヲ得
- 私署證書ノ日附ニ關スル爭ニ就テハ法律上裁判官ヲ羈束スヘキ規定ナキニ依リ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其爭ヲ決スルコトヲ得

(同左頁)

私署證書ノ成立ニ付キ爭ナク但其日附ノミニ付キ第三者ヨリ爭アルトキハ事實裁判所ハ其法律ニ照ハレタル事實ニ依リ其眞否ヲ判斷スルノ職權アルモノトセサルヲ得ス何トナレハ法律

二九	三〇	二九	三〇
四	四	七	四
五	六	七	八

上私署證書ノ日附ヲ確定セシムルノ手續ヲ規定シ以テ事實裁判所ノ判斷ヲ拘束スルモノナク
レハナリ
證書ノ成立ヲ認め單ニ其期限ノ文字ニ變更アリトシテ争フ場合ニ於テハ檢査ノ手續ニ由ルチ
要セス

○一紙ノ證書中其一部ノ事項カ不實ナルモ當事者ノ立證ニ供シタル他ノ
事項カ眞實ナリト認め得ヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ其眞實ナル一部ヲ
採用シテ斷案ノ材料ト爲スコトヲ得

○事實裁判所ハ事情ニ依リ契約ノ眞意ト其契約書ノ明文トカ相符合セサ
ルモノト認ムルトキハ其明文ニ反シテ契約ノ旨趣ヲ解釋スルコトヲ得
ヘシ

(同主旨)

心證ニ從ヒ事實ノ眞否ヲ判斷スルハ裁判官ノ職權ナルヲ以テ證書上如何ナル明文アルモ心證
ニ依リ之ニ反スル事實ヲ認めタル以上ハ其明文ニ羈束セラルヘキモノニ非ス

○明治十年第五十號布告ハ本人ノ署名アルモ其捺印ナキ契約證書ヲ以テ
全ク證據力ナキ旨ヲ規定シタルモノニ非ス

○印影ノ眞否ニ關スル意見ヲ憑據トシテ私署證書ノ成立ヲ眞正ナルモノ
ト認めタル裁判ハ不法ナリ

○第三者間ニ成立セシ證書ハ訴訟當事者ヲ羈束スルヲ得ス

三七	三〇	三〇	三三	三三	三三	三三	三三
一七五	二四	九	二	二	二	二	二
二七	五〇	九	五	八	二七	二七	二七

○二箇ノ私證書ハ法律上其證據力ニ優劣ナシ然レトモ其證書中何レニ信
用ヲ置クニ足ルヘキヤヲ判斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

○米穀預リ證券ノ發行ニ關シ當時法律上特ニ制限シタル規定ナキニ付キ
裁判所カ其證書ノ文詞ヲ解釋シテ流通證券ナリト認定スルモ違法ニ非
ス

○當事者ノ一方カ自ラ作成シタル證書ト雖モ法令ニ於テ制限セサル限り
ハ裁判所ハ事實推定ノ資料ニ供スルコトヲ得

(同主旨)

當事者一方ノ手ニ成リタル帳簿ヲ以テ心證判斷ノ材料ニ供スルモノ不法ニ非ス
争アル私署證書ニシテ檢査ノ申立ナキモノト雖モ舉證者ニ於テ之ヲ確ムル爲メ他ノ證據方法
ヲ申出タル場合ニハ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ之カ判斷ヲ爲ササルヘカラス

相手方ノ認めサル私署證書ニシテ檢査ノ經サレモノト雖モ絕對的證據力ナシト云フヲ得ス
相手方カ私署證書ヲ認めサル場合ニ於テ舉證者ハ檢査ノ申立ヲ爲ササルモ其證書ノ印影及ヒ
筆蹟ハ相手方ノ訴訟委任狀ト同一ナルコトヲ主張シタルトキハ裁判所ハ其異同ヲ鑑別シ其證
書ノ眞否ヲ判斷セサルヘカラス

相手方カ私署證書ノ署名印影ヲ認めタル場合ニ檢査ノ申立ナキヲ以テ證據トシテ之ヲ採用ス
ルニ足ラスト判示シタルハ不法ナリ

(反對)

躬ヲ隨意ニ調製シタル書類ノ相手人ニ對シ法律上何等ノ效力ヲ生セサルモノト相手人ニ直接

三三	三三	二九	二九	二六	三三	三三	三三
一	九	六	四	五	三	三	一
四七	五	一五	一四	五	一三	六	二六

ノ關係ナキモノト採テ以テ鑑定ノ材料ニ供シタルハ探證ノ法則ニ違背シタルモノナリ
當事者ノ一方カ認メサル私證書ハ檢眞又ハ他ノ證憑ニ基キ其眞否ヲ決定シタル上ニ非サレハ
直ニ採テ眞正ノ證書ト做スヘカラス
第二審ニ在テ新ニ提出スル所ノ私署證書ハ對手者カ絶對的ニ之ヲ認メサリシコト原院調書ニ
於テ判明ナレハ該證記載ノ事實ヲ以テ本案判決ノ材料ト爲サンニハ必ス民事訴訟法ノ規定ニ
據テ檢眞ヲ經ルカ然ラサレハ之ヲ眞正ト認ムル所以ヲ判斷セサルヘカラス
相手方ノ非認スル證書ヲ眞正ナリト認定スルニハ相手方ノ認ムル書類ノ手跡若クハ印章ト對
照シ又ハ其他ノ證據ニ依リ眞正ナリトノ心證ヲ得ルコトヲ要シ相手方ノ非認スル書類トノ對
照ニ依リ該心證ヲ得ルコトヲ得ス

○公正證書ニ非サル證書カ眞正ニ成立シタリト推定セラレタル場合ト雖
モ第三者ニ對シ其日附モ眞正ナリト推定セラルヘキ法律ノ規定並ニ條
理ナシ

○確定日附アル證書成立ノ眞否ハ事實裁判所ノ判斷ニ一任スヘキモノニ
非スト雖モ其内容タル約旨ノ假裝ナリヤ否ヤニ至リテハ自由ナル心證
ニ依リ之ヲ判斷シ得ヘキモノトス

○確定日附ナキ私署證書ハ確定日附ナケレハ第三者ニ對シテ效力ナキコ
トノ規定アル場合ノ外其證書ノミヲ以テハ其日附ニ付キ完全ナル證據
カヲ有セサルモノニシテ他ノ事實若クハ證據ニ依リ證據力ノ有無ヲ判

定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬シ確定日附ナキ私署證書ヲ絶對ニ無效
トスヘキモノニ非ス

(參照)

明治六年第二百十二號布告ハ明治八年司法省甲第一號布達ト相俟テ解釋スヘキモノニシテ同
達ニ依レハ證書中年月日ノ略記アルモノハ時期ノ早晚ヲ定ムルニ付キ證據トナラストノ精神
ニ外ナラス故ニ日附ナキ證書ハ絶對的其成立ヲ爭フヲ得ス又ハ裁判所ニ提出シタル日ヲ以テ
其成立ノ時期ナリト定ムヘシトノ旨趣ニ解スヘキモノニ非ス

○私署證書ノ捺印カ署名者ノ實印ナリトスルモ他ニ其證書カ眞正ニ成立
シタルニ非サルコトヲ證スルモノアルトキハ裁判所ハ其印影ノ盜捺又
ハ捺印セル白紙ノ濫用等ノ證據ナキニ拘ハラズ該私署證書ヲ眞正ナラ
サルモノト認定スルコトヲ得ヘシ

○民法實施以前ニ作成セラレタル證書ノ日附ニ付テハ其證據力ニ關シ何
等ノ規定ナキヲ以テ全ク裁判官ノ心證判斷ニ委セラレタルモノトス
○裁判所ハ私署證書ノ眞否ヲ判斷スルニ當リ該證ニ押捺シアル署名者名
下ノ印章眞實ナルモ他ニ其成立ノ眞實ト認ムヘカラサル事情アルトキ
ハ之ニ因リ其成立ヲ眞實ナラスト認定スルコトヲ得

○手形債務者ハ其自ラ手形ニ記載シタル文言ト其因テ以テ表示セント欲
シタル意思ト相符セサル場合ニ於テモ亦其文言ニ從ヒテ責任ヲ負ハサ

二五	三
二六	二七
二七	二八
二七	二九
三〇	三〇
三一	三一
三二	三二
三三	三三
三四	三四
三五	三五
三六	三六
三七	三七
三八	三八
三九	三九
四〇	四〇
四一	四一
四二	四二
四三	四三
四四	四四
四五	四五
四六	四六
四七	四七
四八	四八
四九	四九
五〇	五〇
五一	五一
五二	五二
五三	五三
五四	五四
五五	五五
五六	五六
五七	五七
五八	五八
五九	五九
六〇	六〇
六一	六一
六二	六二
六三	六三
六四	六四
六五	六五
六六	六六
六七	六七
六八	六八
六九	六九
七〇	七〇
七一	七一
七二	七二
七三	七三
七四	七四
七五	七五
七六	七六
七七	七七
七八	七八
七九	七九
八〇	八〇
八一	八一
八二	八二
八三	八三
八四	八四
八五	八五
八六	八六
八七	八七
八八	八八
八九	八九
九〇	九〇
九一	九一
九二	九二
九三	九三
九四	九四
九五	九五
九六	九六
九七	九七
九八	九八
九九	九九
一〇〇	一〇〇

三四	二	三
三五	一	五
三〇	五	八〇
三五	二	二六
三五	一	五七
三五	一	一

ルヘカラサルモノナレハ手形ノ要件ハ勿論其他ノ文言ニ付テモ裁判所カ其文言ヲ解釋スルニ當リ行爲者ノ意思ニ拘束セラルヘキモノニ非サルハ明カナリ

○裁判所ハ當事者ノ提出シタル私署證書ヲ採用シ其判斷ノ資料ニ供スルニ付テハ檢眞ノ申立ヲ要スルモノニ非ス

○舊商業會議所條例ニ依レハ商業會議所ハ一人ノ爲メニ商慣習ノ存否ヲ證明スヘキ職責ヲ有セサルヲ以テ其作成シタル書面ハ單ニ一人ノ證明書ニ過キササルモノトス

○私署證書ハ縱令相手方ニ於テ否認スルモ其真正ニ成立シタルコトヲ證スルニ足ルヘキ證據ノ存スルトキハ裁判所ハ之ヲ證據トシテ採用スルコトヲ得ヘシ(第五節二九年九卷六八頁參照)

(同主旨)

相手方カ認メサル私證書ト雖モ裁判所カ他ノ證據情況ニ依リ其真正ヲ認ムル上ハ之ヲ採用スルコトヲ得

○手形ノ支拂場所ヲ表示スヘキ事項ニ付テハ別ニ法律ニ於テ規定スル所ナケレハ當事者カ支拂場所ヲ記載スル意思ヲ以テ手形ニ記載シタル事項ハ果シテ支拂場所ノ記載ナリト認ムルニ足ルヤ否ヤヲ判斷スルハ事

三五	六	一四六
三五	九	七〇
三五	九	一五九
三五	二	三
三六	四	二七

實承審官ノ專權ニ屬スルモノトス

○法令ノ命スル所ニ依リ設備スル商業帳簿ト雖モ裁判所カ證據ニ依リ其記載ニ誤謬アルコトヲ認メタル以上ハ該記載ノ訂正セラルルト否トニ關セズ證據力ナキモノトシテ之ヲ排斥スルコトヲ得ヘキハ當然ナリ

○確定日附ナキ私署證書ニ記載シタル時期ノ眞否ハ法令ノ規定ニ依リ該日附アル證書ヲ必要トスル場合ノ外事實承審官ノ判斷ニ任スヘキモノトス

○手形ニ振出地タルコトヲ明示セス振出人ノ肩書トシテ或地名ヲ記載シタル場合ニ於テ其地名ハ振出地トシテ記載シタルモノナルヤ又ハ住所トシテ記載シタルモノナルヤヲ判斷スルハ一ニ事實承審官ノ專權ニ屬ス

(同主旨)

振出人カ手形ニ住所地トシテ記載スル意思ヲ明示セスシテ之ヲ記載シタル場合ニ於テ果シテ住所地トシテ之ヲ記載シタルモノナルヤ又ハ振出地トシテ之ヲ記載シタルモノナルヤヲ判斷スルハ一ニ事實承審官ノ專權ニ屬ス

○裁判所カ當事者ノ一方ヨリ提出シタル證書ノ意義如何ヲ考察スルニ當リ其文詞ニシテ提出者ノ爲メニ不利益ニ解釋セラルルトキハ相手方ニ於

三六	七	七	三六	四七六
三七	七	七	六五九	
三七	七	七	六五九	
三七	七	七	六五九	
三七	七	七	六五九	

テ該證書ヲ援用セサルニ拘ハラズ之ヲ其提出者ノ不利益ニ適用スルコトヲ得ヘシ

○當事者ノ手形上ニ表示シタル文言カ支拂場所トシテ記載シタルモノナリヤ將タ其他ノ意味ヲ以テ記載シタルモノナリヤハ裁判官ノ判斷ニ任スルモノトス

○普通商號ノ意義ニ使用セラルヘキ文言ト雖モ之ヲ以テ支拂場所ノ表示ト認ムルニ妨ケナシ是故ニ斯ル文言ハ絶對的ニ支拂場所ヲ表示スルニ足ラストシ一定ノ場所ヲ記載セルモノニ非スト爲シタル判決ハ不法ナリ

○消費貸借ニ於ケル貸主ノ相續人カ借主ニ對シ返還請求ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ在リテハ被相續人ハ當事者ニ非スシテ第三者ノ地位ニ在ルモノトス故ニ其被相續人ノ作成シタル文書ヲ以テ當事者ノ作成シタルモノト做スヲ得ス

○民法施行前ニ於テハ確定日附ノ規定存セザリシヲ以テ其當時ノ作成ニ係ル證書ノ日附カ第三者ニ對シ完全ナル證據力ヲ有スルヤ否ヤハ如何ナル場合ト雖モ其證書カ果シテ日附ノ時ニ作成セラレタルヤ否ノ事實ニ依テ定マルヘキモノトス

三七

二六

三七

二七九

三七

二七九

三七

一四五

三七

一五九

○約束手形ニ於ケル被裏書人ノ氏名若クハ商號ノ記載ニ多少ノ誤記誤脱アルモ他ノ證明方法ヲ用ユルコトナク手形面ニ於テ被裏書人ノ誰タルヤヲ認メ得ヘキ場合ニ在リテハ裁判所ハ事實ノ認定上其何人タルコトヲ判定シ得ルモノトス

○手形ノ文面ニ受取人某トアルハ現實甲者ヲ指示シタルモノナリヤ將タ乙者ヲ意味シタルモノナリヤヲ判定スルハ決シテ手形文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルモノニ非ス從テ裁判所ハ諸般ノ證據ニ依リ自由ニ之ヲ判斷シ得ルモノトス

○第三者ノ作成シタル私署證書ハ相手方ノ否認ノミニ因リテ直ニ證據力ヲ失フモノニ非スト雖モ其作成ノ日ニ付キ争アル場合ニ於テ諸般ノ事實ニ依リ該證書ノ眞否ヲ定ムルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス

(同前章)
○第三者ノ作成シタル私署證書ハ相手方ノ否認ニ因リテ證據力ヲ失フモノニ非ス
○書類ノ謄本ト雖モ甲審判事件ニ於テ相手方ヨリ提出シタルモノニ係ルトキハ同事件ニ於テ相手方カ原本ト相違ナキコトヲ自認シタルモノトシ乙審判事件ニ付テモ亦證據トシテ之ヲ採用シ得ヘキ場合アルモノトス

三六

八

三六

二五九

三七

五七

三六

九三

○確定日附アル證書ト雖モ之ヲ採用スルト否トハ専ラ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノトス

○當事者カ私署證書ヲ否認セル場合ニ於テハ檢眞ノ方法ニ依ルノ外其效力ヲ認ムヘカラストスル法規ナケレハ他ノ證據方法ニ據リテ其成立ヲ認ムルモ妨ナシ

(同三三)

私署證書ノ眞否ハ必スシモ檢眞ノ方法ニ依テ之ヲ判斷スルヲ要セス裁判所ハ他ノ證據ニ基キ自由ナル心證ニ依リテ其眞否ヲ決スルヲ得ヘキモノトス

證書ノ成立ヲ證スルニハ檢眞ノ方法ニ依ルノ外他ノ立證ヲ許サストノ法規ナシ故ニ裁判所カ特ニ檢眞ノ中立ナキ爲メ證書ノ眞否ヲ確認スルニ由ナシト判決シタルハ違法ナリ

私署證書ノ眞否ハ必スシモ檢眞ノ手續ニ因ラサレハ判定スルヲ得サルモノニ非ス

○債權者カ債權ノ擔保トシテ債務者ヨリ質入證券ヲ受取リ裏書欄ニ押印ノミヲ爲シ之ヲ他人ニ交付シタル場合ニ於テ其行爲ハ當時ノ慣習ニ從ヒ正當ナル裏書ヲ爲スノ意思ニ出テタルモノト認メ得ルヤ否ヤハ事實承審官ノ判斷ニ任スヘキ事項ナリトス

○商業上ノ帳簿ハ商法第二十五條ノ規定ニ從ヒテ記載シタル正式ノ帳簿ナルト將タ此規定ニ依ラサル不正式ノ帳簿ナルトヲ問ハス又當事者ノ作成シタルモノト第三者ノ作成シタルモノトヲ論セス法律上何等ノ證

三	三	三	三	三	三	三
四	二	二	二	二	二	二
一六	一八四	一七四	一五	一六	一六	一六

據力ヲ有セサルモノニ非サレハ裁判所ハ帳簿自體ニ付キ其果シテ係爭事實ヲ證明スルニ足ルヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラス

(同三三)

金錢判取帳ハ金錢ノ授受ヲ證明スヘキ有力ノ證據ナレトモ他ノ證據ニ由リ其記載事實ヲ攻撃シ得サルモノニ非ス

商業帳簿記入事項ノ眞否ハ事實裁判官カ帳簿ノ體裁記入ノ順序方法其他諸般ノ事情ヲ審按シ自由ノ心證ヲ以テ判斷スヘキモノトス

商業帳簿ノ證據力ニ對シ商法其他ノ法律ニ何等ノ規定ナキヲ以テ其信否ノ如何ハ事實裁判官ノ心證ニ據リ判斷スヘキモノトス

○證書カ眞正ニ成立シタリヤ否ヤヲ定ムルニハ必スシモ之ニ押捺セル印影ノ對照鑑定ノミニ依ルヘキモノニ非ス

○當事者ノ一方カ相手方ト第三者トノ間ニ於ケル書面ノ成立ヲ認メタル場合ト雖モ其記載事項ヲ眞實ナリト推定スヘキ旨ノ規定ナケレハ之カ眞否ヲ定ムルハ事實裁判官ノ心證判斷ニ屬スルモノトス

(同三三)

第三者ノ作成シタル書類ハ相手方ニ於テ其成立ヲ認ムルモ其記載事項ノ眞實ナルヤ否ヤヲ判斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス

○訴訟提起ニ際シ其訴訟ニ關スル係爭事實ニ付キ一私人ノ作成シタル證

三	三	三	三	三	三	三
四	二	二	二	二	二	二
一六	一八四	一七四	一五	一六	一六	一六

明書ハ相手方ニ於テ之ヲ否認スルトキハ證據トシテ採用スヘキモノニ非ス

(同主旨)

- 一 己人ノ證明書ハ概シテ證據力ヲ有セス
- 私ノ證明書ハ何等ノ證據力ナキモノナレハ裁判官ハ之ヲ排斥スルニ付キ特ニ其理由ヲ示スノ必要ナシ
- 訴訟提起後ニ訴外人ノ發シタル信書ノ如キハ固ヨリ以テ證據トシ採用スヘキモノニ非ス然ルニ原院方爾キ信書ヲ以テ本件ノ曲直ヲ斷スル主要ノ證據ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背シテ判決ヲ下シタルモノナリ
- 一人ノ證明書ハ舉證者ノ相手方ニ於テ否認スルトキハ何等ノ證據力ヲ有セス故ニ相手方ノ否認ニ拘ハラズ之ヲ採用シタル判決ハ不法ナリ
- 一人ノ證明書ハ書證トシテ效力アルモノニ非ス
- 訴訟提起後ニ於テ一人ノ與ヘタル證明書ハ相手方ノ否認ニ因リ證據力ヲ有セサルモノトス私人ノ作成ニ係ル證明書ハ提出者ノ相手方ニ於テ其證明ノ事項ヲ是認スレハ格別否ラサレハ何等ノ證據力ヲ有スルモノニ非ス
- 一人ノ證明書ハ何等ノ證據力ヲ有セサルカ故ニ之ヲ證據トシテ提出スルモ其結果ハ全ク之ヲ提出セサルニ均シキモノトス
- 一人ノ證明書ハ何時ト雖モ容易ニ作成セシメ得ルモノナルヲ以テ其證明ノミニテハ何等ノ證據力ヲ有セサルモノトス
- 訴訟提起ニ際シ其訴訟ニ關スル事實ヲ證明センカ爲メニ作成シタル私書ハ相手方ニ於テ之ヲ

三九	二七	二七	二六	三二	三二	三三	三三	三三	三六
五	四	三	二	一	〇	五	五	四	七
五	三	六	四	〇	〇	四	四	二	七
五	三	六	四	〇	〇	四	四	二	七

是認スルニ非サレハ何等ノ證據力ヲ有セス

○第三者ノ作成ニ係ル私署證書ト雖モ其成立ノ眞實ナルコトヲ認定シ得ヘキ場合ニハ裁判所ハ之ヲ採用シテ其内容ニ關シ自由ナル心證判斷ヲ與フヘキモノナレトモ該證書成立ノ眞否ニ付キ當事者間ニ争アルトキハ舉證者ヨリ更ニ對證ヲ舉クルニ非サレハ之ヲ採用スルコトヲ得ス

(同主旨)

第三者ノ作成シタル私署證書ニ對シ相手方カ不知ノ陳述ヲ爲シ證書ノ成立ヲ争ヒタルトキハ裁判所ハ先ツ其成立ノ果シテ眞正ナルヤ否ヤヲ審按シ其眞正ナルコトヲ認メタル上ニ非サレハ之ヲ證據トシテ採用スルコトヲ得ス

○第三者ノ作成シタル文書ハ相手方カ其成立ヲ争ヒタルニ因リ直ニ證據力ヲ失フヘキモノニ非サルヲ以テ裁判所ハ諸般ノ事實及ヒ證據ニ依リ其眞否ヲ判定シ荷モ眞正ナリト認ムルトキハ之ヲ採用スルモ違法ニ非ス

(同主旨)

第三者ノ手ニ成リタル證書ハ相手方ノ否認ヲ以テ其效力ヲ滅却シ得ヘキモノニ非ス
當事者ノ一方ト第三者ノ間ニ成リタル證書ニ付キ他ノ當事者ノ否認ハ其證據ノ效力ニ消長ヲ來スヘキモノニ非ス
私署證書ト雖モ其署名者ト主張セラルル場合ノ外ハ單ニ之ヲ否認スルノミナ以テ其證據力ヲ失ハス

三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

舉證者カ第三者ヨリ受取リタル私署證書ニシテ其眞否ニ付キ争ナキモハ他ノ證據若クハ訴訟ノ關係ニ對照シテ其信憑力ノ有無ヲ判斷スヘキモノニシテ對手者カ認メサル一事ヲ以テ直ニ無効トナルモノニ非ス

成立上相手方ノ關係セサル證書ヲ其相手方カ認メサル旨ノ申立ヲ爲シタル一事ニ依リ其證書ニ證據力ナシト論斷シタル裁判ハ不法ナリ

私署證書ハ其署名者ナリト主張セラルル場合ノ外否認ニ因リテ效力ヲ失フコトナシ

私證書類ハ其作成ニ關與セサル者ノ否認ノミニ依リテ直ニ其證據力ヲ失フヘキモノニ非ス

三者ノ作製ニ係ル私署證書ハ相手方ノ否認ノミニ依テ其效力ヲ失フモノニ非ス

當事者ノ一方カ第三者間ニ授受シタル私署證書又ハ自己又ハ他ノ一方カ第三者ヨリ受取リタル私署證書ヲ證據トシテ提出シタル場合ニ於テ其他ノ一方カ右私署證書ノ成立ヲ否認シタリトテ之カ爲メ證據力ヲ失フモノニ非ス

當事者カ其成立ニ關係セサル證書ハ當事者間ニ授受シタル私署證書ト異ナリ提出者自ラ檢査其他ノ方法ニ依リ其成立ノ眞實ナルコトヲ舉證セサル場合ニ於テモ事實裁判所ハ檢證其他ノ方法ニ依リ其證書ノ成立ヲ眞實ナリト認定スルコトヲ得

相手方ノ關係セサル私署ハ相手方カ之ヲ否認スルモ當然其證據力ヲ失フモノニ非ス故ニ裁判所ハ相當ノ理由ヲ付シテ其採否ヲ決セサルヘカラス

第三者ノ作成シタル私署證書ノ證據力ハ相手方ノ否認ノ爲メニ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス

第三者ノ作成シタル證書ハ相手方ノ否認ニ因リテ其效力ヲ減却シ得ヘキモノニ非ス裁判所ハ諸般ノ事實及ヒ證據ニ依リ自由ナル心證ヲ以テ其眞否ヲ判定シ得ルモノトス

三〇	二	四五
三一	四	二八
三二	六	一〇六
三三	二	七
三四	四	九
三五	二	四二
三六	七	七
三七	九	五
三八	二	二八三
三九	七	一四四
四〇	二	五

相手方ノ關係セサル私署ハ相手方ニ於テ之ヲ否認スルモ當然其證據力ヲ失フヘキモノニ非ス

○裁判所カ第三者ノ作成シタル文書ヲ採用スル場合ニハ特ニ其成立ヲ眞正ナリト認メタル理由ヲ明示スルノ要ナシ

(同主旨)

裁判所カ當事者以外ノ者ノ作成ニ係ル證書ヲ採用スル場合ニハ唯其眞實ナル旨ヲ説示スルヲ以テ足り尚ホ其眞實ナリト認メタル詳細ノ理由ヲ付スルコトヲ要セス

○第三者ノ作成シタル私署證書ト雖モ之ヲ採用スルト否トハ裁判所ノ自由ナル心證ニ任スヘキモノトス

○證書ノ署名押印カ署名者ノ手ニ成リタルトキハ反證アルニ非サレハ他ノ文面ハ縱令自筆ニ非サルモ其承諾ニ出テタルモノト推定スルヲ當然トス

(同主旨)

當事者ノ一方カ相手方ハ證書ノ署名者若クハ捺印者ナルコトヲ主張シ相手方カ之ヲ争ヒタル場合ニ於テ其筆跡若クハ印影ニシテ相手方ノ眞跡若クハ眞印ナル事實立證セラレタルトキハ反對ノ證據アラサル限ハ相手方カ任意ニ手署シ若クハ捺印シタルモノト推定スヘキハ當然ノ法理ナリトス

○訴訟提起ノ後外國ニ在ル外國人カ其訴訟ニ於ケル係争事實ヲ證明スル爲メ作成シタル書面ハ相手方カ之ヲ否認スルニ於テハ何等ノ證據力ヲ

三六	二	六三
三七	七	二二八
三八	九	五九
三九	二	二五四
四〇	七	九
四一	二	四三
四二	七	三
四三	九	三
四四	二	三
四五	七	三
四六	二	三
四七	七	三
四八	九	三
四九	二	三
五〇	七	三

サルコトトハ同シカラサルモノニシテ後者ニ在リテハ尙ホ他ニ使用者アルモ斗リ知ルヘカラサルコトノ意味ヲモ包含スルモノトス

○裁判所ハ一ノ事實ヨリ他ノ事實ヲ推定スルコトヲ得ルモノナレハ當事者間ニ争ノ存スル事實以外ノ事項ニ關スル證言ト雖モ必スシモ係争事實ヲ判斷スルノ資料ト爲スコトヲ得サルモノニ非ス

○裁判所カ係争ノ事實ヲ確定スルニ當リテハ證人ノ供述シタル事項中當事者カ援用セサル部分ト雖モ係争事實ニ密著ノ關係ヲ有シ且其援用シタル部分ニ牽連スルモノハ之ヲ採用スルコトヲ得ヘシ

○宣誓ヲ爲シタル證人ト之ヲ爲ササル證人トハ其證據力ニ付キ等差ヲ設ケサルヘカラサルノ法則ナシ故ニ宣誓ヲ爲ササル證人ノ證言ノミニ依リテ判斷スルモ不法ニ非ス

(同宣言)

宣誓ヲ爲サス參考ノ爲メ事實ヲ供述スル者ハ宣誓ヲ爲シタルモノト等シク證人タリ故ニ其證言ハ事實承認官ノ自由ナル心證ヲ以テ判斷スルヲ得ヘシ

宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メニ訊問シタル證人ノ供述ハ法律上別ニ之ヲ採用スルコトノ禁止ナキカ故ニ其採否ハ場合ノ如何ヲ問ハス全ク事實裁判所ノ自由裁量ニ屬ス

民事訴訟法第三百十條ニ依リ事實參考ノ爲メニ訊問セラレタル者モ證人タルニ外ナラサレハ其者ノ供述ニシテ心證上採用スルニ足レリト思料スルトキハ裁判所ハ之ヲ採用シテ判斷ノ資

三五	二元	三七	三六	三五	三五
二	四			二	六
一一〇	九	八	五七五	一四	一七五

料ニ供スルコトヲ得ルモノトス

○當事者ノ自白認諾等ハ私法上ノ關係ニ付テハ各當然ノ效果ヲ生スルカ故ニ裁判所モ亦其真相ノ如何ヲ問ハス之ヲ斟酌セサルヘカラサル職責ヲ有スト雖モ破産宣告ノ當否ヲ論争スル場合ニハ其關係ハ公益上ノモノナルヲ以テ自由ニ之カ真相ヲ審カニシ事實ヲ確定スヘキモノナリ

○權利者ノ訴訟上ノ陳述ハ直ニ之ヲ證言證據ト爲スコト能ハサルハ勿論ナルモ其過去ノ言動ニシテ適法ノ證據方法ニ依リ證明セラレタル場合ニハ事實承認官ニ於テ之ヲ心證判斷ノ資料ニ供シ得ルモノトス

○甲乙二箇ノ事件ヲ併合審理スルニ當リ甲號事件ニ付キ證人ノ囑託訊問ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ該證言ヲ採用スルニハ調書ニ依據スルモ又其供述自體ヲ摘録スルモ共ニ人證タルヲ妨ケス從テ甲號事件ニ關スル證言ヲ乙號事件ノ人證トシテ採用スルモ不法ニ非ス

○同一ノ場合ニ於ケル同一證人ノ供述ニシテ前後矛盾スルトキト雖モ全然カ採用ヲ禁シタル法規アルコトナシ

○二名ノ證人ノ證言一部相抵觸スル場合ニ於テハ其抵觸セサル部分ニ付キ二人ノ證言ヲ併セテ採用シ得ヘキハ勿論判決ニ影響ヲ及ホササル枝葉ノ點ニ於テ相抵觸セルモノヲ其儘採用スルモ亦妨ナシ

三五	三元	三元	三元	三元	三五
五					五
三九	一六五	二六	三〇二	一七	三九

人自ラ係争事實ニ直接干與セルニ因リ之ヲ知得シタルト將タ當事者若クハ他人ヨリ聽取リタルニ因リテ之ヲ知得シタルトハ問フ所ニ非ス

(反對)

傳聞ノ事實又ハ自己ノ意見ヲ述ヘタルニ非スシテ親シク見聞シタル事實ヲ申述シタル證言ハ直接有效ノ證據タリ
傳聞ニ關スル事項ノ供述若クハ證人ノ意見ハ證據トシテ採用スルコトヲ得ス
傳聞ノ事實ハ證據ノ效力ナク隨テ傳聞シタル事柄ヲ他人ニ告ケタリトノ事實モ亦證據ノ效力ナキモノトス

證人ノ供述ハ其證人カ直接ニ見聞セシ事實ニ非サレハ證言トシテ採用スルヲ得ス故ニ傳聞ノ供述ヲ證言トシテ採用スルハ違法ナリ
傳聞事項ノ供述ハ適法ノ證言トシテ採用スルヲ得ス

○同一ノ證據方法ト雖モ其一部ヲ採用シ他ノ一部ヲ排斥スルハ證據取捨ノ一作用ニ外ナラス

(同主旨)

裁判所カ或書證中ノ一部ヲ採用シ一部ヲ排斥スルモ事理ニ悖戾セサル以上ハ之ヲ論争シテ上告ノ理由トスルヲ得ス

○裁判所カ當事者雙方ノ立證セル書證及ヒ人證等ヲ斟酌シ自由ナル心證ヲ以テ一方ノ主張スル事實ヲ眞實ト認メタル以上ハ縱令他ノ一方ノ書證中ニ反對ノ事項記載アルコトヲ認メ乍ラ之ヲ採用セサレハトテ其職

四〇	二二	四六
三六	二二	一八
三三	二〇	二三
三三	二〇	一七
三三	二〇	一七
四〇	七五	七五
三九	二五	二五

權内ナル證據ノ取捨ニ屬スルヲ以テ之ヲ違法ト謂フヲ得ス

○書證ト人證トハ其證據力ニ優劣アルヘキ規定ナケレハ裁判所ハ民法及ヒ民事訴訟法ニ反セサル以上自由ナル心證ヲ以テ之ヲ判斷シ得ルモノトス

(同主旨)

私證書タル書證ト人證トハ其證據力ニ於テ優劣アラサルヲ以テ其意義相抵觸スルトキハ事實裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ之カ判斷ヲ與フヘキモノトス

書證ト人證トハ法律上輕重ナキヲ以テ其取捨ハ事實裁判所ノ專權ニ屬ス
現行ノ民法商法及ヒ民事訴訟法ニ於テハ普通ノ私署證書ト人證トノ證據力ノ優劣ニ關スル規定ノ設ナキヲ以テ裁判所ハ此等ノ證據方法ニ付テハ其證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ヲ以テ事實上ノ判斷ヲ爲シ得ヘキモノトス

○鑑定ハ裁判官ノ智識ヲ補助スル要具タルニ過キササルニ依リ裁判官ハ其鑑定ニ羈束セラルヘキモノニ非ス從テ同一物ニ付キ前後二回ノ鑑定ヲ爲サシメタル場合其執レヲ取り執レヲ捨ツルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス

(同主旨)

鑑定ハ裁判官ノ心證判斷ノ資料ニ供スルモノナレハ其取捨ハ裁判所ノ職權ニ屬ス

○現時ノ實況ニ就キ鑑定ヲ爲サシメ以テ往時ノ事實ヲ判斷スル資料ニ採

三六	二二	四六
三五	二二	一七
三三	二〇	二三
三三	二〇	一七
三三	二〇	一七
四〇	七五	七五
三九	二五	二五

ノ適用ニ關スルモノニ非ス

(同至言)

或事實カ裁判所ニ於テ顯著ナル事實ニ屬スヘキヤ否ヤヲ區別スルコトハ事實承審官ノ職權ニ屬スル事實上ノ認定ニシテ法則ノ適用ニ關スル事項ニ非ス

○府縣令ノ如キ地方ノ法令ハ其地方以外ニ在ル裁判所ニ於テハ必スシモ職權ヲ以テ之ヲ適用セサルヘカラサルモノニ非ス

〔第二百十九條〕

○習慣法ニ違背スト云フコトハ當事者ニ於テ之ヲ證明スルカ若クハ職權ヲ以テ之カ取調ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○法律ニ違背シタル習慣ハ裁判上之ヲ採用スルコトヲ得ス

○地方ノ習慣ニ基クモノニ係ルトキハ當事者ヲシテ之カ證明ヲ爲サシムルカ又ハ裁判所自ラ之カ取調ヲ爲スヘキモノトス

○商慣習ハ當事者ヲシテ證明セシムルカ又ハ裁判所ノ職權ニ依リ調査ヲ爲シタル上ニ非サレハ慢然其存在ヲ認ムルヲ得ス

○河川兩岸ニ相對スル村民ニ於テ互ニ堤防ヲ築キ若クハ其修繕ヲ爲ス場合ニ於ケル制限ニ付テハ古來一般ニ定マリタル慣習ナシ故ニ之カ利益

四〇 五三

三五 一〇

四〇 五五

二五 一〇八

二五 八

二五 二四

二六 二〇二

ヲ主張スル者ニ於テ其舉證ヲ爲ササルヘカラス

○入會權ニ付キ制限アリヤ將タ制限ナキヤヲ相爭フ爭訟ニ於テハ制限アリト主張スル者ニ於テ地方ノ慣行若クハ當事者間ノ規約等ヲ舉ケ以テ立證スルノ責任アルモノトス

○府縣ノ達ニシテ裁判所ニ知レサルモノハ各地方ノ慣習法ト等シク其法則ノ存在ヲ裁判所ニ知ラシメサルヘカラス故ニ裁判所ニ於テ攻撃若クハ防禦ノ方法トシテ府縣ノ達ヲ援用スル當事者ハ之ヲ證明スル責任アリ

○古來ノ慣行ニ依リ取得シタル當事者間ニ限ル法律關係ヲ認ムルモノノ如キハ合意上ノ法律關係ヲ認メタル筋合ニシテ其地方若クハ其土地一般ニ關スル慣習ヲ認メタルモノニ非ス

○一般ニ遵由ノ義務アル法令ノ外地方官廳等ノ令達若クハ地方慣習法ハ當事者ニ於テ之ヲ證明セサルヘカラス

○民事訴訟法ニ於テ裁判所カ外國法ヲ調査シ得ヘキ規定ヲ設ケタルハ單ニ裁判所ノ職權ヲ定メタルニ過キスシテ其義務ヲ定メタルモノニ非ス

〔第二百二十條〕

○原狀回復ニ付キ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ノ疏明方法トシテ提出セ

三三 六〇八

三四 二

三四 九 八一

三五 五 六九

三五 五 一〇七

三六 一四九

ル證人喚問ノ申請ハ即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ナレハ許可スヘキモノニ非ス

【第二百二十二條】

○書面ニ基キ申立テタル點ニ非サレハ裁判官ハ一一裁判ヲ與フルノ責ナシ

○判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ハ必ス書面ニ基キテ之ヲ爲ササルヘカラス

(同左)

訴ノ變更ニ對シ判決ヲ下サントスルニハ民事訴訟法第二百二十二條ノ規定ニ從ヒ必ス書面ノ呈出ヲ要ス

○民事訴訟法第二百二十二條ノ規定ハ事物請求者ノ申立ニ適用スヘキモノニシテ被請求者ノ申立ニ適用スヘキモノニ非ス

(同左)

民事訴訟法第二百二十二條ノ所謂「判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ハ書面ニ基キテ之ヲ爲スコトヲ要ス」トハ判決ヲ請求スルモノニ於テ爲スヘキモノニシテ被請求者タルモノハ之カ答辯ヲ爲セハ足ル敢テ書面ニ基クヲ要セス

○一定ノ申立ノ意味ヲ判明ナラシムル爲メ申立ツル事項ハ一ノ説明ニシテ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ非ス隨テ書面ヲ以テスルヲ要セス

○第一審ニ於テ全部取消ノ判決ヲ受ケントスル申立ヲ爲シ第二審ニ至リ

三五 五 四七

二六 二 二八

二六 二 二八

二五 五 二七

二六 四 四

二七 二六

二六 五 四

相手方ノ要求額過分ナリト主張スルハ一定ノ申立ノ範圍内ニ於ケル攻撃ニ過キサレハ敢テ書面ニ基キテ之ヲ申立テサルモ違法ト云フヲ得ス
○闕席判決ヲ維持ストノ判決言渡アランコトヲ請フトノ申立ハ所謂判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ非スシテ一種ノ陳述ニ外ナラス
○答辯書ニ裁判所ノ表示ナキモ此書面ハ民事訴訟法第二百二十二條ノ規定ニ該當スルモノニ非サレハ之ニ基キ爲シタル申立ヲ以テ全ク其效ナシト爲スヘキモノニ非ス
○假執行ニ關スル申立ハ民事訴訟法第二百二十二條ニ所謂判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ該當セス

(反對)

書面ニ基カサル假執行宣言ノ申立ニ因リ判決ニ假執行ノ宣言ヲ付シタルハ不法ナリ

○第一審ニ於テハ損害額算定ノ標準ヲ甲地ノ米價ニ採ルコトヲ申述シ第二審ニ至リ之ヲ變更シテ乙地ノ米價ニ依ル旨ヲ申述スルカ如キハ民事訴訟法第二百二十三條ノ規定スル事項ニ係ルモノニシテ同法第二百二十二條ニ所謂申立ニ係ルモノニ非サレハ調書ニ於テ之ヲ明確ニスレハ足ルモノニシテ特ニ書面ノ提出ナキモ其申述ナシト云フヲ得ス
○控訴審ニ於ケル被控訴人ノ控訴棄却ノ申立ハ民事訴訟法第二百二十二

三四 二 七〇

三五 一 二六

三五 四 二

三六 四二

三五 五 九六

三六 四二

三六 四二

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

三五 五 九六

條ニ所謂判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ非サレハ必スシモ書面ニ基キテ之ヲ爲スコトヲ要セス而シテ此理由ハ被控訴人カ第一審ノ原告タルト否トニ因リテ異ナル所ナシ

(同主旨)

單ニ訴ノ却下若クハ上訴ノ棄却ヲ請フ如キ消極的ノ申立ノミニ付テハ民事訴訟法第二百二十二條ノ規定ヲ遵守シ書面ニ基キテ之ヲ爲スノ限ニ在ラス
請求却下又ハ控訴棄却ノ申立ハ所謂判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ非サレハ必スシモ書面ニ基クヲ要セス從テ特ニ其中立ナキモ結局請求却下若クハ控訴棄却ニ歸スヘキ旨趣ノ申供アルヲ以テ足レリトス

○係争債務ノ連帶ヲ主張スル陳述ノ如キハ民事訴訟法第二百二十二條ニ所謂申立ニ非スシテ同法第二百二十三條ニ謂フ重要ナル陳述タルニ過キサレハ必スシモ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スノ要ナシ

○家督相續ノ回復ヲ目的トスル訴訟ニ於テハ其一定ノ申立中相續ノ開始セル時期ノ如キハ重要ナル記載ニ非サルヲ以テ縱令判決主文ニ表示シタル時期カ準備書面ノ記載ト符合セサルモ民事訴訟法第二百二十二條若クハ第二百三十一條ニ違背シタル不法アル裁判ナリト云フヲ得ス

(第二百二十三條)

○一定ノ原因ヲ改ムルカ如キ陳述ハ重要ナル事項ニ屬スルヲ以テ民事訴訟

法第二百二十三條ノ規定ニ則リ調書若クハ書面ニ依リ之ヲ明確ニシタル上相當ノ判斷ヲ爲ササルヘカラス

○民事訴訟法第二百二十三條ノ規定ニ依リ口頭辯論調書又ハ附録トシテ添附スヘキ書類ニ當事者ノ爲シタル抗辯ノ記載ナキモ他ニ其陳述ヲ爲シタルコトヲ徴シ得ルニ於テハ陳述ナキモノト看做スコトヲ得ス

○第一審ニ於テハ損害額算定ノ標準ヲ甲地ノ米價ニ採ルコトヲ申述シ第二審ニ至リ之ヲ變更シテ乙地ノ米價ニ依ル旨ヲ申述スルカ如キハ民事訴訟法第二百二十三條ノ規定ズル事項ニ係ルモノニシテ同法第二百二十二條ニ所謂申立ニ係ルモノニ非サレハ調書ニ於テ之ヲ明確ニスレハ足ルモノニシテ特ニ書面ノ提出ナキモ其申述ナシト云フヲ得ス

○民事訴訟法第二百二十三條ノ規定ニ該當セサル事項ハ事實承審官ニ於テ陳述中ニ之ヲ聽取リ判決文中事實摘示ノ部分ニ其事項ヲ掲載シ之ニ基キテ訴訟ノ曲直ヲ判斷シ得ルモノトス

○係争債務ノ連帶ヲ主張スル陳述ノ如キハ民事訴訟法第二百二十二條ニ所謂申立ニ非スシテ同法第二百二十三條ニ謂フ重要ナル陳述タルニ過キサレハ必スシモ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スノ要ナシ

第二節 判決

三五	二	七
三六	二	七
三七	二	七
三八	二	七
三九	二	七
四〇	二	七
四一	二	七
四二	二	七
四三	二	七
四四	二	七
四五	二	七
四六	二	七
四七	二	七
四八	二	七
四九	二	七
五〇	二	七
五一	二	七
五二	二	七
五三	二	七
五四	二	七
五五	二	七
五六	二	七
五七	二	七
五八	二	七
五九	二	七
六〇	二	七
六一	二	七
六二	二	七
六三	二	七
六四	二	七
六五	二	七
六六	二	七
六七	二	七
六八	二	七
六九	二	七
七〇	二	七
七一	二	七
七二	二	七
七三	二	七
七四	二	七
七五	二	七
七六	二	七
七七	二	七
七八	二	七
七九	二	七
八〇	二	七
八一	二	七
八二	二	七
八三	二	七
八四	二	七
八五	二	七
八六	二	七
八七	二	七
八八	二	七
八九	二	七
九〇	二	七
九一	二	七
九二	二	七
九三	二	七
九四	二	七
九五	二	七
九六	二	七
九七	二	七
九八	二	七
九九	二	七
一〇〇	二	七

(刑)

○特別ノ場合ノ外民事ノ裁判ハ刑事ノ判決ニ羈束セラレサルヲ一般ノ原則トス

○數筆ノ地所ニ付キ買戻契約履行ノ訴アリタルトキ單ニ一筆ノ土地ニ對スル契約ノミヲ有效トシ他ノ地所ニ對スル契約ヲ無効ナリト判決シタルトキ其有效ナル買戻契約ヲ履行スル爲メ辨濟スヘキ代金額ハ當事者協議ヲ以テ定ムヘキモノニシテ該判決ニ之ヲ指定セサルハ不當ニ非ス

○茲ニ神社ノ寶物タル物件アリ其未タ寶物タラサル以前ノ所有主所有權ヲ失ハサル事實等アリシコトヲ確認セシ以上ハ其人ヲ以テ該物件ノ所有主ト爲スモ不當ニ非ス

○第二審裁判所カ第一審裁判ヲ認可シ控訴ヲ棄却シタル場合ニ於テ其理由第一審裁判ノ理由ト異ナルトキハ第一審判決ノ主文ハ第二審裁判ノ理由ニ依リ確定シタルモノナリ

○訴訟ニ關與セサルモノニ對シ確定判決ノ效力ヲ及ホシ之カ執行ヲ爲サントスルハ訴訟手續ノ許認セサル所ナルノミナラス縱令保證人ト雖モ之ニ關與セサル限りハ主タル義務者カ受ケタル判決ニ羈束セラレヘキモノニ非ス

○本案ノ判決前ニ中間判決ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ斯ル申立ヲ爲シタル

二四	一	101
二四	一	二八
二五	二	五四
二五	四	五
二六		三

事跡ナケレハ原院カ直ニ終局判決ヲ以テ其當否ヲ裁判シタルハ相當ナリ

○共有權主張ノ訴ニ付テハ共有者ノ一人カ其訴訟ニ與カラサルモ他ノ共有者カ判決上得タル權利ハ當然他ノ者モ享有シ得ヘキヲ以テ訴外ナル共有者ノ一人ヲモ其權利關係者トシテ下シタル判決ハ相當ナリ

○小作料ハ金錢又ハ米穀ヲ以テ支拂フコトヲ得ルモノナレハ米穀ヲ以テ支拂フヘキ義務ナキ場合ニ金錢ヲ以テ支拂フヘク裁判スルモ訴ノ原因訴訟ノ目的物ニ變更ヲ來シタルモノニ非ス

○法律規定ノ方式ニ依ラサル訴ハ請求ノ當否ニ關セス不適法トシテ却下スルハ當然ニシテ其却下ニ付キ特ニ法律ノ明文アルヲ要セス

○口頭辯論ノ再開ヲ命シ新期日ヲ指定シテ當事者ニ呼出狀ヲ送達シタル以上ハ縱令再開ヲ命シタル理由消滅シテ再開ノ必要ナキニ至ルト雖モ仍ホ當事者ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ判決ヲ爲スヲ得ス

○中間判決ノ申請ニ對シ判決ヲ與フルモ其實終局判決ナル上ハ之ヲ中間判決ト看做シ攻撃スルハ不當ナリ

○判決ノ效力ハ其訴訟ニ參加シタルモノニ非サレハ之ヲ主張スルヲ得ス

二六	一	一六
二六	四	三二
二六	四	二七
二六	一	五
二六	三	三
二六	三	三
二六	三	三

○判決ヲ以テ當事者ニ登記手續ヲ言渡スハ登記法第十條ニ所謂裁判所ノ命令ニ該當ス

○提出シタル證據ヲ遺脱シ立證ナシトシテ敗訴ヲ言渡シタル裁判ハ不法ナリ

○損害要償ノ訴件ニ付キ其原因アルコトヲ認メ單ニ損害額ノ證明十分ナラスト思量スルトキハ民事訴訟法ノ許シタル證明ノ手續ヲ盡サシメタル上其額ヲ定メテ裁判ヲ言渡スヘキモノトス

○一箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法ニ付テノ判決カ他ノ全局ヲ終了シ能ハサルトキハ中間判決ナリ若シ他ノ爭點ヲ判決スル必要ナク直ニ訴訟ノ全局ヲ終了シ得ヘキトキハ終局判決ナリトス

○債務不成立ノ抗辯ト出訴期限經過ノ抗辯ト相牴觸スルモ共ニ請求ニ對スル防禦方法ニ外ナラサルカ故ニ裁判所カ出訴期限ニ關スル抗辯ヲ採用シテ裁判シタルハ相當ナリ

○直接履行ト間接履行ハ其方法ノ異ナルノミニシテ義務ノ履行ヲ求ムル點ニ於テハ同一ナリ故ニ原告カ直接履行ノ請求ヲ措キ直ニ間接履行ノ請求ヲ爲スモ被告ニ於テ其請求ノ順序ニ異議ナキトキハ裁判所ハ自ら進ンテ其當否ヲ裁判スルノ要ナク直ニ請求ノ當否ニ付キ裁判ヲ爲スヘキモノトス

キモノトス

○判決執行ニ至ルマテノ利子ニ付テハ債權者ハ未來ノモノト雖モ訴權ヲ有ス故ニ之ヲ辨濟スヘシトノ判決ハ不法ニ非ス

○判決言渡後天災ノ爲メ判決原本ヲ滅失シ當事者ニ其正本ノ送達ヲ爲シ能ハサルニ至ルモ裁判所ハ同一事件ニ付キ更ニ口頭辯論ヲ開キ判決ヲ爲スノ職權ナキモノトス

○決定原本ニ訴訟代理人ノ表示ヲ爲スハ決定ニ關スル要件ニ非ス

○訴訟用印紙ハ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ調査シ若シ其貼用ナキカ又ハ貼用不足アルトキハ法律ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用セシムルニ止マリ當事者間ニ爭アルモ判決ヲ以テ其當否ヲ決スヘキモノニ非ス

○裁判所ハ貸金請求ノ訴訟ニ於テ請求者ノ意思ニ反セサル限りハ其請求ノ幾分ヲ減シ他ノ部分ニ付キ相手方ニ辨濟ヲ命スルコトヲ得

○名譽回復ノ訴訟ニ於テ謝罪文ヲ交付スルコトト之ヲ新聞紙ニ廣告スルコトノ二個ノ請求アルトキ其中如何ナル行爲ヲ以テ適當ノ處分ナリトスルヤヲ判定スルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス

○判決ハ訴訟當事者以外ニ其效力ヲ及ボサストノ原則ハ相續權回復ノ訴訟ニ付テモ適用シ得ヘキモノトス

二元	八	四
二元	八	四
二元	九	七
二元	一〇	三
二元	二	一四

三元	一	二
三元	三	八
三元	四	三
三元	三	一九
三元	四	七
三元	四	八
三元	五	一
三元	一〇	六
三元	二	三

(同主旨)

判決ハ第三者ニ對シテ效力ヲ有セス或場合ヲ除クノ外刑事ノ判決モ亦然リ
判決ハ當事者以外ニ確定力ヲ有スルモノニ非ス

○當事者カ法律上ノ用語ヲ誤リ買賣契約ノ不履行ニ基ク請求ナルコトヲ主張シナカラ其結論ニ於テ賣買約定ノ取消ヲ要求シ裁判官力之ヲ是認スルモ裁判ニ瑕疵アリト爲スニ足ラス

○裁判ノ言渡ニ付キテ辯論及ヒ裁判ニ參與セサル判事カ加ハルモ違法ニ非ス

○原因及ヒ數額ノ二點ニ付キ爭アル訴訟ニ於テ別ニ原因ノ爭ニ付テ判斷スルノ要ナシトノ説明ヲ爲スモ唯原因ノ爭ニ關シテ判斷ノ理由ヲ示ササルニ止マリ其判決ハ原因及ヒ數額ノ裁判ヲ包括シタルモノナリ

○判決ハ辯論ヲ經タル事項ニ對シテノ言渡スヲ原則トスル故ニ辯論ヲ經タル事項ニ對シ相當ノ理由ヲ付シテ判決ヲ與ヘ而シテ其理由既ニ判決ヲ維持スルニ足ル以上ハ其他ノ理由ニ辯論ヲ經サル事項ニ付テノ判斷アルモ之カ爲メ其判決ヲ違法トスルコトヲ得ス

○法律上許スヘカラサル訴件ナルコトヲ發見シ判決ヲ以テ其訴ヲ排斥スル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經テ之ヲ却下スルコトヲ要ス

三四	二九	三三	三五	三三
一	二〇	二	五	二
一七	四	六	三	一

○當選訴訟ハ訴訟提起ノ當時ニ於ケル當選ノ有效無効ヲ判決スヘキモノナルカ故ニ判決ノ當時既ニ其效力ヲ失ヒタル法令ト雖モ訴訟提起ノ當時尚ホ有效ナリシモノハ特ニ其消滅ノ效力ヲ遡及セシムヘキ旨ノ規定ナキ以上之ヲ適用スルハ至當ナリ

○既ニ死亡シタル者ノ氏名ヲ答辯書及ヒ委任狀等ニ記入調印シテ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所亦其死亡者ニ對シテ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ其判決タル死亡者ノ相續人ニ對シ何等ノ效果ヲ生セス

○判決ハ權利ヲ付與スル效力アルモノニ非スシテ唯之ヲ確定スル效力アルニ過キス

○寺院ニ對スル訴訟ニ付キ住職ニ非サル者ニ爲シタル訴狀ノ送達ハ實質上送達ノ效ナシト雖モ其者ニ於テ寺院ノ代表者トシテ應訴シ裁判ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ形式上寺院ニ對シ確定力ヲ生スルモノトス

○未成年者ノ契約取消ノ訴ヲ棄却スルニ當リ訴ノ却下ヲ言渡サスシテ請求ヲ棄却スルモ違法ニ非ス

○契約ノ解除ハ意思表示ノミニテ足り訴ヲ以テスルヲ要セサルニ付キ裁判上契約解除ノ承認ヲ言渡スカ如キハ失當ナリ

○訴ノ却下ニハ請求ノ棄却ヲ包含ス

三四	三三	三三	三三	三三
五	九	六	五	四
五三	四	一六	一一	二四

○訴訟開始ノ當時理由アリシ請求ト雖モ訴訟中理由ヲ失フトキハ被告ハ敗訴ノ言渡ヲ受クルコトヲ免ルルモノトス

(同主旨)

訴訟提起ノ當時原告ノ請求ニシテ理由アリシモノト雖モ其進行中訴訟ノ目的物滅失シ又ハ被告カ原告ノ請求ニ應ジ直ニ履行シタルカ如キ場合ナルニ拘ハラズ依然最初ノ請求ヲ持續スルトキハ該請求ハ結局失當ナリ

○司法省ノ指令内訓ノ如キハ裁判所カ法令ニ關シテ下スヘキ解釋ヲ拘束スルモノニ非ス

○辨濟者ニ於テ債務ノ存在セサルコトヲ悉知セシヤ否ヤハ事實上ノ問題ナルカ故ニ當事者ノ申立ヲ竣タス職權ヲ以テ審査判定スヘキモノニ非ス

○訴訟提起ノ當時訴訟物現存シテ其訴訟ノ要件ニ缺クル所ナカリシモノト雖モ訴訟中其基礎タル權利消滅ニ歸シ訴權終了ニ至リタルトキハ其訴訟ハ不適法トシテ却下セサルヘカラス

○裁判所カ認定シタル事實ニ適用スヘキ法律ハ當事者ノ引用スルト否トニ拘ハラズ自ラ進ンテ之カ適用ヲ爲ササルヘカラス

○町村長ハ區有財産ノ出納事務ヲ處理スル權限ヲ有スルヤ否ヤハ町村制ニ於ケル法律問題ニシテ事實上ノ問題ニ非サルヲ以テ此論點ニ付テハ縱令當事者間ニ爭ナキ場合ト雖モ裁判所ハ町村制ノ規定ニ照シテ職權上判斷ヲ爲ササルヘカラス

○新法律ノ制定ニ依リ舊法則ヲ變更若クハ取消シタルカ爲メ權利ニ消長ヲ來シタルトキハ縱令舊法則ノ行バレシ當時訴訟カ權利拘束ト爲リテ裁判所ニ繫屬セル場合ト雖モ別ニ移替リ法ノ定ナキ以上ハ其判決ヲ爲ス當時ノ法律ニ從ヒテ裁判スヘキモノナリ

○他人ノ所有ニ屬シタル物件ニ係ルト雖モ當事者間ノ法律關係ニシテ其債務者タル地位ニ立ツ者カ之ヲ買戻シ若クハ受戻シタル上登記手續ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノナルトキハ其當事者間ノ關係ニ基キ登記手續ヲ命スルヲ相當トス

○原告カ組合員ノ資格ヲ以テ代金ノ支拂ヲ請求シタル場合ニ被告ハ原告一個人ヨリ係争物件ヲ買受ケタル事實アリト認定シ之ニ依リテ其請求ノ一部ヲ採用シ他ノ一部ヲ排斥シタル判決ハ組合員トシテノ訴訟ト一個人ノ訴訟トヲ混同セル不法ノ裁判ナリ

○如何ナル經久ノ事實ニ關スル争訟ト雖モ事實ニ適セス又ハ確信スヘカ

三四九

三四二

三五八

三五二

三五三

三五二

三六八

三三三

三二九

三二九

ラサル證據ヲ採テ權利ノ有無ヲ判斷スヘキモノニ非ス

○法令ニ違背シタル和解契約ハ一旦之ヲ締結シタル後ト雖モ當事者又ハ承繼人ニ於テ更ニ訴ニ依リ其無効ヲ主張スルコトヲ得從テ裁判所ハ該契約ノ存在ヲ顧ミルコトナク其内容ニ立入りテ訴訟ノ當否ヲ判斷セサルヘカラス

○債務ノ連帶辨濟ヲ求ムル訴訟ニ付キ判決ヲ爲スニ當リ其債務ノ連帶ニ非スシテ分擔ナルコトヲ認定シタル場合ニ於テハ該請求ノ一部即チ分擔ニ屬スル部分ハ其理由アルモノトス從テ其請求ノ全部ヲ排斥セスシテ分割辨濟ヲ命スヘキハ當然ナリ

○債權者カ債務者ト債務者ノ先代タル隱居者トヲ被告ト爲シ債務者ノ承繼シタル不動産ノ登記名義附換ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ漫然債權ノ實行ヲ容易ナラシムル爲メ本訴ヲ提起セルハ不當ニ非スト判定シ債權者ノ請求ヲ認容シタルハ違法ナリ

○株式會社ノ專務取締役カ會社ニ對シ損害ヲ賠償スヘキ場合ニ於テ他ニ數名ノ取締役アルヤ否ヤニ付キ何等ノ申立ナケレハ該取締役ニ對シテ全部ノ賠償ヲ命スルモ違法ニ非ス

○鑛業法及ヒ明治三十八年農商務省令第十七號鑛業法施行細則等ニ於テ

三七

九〇三

三七

二〇六

元

三三三

元

五〇六

三六

一八五四

ハ探掘權ノ賣買讓與ニ關シ舊鑛業條例ノ如キ手續ヲ必要トセス從テ同法發布前共同鑛業權ノ持分ヲ讓受ケタル者カ鑛業條例ニ基キ讓渡人及ヒ共同鑛業人ニ對シ特許證書換願ノ連署ヲ求メタルモ其訴訟繫屬中該條例廢止セラレタルトキハ裁判所ハ新法令ニ依リ原告ノ請求ヲ却下セサルヘカラス

○裁判所カ訴ヲ不合法トシテ却下スヘキ場合ハ其請求ノ當否ニ關セス訴訟ノ要件ヲ具備セサル時ニ限ルモノトス

○判決ハ其當時ノ狀態ニ依リ之ヲ爲スヘキモノニシテ起訴當時ノ狀態ニ據テ之ヲ爲スヘキモノニ非ス(第二編二九年三卷一一六頁參照)

(同前旨)

起訴ノ當時履行期限ノ未タ到來セサル債權ナルモ判決ヲ爲ス時ニ於テ其期限到來セルトキハ履行期限ノ到來シタル債權トシテ裁判スヘキモノトス

訴訟提起ノ當時親族會ノ同意ヲ得サルモ判決ノ以前ニ於テ其同意ヲ得タル以上ハ裁判所カ其訴訟ニ對シ審理判決スルハ相當ナリトス

判決ハ判決當時ノ情態ニ因リ之ヲ爲スヘキモノニシテ起訴當時ノ情態ニ因リ爲スヘキモノニ非ス然レトモ訴訟提起後ニ生シタル事實ヲ主張スルカ爲メ訴ノ變更ト爲リ被告ニ異議アル場合ニハ裁判所ハ其主張ヲ斟酌スルヲ得ス

判決ハ其口頭辯論ヲ經テ顯ハレタル總テノ材料ニ據テ爲スモノナレハ起訴ノ當時未タ辨濟期

三四

三

二〇

三三

四

五七

四〇

一五九

三元

四四一

三元

七二

限ノ到來セサルモ判決ヲ爲スノ時既ニ其期限ノ到來シタルニ於テハ其到來シタル狀態ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

訴訟中其訴訟ノ目的物ニ變更ヲ來シタル場合ニ於テハ起訴ノ當時ニ於ケル狀態ニ依ラスシテ判決當時ノ狀態ニ依リ其裁判ヲ受ケヘキモノナリ

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟トシテ適法ニ提起セラレタル訴ト雖モ判決ヲ爲ス當時ニ於テ其權利關係存在セサルニ至リタルトキハ訴ト共ニ請求ノ不適法ニ歸スヘキコトアルハ當然ナリ

○取下ケタル訴ヲ再ヒ提起セル者カ第二審ニ至リ始メテ前訴訟費用ヲ辨濟シタル場合ト雖モ妨訴抗辯ノ理由ナキニ歸スルハ當然ナリ

【第二百二十五條】

○代表資格ヲ原因トシテ一定ノ請求ヲ爲シタル場合其代表資格ナシトノ裁判ハ本案ノ全局ヲ終了セシムルヲ以テ終局判決ナリトス

○民事訴訟法中判決トハ判決書ヲ指稱シ之ヲ爲ストハ判決書作成ノ意義ニシテ言渡ノ意義ヲ包含スルモノニ非ス

○裁判所ハ當事者ノ數箇ノ獨立ナル攻撃防禦ノ方法中其一ニ制限シタルトキ同法第二百二十七條ニ從ヒ中間判決ヲ爲シ得ヘキモノナレトモ其制限ノ論點カ本案ヲ終局セシムルニ足ルヘキ事柄ニ屬シ且既ニ其裁判

三四	四	二六
三五	六	二九
四〇		三七
四〇		四九
二九	〇	三
三	六	三七

ヲ爲スニ熟スルト認ムルトキハ直ニ本案ノ終局判決ヲ爲シ得ヘキモノトス

【同主旨】

・ 中間判決ヲ爲スヘキ範圍内ニ於テ辯論ヲ爲シ其結果他ニ辯論ヲ要スル事項ナキトキハ直ニ終局判決ヲ爲スコトヲ得

【反對】

終局判決ハ本案ニ付キ辯論ヲ經タル上ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サルニ原院ハ第一審ニ於テ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲シタル一ノ防禦方法ノ範圍ニ限り辯論ヲ爲サシメ直ニ終局判決ヲ爲シタルハ不法ヲ免レス

【第二百二十六條】

○正當ナル要求ト否ラサルモノトヲ一齊ニ請求シタリトテ之ヲ請求ノ理由ナシト云フコトヲ得ス

○物件引渡ノ數箇ノ請求アルトキ相手方カ其請求中異議ナキ物件ニ付テハ裁判所ハ之カ返還ヲ言渡スヘキモノナルニ恰モ一箇ノ請求ニ於ケルカ如ク其請求全部ヲ斥ケタルハ訴訟手續ニ違背シタル不法アリ

【第二百二十七條】

○上告人カ町村制ニ據テ區ノ共有財産ノ紛争ハ村長ノ出訴スヘキモノニシテ被上告各個人カ請求スヘキモノニ非ストノ抗辯ハ民事訴訟法ノ認

三	二	四
二九	二	九
二七		四九
二五	三	五
三〇	二	七

シタルハ民事訴訟法第二百二十八條第二項ニ違背スルモノトス
○民事訴訟法第二百二十八條ニ從ヒ爲シタル中間判決ニシテ數額ノ争ヒ存在セサルトキハ普通ノ中間判決ナルヲ以テ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○請求ノ原因ニ對スル判決ナルヤ否ハ裁判所ノ意見ニ因リテ定マルモノニ非ス

○被告ハ其契約ノ當事者ニ非スト云フ抗辯ハ之ニ因ル請求原因ノ有無ニ拘ハラズ別ニ提出シ得ヘキモノナルヲ以テ該抗辯ニ對シ被告ハ其契約ノ當事者ナリトノ判決ハ請求原因ノ有無ヲ決シタルモノニ非ス

(同左)

債務ヲ負擔スヘキ者ノ資格ニ付テノ争ハ請求ノ原因ニ付テノ争ニ非ス從テ其資格アリトノ中間判決ハ上訴ニ關シ終局判決ト看做サルヘキ判決ニ非ス

○請求ノ原因ヲ正當ナリトスル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做ストハ民事訴訟法第二百二十八條ニ於テ明カニ規定スル所ナレハ請求ノ原因ニ關スル判決ノ不法ハ援テ以テ數額ニ關スル判決ノ上告理由ト爲スヲ得サルモノトス

○第一審裁判所ニ於テ民事訴訟法第二百二十八條ノ規定ニ依リ請求ノ原

二元	二元	三元	二元	二元	二元
二元	二元	三元	二元	二元	二元
二元	二元	三元	二元	二元	二元

因ノミニ付キ裁判ヲ爲シ其判決確定スルトキハ同審級ノ裁判所ハ勿論上訴審ノ裁判所モ亦其確定判決ニ羈束セラルヘキモノトス
○請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ争アル場合ニ於テ裁判所カ其原因ナシトスル以上ハ縱令辯論ヲ制限シタルトキト雖モ終局判決ヲ以テ請求ヲ却下スヘキモノトス

○請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ争ヲ生シ裁判所カ先ツ其原因アリトノ中間判決ヲ爲シ該判決確定スルトキハ裁判所ハ後日數額ニ付テノ終局判決ヲ爲スニ當リ之ニ羈束セラルヘキモノトス

【第二百二十九條】

○權利義務カ合一ニノミ確定スヘキ訴訟ニ於テ其被告人中ノ一名カ請求ヲ認諾スルモ認諾判決ヲ爲スヘキモノニ非ス

○被告ニ於テ原告ノ請求ヲ認諾スルモ其認諾ニ基キ敗訴ノ言渡ヲ求ムル申立ナキ以上ハ判決ヲ爲スノ必要ナシトス

(同左)

請求ノ認諾アルモ原告ニ於テ民事訴訟法第二百二十九條ニ從ヒ申立ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ之ニ基ク判決ヲ爲スコトヲ得ス
被告カ原告ノ請求ヲ認諾スルモ原告カ其認諾ニ基キ判決ヲ受度トノ申立ヲ爲ササル以上ハ裁判所ハ認諾判決ヲ與フヘキモノニ非ス

二元	二元	三元	二元	二元	二元
二元	二元	三元	二元	二元	二元
二元	二元	三元	二元	二元	二元

主要ナル争點ヲ不問ニ措キテ爲シタル裁判ハ不法ノ裁判ナリ

確定裁判ノ效力ハ直チニ訴外人ヲ羈束シ得ヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ訴外人カ訴訟當事者ノ一人ヨリ正當ニ買得シタル不動産取戻ノ訴訟アルニ方テハ訴外人ノ過失不注意如何ヲ審理シ其理由ヲ付スルハ判斷上緊要ノ點ナルニ之ヲ爲ササルハ不法ノ裁判ナリトス

甲乙兩名地所ノ賣買契約ヲ取結地代金モ兩名ニ對シ交付シタル後其目的タル地所所有名義カ甲ノ一名トナリタル場合ト雖モ兩名一致シテ丙者ニ抗爭スルトキニハ丙者ハ所有名義者ニ對スルノ外乙ヲモ對手トシテ地所引渡ノ手續ヲ請求スルハ當然ナリ此意味ヲ採用シテ裁判シタレハ主要ノ防禦方法ヲ判決セサルモノト云フヲ得ス

巡查ハ民事ニ屬スル私證書ヲ調査スルノ職務ナキヲ以テ本件新乙第十二號證ノ如キハ公正ノ文書タル效力ヲ有セス然レトモ之ニ掲載シアル約定書ヲ對手人ニ於テ豫審訊問ノ際認メタリトノ事實ヲ立證シタル以上其立證ニ付テノ判定ヲ爲ササルヘカラス然ルニ何等ノ判定ヲモ爲ササルハ必要ナル防禦方法ヲ遺脱セシ不法ヲ免レス

○民事訴訟法第二百三十條第二項ノ數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法中其何レカ適切ナリヤヲ認ムルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス

○民事訴訟法ニ所謂數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法トハ孰レモ相互ニ相對的無關係ナル法律上ノ判斷ヲ爲サシムルモノヲ云フ故ニ辯論中ハ訴訟ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス民事訴訟法第百十九條ノ規定ニ從ヒ何時ニテモ之ヲ制限シ得ヘク又辯論ノ終結後ハ同法第二百三十條第二項ノ規定ニ依リ其間適切ナリト思料スル一箇ニ對シテノミ判斷ヲ

二五三

二六二

二六二

二七二

二八五

與フルコトヲ得ヘシ

○債務ノ更改ナルヤ追認ナルヤカ争トナリタル場合ニ於テ更改ノ事實ヲ認メタル以上ハ追認ノ事實ニ付テハ別ニ説明ヲ爲スノ要ナシ

(同主旨)

裁判所ハ如何ナル論争モ判定ヲ與ヘサルヘカラサルノ責ナシ

買戻契約ノ期限後ハ買戻ノ權能既ニ消散スルヲ以テ其契約ヲ無効トスルニ付キ催告又ハ付遲滯ノ手續ヲ要セス而シテ自己ノ手控又ハ他人ノ書付等ハ對手人ニ對シ證據力ヲ有セス則チ裁判所力之ヲ認メテ判定シタル以上ハ別ニ此申立ニ對スル説明ヲ爲ササルモ致テ争點ヲ判セスト云フヲ得ス

事實裁判官ハ當事者雙方ノ提出スル攻撃防禦ノ方法中重要ト認ムル争點ヲ判斷シ其理由ヲ明示スヘク必スシモ當事者ノ提出スル數多ノ證據ヲ取捨スルニ付キ逐一之カ理由ヲ詳悉明示スルヲ要セス

貸貸人ニ於テ貸借人カ貸借期限中其場所ニ從前ノ形狀ニ反シタル新工事ヲ施シ以テ貸貸人ノ所有權ヲ害シタリトシ之カ復舊ヲ求ムル訴訟ニ付テハ當事者一方カ既ニ其新工事ニ干與セザリシコトヲ判示セラレタル上ハ其貸借人タルト否ノ事實ハ之ヲ審究スルヲ要セス
裁判所ハ數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法中其一箇ヲ適切ナリトスルトキハ他ノ方法ニ付キ判斷スルノ義務ナシ(同一判例二九年六卷三七頁)

○債權者カ保證人ニ對シ債務ノ履行ヲ請求シタル場合ニ裁判所ニ於テ保證人ノ提出セル檢索ノ抗辯ヲ理由アリトシ債權者ノ請求ヲ不當トスル

三二二

三三九

三五八

三六二

三七七

三八一

三九八

トキハ保證債務ノ有無ニ付キ別ニ判斷ヲ爲ササルモ違法ニ非ス

【第二百三十一條】

○調書ニ記載シテ明確ニスヘキ旨ノ規定アルモノヲ除ク外口頭辯論ノ際當事者ノ陳述シタル事項ハ法廷調書ニ記載アラサルトモ判事ハ之ヲ判決中ニ掲記スルコトヲ得ヘク而シテ以上ノ事項ニシテ判決ニ掲記セラレタルトキハ口頭辯論ノ際當事者ノ陳述シタルヲ判事力聽取リタルニ因ルモノト看做スヘキモノトス

○調書ヲ以テ明確ニスルヲ要セサル事項ニ付テハ判文中事實トシテ掲クルモノハ縱令調書ニ其記載ナキモ他ニ反對ノ證據ナキ限リハ當事者ニ於テ申述シタルモノト看做ササルヘカラス

○原告所有名義ニ登記スヘシトノ請求中ニハ當然被告所有名義ノ登記ヲ抹消スヘキコトヲモ包含スト解セサルヘカラス

○民事訴訟法第二百三十一條第一項ハ當事者ノ一方ヨリ請求セサル事物ヲ他ノ一方ノ責任ニ歸セシムヘカラサルコトヲ規定シタルモノニシテ裁判所カ當事者ノ一方ヨリ提出シタル妨訴抗辯ニ基キ他ノ一方ノ訴ヲ無訴權トシテ却下スルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(同三三)

三六 二五

三五 一 五

三五 四 八

三五 八 五

三三 六 四

民事訴訟法第二百三十一條第一項ニ「裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告ニ歸セシムル權ナシ」トアルハ單ニ判決主文ヲ以テ言渡スヘキ實體上ノ事物ヲ指シタルモノナリ

○裁判所ハ申立ノ範圍ヲ超越シテ裁判ヲ爲スコトヲ得サルモ其範圍内ニ於テハ請求ノ一部ヲ是認スルモ妨ナシ殊ニ請求ノ目的可分ナル場合ノ如キ一定ノ數字ヲ以テシタル申立アリシトキト雖モ裁判所ハ其一部ノ請求ヲ相當ナリトスル場合ニ於テハ其部分ヲ認可スル職責ヲ有スルモノトス

(同三三)

登記ヲ請求スル訴訟ニ於テハ登記ノ手續ヲ爲ササル場合ヲ豫想シ併セテ裁判ヲ下スモ請求外ノ裁判ニ非ス

請求以外ニ涉リタル判決ハ不法ナリ

申立テサル事物ヲ訴訟人ニ歸セシムルハ違法ノ裁判ナリ

請求額ニ付キ論争シタル所アルモ對手者トナルヘキモノニ非ストノ抗辯ナキニ拘ハラズ對手者タルヘキモノニ非スト判決シタル裁判ハ等點以外ニ涉リタル判決ナリ

甲者カ乙者ニ向テ辨濟ヲ求メタルニ非スシテ乙者職務上ノ行爲ヲ請求シタルモノナルニ乙者法廷上ノ自認ヲモ顧ミス宛モ直接債務者ニ對シテ債權ノ有無ヲ判定スルカ加キ理由ヲ以テ其請求ヲ排斥シタルハ請求以外ノ裁判ヲ爲シタルモノトス

債權者カ訴狀ニ於テ起訴ノ日マテノ利子ヲ掲ケタルノミナルモ元金辨濟ノ利息ヲ請求シタルコト解釋上顯著ナル以上ハ何年何月以後一ノ年百分ノ六ノ利息(起訴日以後執行濟ニ至ルマ

二九 一 四

三四 五 二四

二四 一 一四

二五 一 三

二六 一 一

二六 一 九

テノ利息ヲ包含ス）ヲ債務者ヨリ支拂フヘシト言渡スモ申立以外ニ涉リタル裁判ト云フヲ得
 ス
 第二審裁判所ニ上訴スルトキ現然利息ノ判決ヲ申立テサルモ元來第一審裁判所カ利息ノ判決
 ナルヲ以テ第二審裁判所カ利息ノ事ニ付キ裁判ヲ與フルモ之ヲ申立テサル事項ニ裁判ヲ下シ
 タルモノト云フヲ得ス
 重要ノ申立ニシテ口頭辯論調書若クハ其附録トシテ添附スヘキ書面ニ記載ナキモノヲ採用シ
 タル判決ハ提出セサル事實ヲ提出シタリト看做シタル不法アリ
 反訴ニ依リ義務ノ相殺ヲ求メタルモノニ對シ法律上ノ相殺ヲ主張スルモノトシテ其中申立ヲ排
 斥シタルハ申立以外ニ於テ裁判ヲ爲シ申立ニ付テ裁判ヲ爲ササル不法ヲ免レズ
 權利ノ確認ハ共同權利者ノ間ニ分割スルヲ得スト雖モ其目的物ニ對スル權利ノ程度ハ之ヲ相
 當ノ範圍内ニ限定スルヲ得ヘシ故ニ分水量十分ノ五ニ對スル請求ノ範圍内ニ於テ十分ノ四ニ
 對スル權利ヲ確認スヘシトノ判決ハ申立ナキ事項ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス
 土地收用審査委員會ニ於テ裁定シタル補償額ヲ過多ナリトシテ收用者ヨリ減額ヲ請求シ又少
 額ナリトシテ被收用者ヨリ反訴ヲ以テ増額ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ收用者ノ請求ヲ
 棄却シタルニ拘ハラヌ被收用者ニ對シ補償額ノ減少ヲ言渡シタル判決ハ申立テサル事物ヲ當
 事者ニ歸セシメタル不法アリ
 ○民事訴訟法第二百三十一條ニ謂フ裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若ク
 ハ被告ニ歸セシムルノ權ナシトハ請求ナキモノヲ原告若クハ被告（反
 訴原告タルトキ）ニ歸セシムルコトヲ得サルノ謂ナリ

三五	三三	三〇	二九	二九	二六	二六
九	一	一	三	二	二	二
一六二	三三	七	一〇四	一四五	二一八	二二八

○法律行爲ノ有效無效ヲ判斷スルハ固ヨリ裁判所ノ職權ニ屬スト雖モ其
 判斷ハ當事者ノ申立テタル事實ニ憑據セサルヘカラス縱合其行爲カ公
 ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルコトヲ目的トシ又ハ條件トスルモ當事
 者ニ於テ之カ申立ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其無效ヲ判定スルニ由ナ
 ク從テ其職責ヲ負フモノニモ非ス
 ○判決ノ事實ハ裁判所カ職權上調査スヘキ事項ヲ除ク外當事者ノ提出シ
 タルモノニ基カサルヘカラス

（同主旨）

裁判官カ職權ヲ以テ調査シタルモノハ民事訴訟法第二百三十一條ヲ以テ之ニ擬シ當事者ノ申
 立テサル事物ニ對シ爲シタルモノトシテ論告スルヲ得ス
 職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ付テハ當事者ノ辯論以外ニ涉リ判決ヲ爲スモ不法ニ非ス

○拒絕證書カ商法第五百十五條所定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤハ裁判所ノ
 職權上調査スヘキ事項ニ非サレハ當事者ニ於テ其要件ニ缺クル所アル
 旨ヲ主張セサル以上ハ裁判所ハ自ラ進ンテ之カ調査ヲ爲シ其無效ヲ判
 定スヘキ責ヲ負フモノニ非ス

○裁判所カ當事者ヨリ提出セサル事項ヲ以テ宛モ提出シタルモノノ如ク
 斷定シ之ニ基キ中間判決ヲ爲シタルハ不法ナリ

三六	三七	三五	三三	三六	三三
		八	六		
一八四八	五九	六	一	八四三	六二

○原告ニ於テ冒認販賣ナル不法行為ヲ原因トシ損害賠償ヲ求ムルトキハ裁判所ハ法律上其請求ヲ許スヘキモノナルヤ否ヤヲ判定スルノ職責アルモ漫ニ賣買不履行ヲ原因ト爲シ被告ニ對シテ賠償ヲ命スルコトヲ得ス

○家督相續ノ回復ヲ目的トスル訴訟ニ於テハ其一定ノ申立中相續ノ開始セル時期ノ如キハ重要ナル記載ニ非サルヲ以テ縱令判決主文ニ表示シタル時期カ準備書面ノ記載ト符合セサルモ民事訴訟法第二百二十二條若クハ第二百三十一條ニ違背シタル不法アル裁判ナリト云フヲ得ス

【第二百三十一條】

○口頭辯論ニ臨席セサル判事ハ合議判決ニ參與スルコトヲ得ス

○一定ノ申立及ヒ其辯論ヲ聽カサル判事カ干與シテ爲シタル判決ハ不法ノ裁判ナリ

○當事者ハ最終ノ口頭辯論ニ於テ訴訟全體ノ關係ヲ表明シ證據ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲スヘキモノナレハ最終ノ口頭辯論ニ立會ヒタル判事ハ其以前ニ爲シタル證據調ノ結果ニ付テモ亦辯論ヲ聽キタルモノト看做サルナリ

(同主旨)

四〇	四〇〇
四〇	九〇七
四五	四三三
四六	二二三
四三	四二五

部員ニ變更交替アリシカ爲メ中間判決ニ關スル辯論ノ開延ニ關席シタリト雖モ本案判決ノ基本タル口頭辯論ニ臨席シタル以上ハ民事訴訟法第二百三十二條ノ規定ニ違背セサルモノトス
第二回口頭辯論ニ於テ第一回ニ引續キ證據調ヲ爲シタル後當事者其結果ニ依リ辯論ヲ爲シタルコト明カナル以上ハ民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂判決ノ基本タルヘキ辯論ヲ爲シタルモノナルカ故ニ縱令第一回ニ臨席シタル判事ニ更迭アルモ之カ爲メ第二回ニ於テ更ニ事實及ヒ證據上ノ陳述ヲ爲サシメサレハトテ不法ニ非ス
最終ノ口頭辯論ニ於テ當事者ハ訴訟全體ノ關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲スヘキモノナレハ該辯論ハ通例判決ノ基本タル口頭辯論ナリトス

(反對)

第二回ノ口頭辯論ニ至リ列席判事中ニ變動アリタルトキハ其辯論ヲ更新セサルヘカラス否ラサレハ其判決ハ違法ナリ
辯論ノ進行中判事ニ更迭アリタル場合ニハ口頭審理ノ原則ニ依リ更ニ辯論ヲ爲スコトヲ要ス

○最終ノ口頭辯論ニ於テハ當事者ハ訴訟ノ全體ニ付キ陳述スヘキモノトス

○口頭辯論ノ際列席判事ニ變更アルモ更ニ辯論ヲ更新セサルノミナラス當事者カ訴訟ノ關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲シタル事實蹟ナキトキハ其新ニ列席シタル判事ハ判決ノ基本タル口頭辯論ノ全部ニ臨席シタルモノト認ムルコトヲ得ス

(同主旨)

二六	二二七〇
二六	五五〇
三一	一〇一六
二五	二六
二七	九二
二五	九二
三三	二八六
三四	二八七

民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂基本タル口頭辯論トハ判決ニ接著スル口頭辯論ヲ指稱ス故ニ判事ニ更迭アルモ其辯論ニ臨席シタル判事カ判決ヲ爲スニ付テハ特ニ辯論ノ更新ヲ要セス判決ノ基本ニ非サル口頭辯論若クハ言渡ニ付キ他ノ判事カ臨席スルモ基本タル口頭辯論ニ臨席セル判事ノ爲シタル判決ハ適法ナリ

判決ノ基本タル口頭辯論ニ臨席セサル判事ノ爲シタル裁判ハ不法ナリ
判決ハ其基本タル口頭辯論即チ訴訟全體ノ關係及ヒ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ聽キタル判事ニ限り之ヲ爲スヘキコトハ民事訴訟法第二百三十二條ニ規定スル所ナルヲ以テ此規定ニ違背シタル裁判ハ不法ナリトス

○判決ヲ爲シタル後ニ至リ裁判所カ判決中ノ違算書損ノ如キ著シキ誤謬ヲ更正スル場合ニハ前判決ニ干與セサル判事ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○列席判事ニ更迭アルモ口頭辯論ヲ更新セサルヘカラサルモノニ非ス〔同一判例三五年五卷一一〇頁〕

○基本タル口頭辯論トハ訴訟事件ノ全體ニ付キ辯論シタル判決前ノ最終ノ口頭辯論ヲ指スモノトス

(同前)

口頭辯論中最終ノ辯論ハ民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂判決ノ基本タル口頭辯論ナリトス證據調ノ結果ニ付テ爲ス最終ノ辯論ハ民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂基本タル口頭辯論ナリトス

三〇	三二	三五	三五	三五	三三	三三	三二	三〇
五	一〇	一〇	六	一	二	一〇	五	五
三七	一六	一六	一	五七	七	一六〇	一六	一七

證據調ノ結果ニ付キ爲シタル最終ノ辯論ハ民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂判決ノ基本タル口頭辯論ナリトス

民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂基本タル口頭辯論トハ判決ニ接著スル口頭辯論ヲ指稱ス故ニ此辯論ニ臨席シタル判事カ判決シタル裁判ハ不法ニ非ス

判決ノ基本タル口頭辯論トハ數回ノ辯論アリタル場合ハ其判決ニ先ニスル最後ノ口頭辯論ヲ云フ

辯論續行ノ期日ヲ定メタル場合ニ於テハ最終ノ期日ヲ以テ各當事者カ事實及ヒ法律上一切ノ訴訟關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付テ辯論スヘキタル辯論期日ト爲スモノナルカ故ニ此期日ニ臨席シタル判事カ判決ヲ爲シタルトキハ適法ナリ

最終ノ辯論期日即チ判決ニ接著スル辯論ハ民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂判決ノ基本タル口頭辯論ナリトス故ニ之ニ臨席シタル判事カ判決ヲ爲シタルハ相當ナリ

最終ノ辯論ハ判決ノ基本タル口頭辯論ナリ

判決ノ基本タル口頭辯論トハ判決ニ接著スル辯論ヲ指スモノトス

民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂基本タル口頭辯論トハ判決前ノ最終ノ口頭辯論ヲ指シタルモノトス

數回開キタル口頭辯論ニ於テハ判決ニ接著スル辯論即チ最終ノ辯論ヲ以テ判決ノ基本タル辯論ト爲スヘキモノトス

○各當事者カ豫メ辯論ヲ盡スモ其後證人ノ訊問ヲ爲シタルトキハ其證據調完結後訴訟ノ關係ヲ表明シ其結果ニ付キ更ニ辯論ヲ爲サシメサル以上ハ判決ノ基本タル辯論ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

二九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二九
九	三	八	九	一〇	九	二	二	九
八一	三四	三三	三	九	二六	二	八	一七

○調書ニ記載シテ明確ニスヘキ規定アル申立及ヒ陳述若クハ自白又ハ證人及ヒ鑑定人ノ供述若クハ檢證ノ結果等ニシテ苟モ之ヲ明確ニシタル以上ハ爾後辯論數回ニ涉リ縱シヤ其間ニ於テ判事ニ交迭アルモ其交迭アル毎ニ右明確ニシタル事項ヲ更新スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第二百三十二條ハ總テノ證據調終了後ノ判決ヲ受クル基礎ト爲ルヘキ辯論ニ臨席シタル判事ハ縱令其以前ノ辯論ニ臨席セサルモ本案ノ判決ヲ爲シ得ル資格ヲ有スヘキ者タルコトヲ規定シタルモノナリ

○辯論數日ニ涉リ前回ノ辯論ニ臨席シタル判事ニ交迭アリテ最終ノ辯論ニ新タナル判事加ハリタルトキ事實上法律上ノ陳述及ヒ證據調ノ顛末等總テノ訴訟材料ヲ更ニ提出シ自己ニ於テ必要ト思料スル限リ辯論ヲ繰返シ自己ノ主張ニ利益ナル心證ヲ判事ニ得セシムルコトニ注意スルカ如キハ各當事者ノ應ニ執ルヘキ務ニシテ判事ハ此場合ニ於テモ亦不干渉主義ノ原則ニ依リ當事者ノ爲シタル辯論中不明瞭ナル部分ヲ釋明セシムル迄ニ止マリ辯論シタル事項ニ對シ判斷ヲ與フルヲ以テ足レリトス

○最終ノ口頭辯論期日ニ臨席シタル判事ニ於テ判決ヲ爲シ當事者雙方ノ

三

九

三五

二

一〇三

三五

二

一〇三

在廷セサル儘之ヲ言渡シタル場合ニ在テハ縱令當事者ノ一名ヲ調書ニ掲記セサリシトテ之カ爲メニ其判決ヲ以テ民事訴訟法第二百三十二條ノ法則ニ違背セルモノト云フヲ得ス

○基本タル口頭辯論ニ臨席セス且前審ニ於テ其事件ニ付キ裁判長トシテ判決ヲ爲シタル判事ノ干與セル判決ハ違法ナリ

○同一ノ訴訟事件ニ付キ各別異ノ判事ヲ以テ構成セラレタル裁判所カ數回ノ口頭辯論ヲ開キタル場合ニ於テハ當事者ヨリ訴訟關係ノ全體ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ陳述ヲ爲シタル最終ノ口頭辯論ヲ以テ判決ノ基本タル口頭辯論トス

(同主旨)

同一訴訟ニ付キ數回ノ口頭辯論アリテ各辯論毎ニ立會判事ヲ異ニセシ場合ニ於テ所謂判決ノ基本タル口頭辯論トハ其判決前ノ最終ノ口頭辯論ノミヲ云フモノニシテ其以前ノ口頭辯論ハ基本タル口頭辯論ニ非ス

○民事訴訟法第二百三十二條ハ判決ニ付テノ評議及ヒ判決書ノ作成ニ關スル規定ニシテ判決ノ言渡ハ之ニ包含セス從テ判決ノ基本タル口頭辯論ニ臨席セサル判事カ其言渡ニ干與スルモ違法ニ非ス

(同主旨)

判決原本ニ辯論ニ臨席シタル判事ノ連署アル以上ハ他ノ判事カ裁判言渡當日裁判所構成ノ爲

三七

三

三七

二五〇

三七

二七〇

三五

五

八

三九

五三

メノミニ列席シタルハトテ民事訴訟法第二百三十二條ノ規定ニ違背セス
口頭辯論ニ臨席セサル判事カ判決言渡ノ當日列席シタルモ其判決ニ參與セス單ニ裁判所構成
ノ爲メニノミ列席シタルコト明カナルトキハ之ヲ違法ノ判決ト云フヲ得ス
口頭辯論ヲ終結シテ判決シタル後其言渡前ニ當該裁判官轉官若クハ轉任スルモ其判決ハ有效ナ
リ

判決ノ言渡ニ辯論及ヒ判決ニ干與セサル判事ノ加ハルコトアルモ違法ニ非ス

民事訴訟法中基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事カ其判決ヲ爲スコトヲ規定シアルモ其判決
シタル判事カ必スシモ其言渡ヲ爲ササルヘカラストノ規定ナシ故ニ判決原本ニ署名セサル判
事カ其言渡ヲ爲スモ定數ノ判事カ臨席シテ言渡シタル上ハ違法ニ非ス

判決ノ基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニシテ其判決原本ニ記名調印セル上ハ判決自體ハ
有效ニ成立ス故ニ形式ニ屬スル言渡ニ付キ他ノ判事代テ列席スルモ違法ニ非ス

判決ハ評議ノ結果ニ依リ成立シ其言渡ハ既ニ成立シタル判決ヲ外面ニ標識スルニ過キス故ニ
判決ノ基本タル口頭辯論ニ臨席セサル判事カ判決ノ言渡ヲ爲スモ違法ニ非ス

民事訴訟法第二百三十二條ハ基本タル口頭辯論ニ與リタル判事ニ非サレハ其判決ヲ爲スコト
ヲ得サル旨ヲ規定シタルニ過キスシテ其判決ノ言渡ハ他ノ判事ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケサ
ルモノトス

民事訴訟法第二百三十二條ハ判決ノ基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニ非サレハ判決ヲ爲
スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルニ止マリ其言渡モ亦同一ノ判事之ヲ爲スコトヲ要ストシタル
モノニ非ス
判決ノ言渡ハ判決ヲ公表スルノ方式ニ過キサレハ判決ニ干與セサリシ判事ヲ以テ構成シタル

裁判所カ其言渡ヲ爲スモ不法ニ非ス

【第二百三十三條】

○判決ハ口頭辯論終結ノ日ニ指定シタル期日ニ言渡サス其後認廷ヲ公開
シテ指定シタル日ニ之ヲ言渡スモ不法ニ非ス

○民事訴訟法第二百三十三條但書ハ七日以内ニ言渡ヲ爲ササルニ於テハ
其判決ヲ無効ナラシムヘシトノ法意ニ非ス

(同主旨)

民事訴訟法第二百三十三條ノ但書ニ其期日ハ七日ヲ過ケルコトヲ得スレトアルハ畢竟裁判所
ヲシテ之ヲ守ラシムル規定タルニ過キサレハ七日以後ニ裁判ヲ言渡シタルハトテ其裁判ヲ無
効ナラシムヘキ法條ニ非サルカ故ニ上告ノ理由トナラス

民事訴訟法第二百三十三條但書ハ裁判所ヲシテ遵守セシムヘキ規定ニ過キサレハ辯論終結後
七日ヲ過キ判決ヲ言渡スモ爲メニ其判決ハ無効トナルヘキモノニ非ス

○判決言渡ノ期日ヲ宣言シタル後何等ノ決定ヲ爲サスシテ之ヲ變更スル
ハ違法ナリト雖モ之カ爲メ上告人ノ權利上ニ利害ノ影響ヲ及ホササル
ヲ以テ上告ノ理由ト爲ルヘキ限ニ在ラス

○裁判所カ判決言渡ノ期日ヲ指定セサルハ違法ナレトモ之カ爲メ當事者
ニ不利益ヲ蒙ムラシメタル場合ニ在ラサレハ上告ノ理由ト爲ラス

【第二百三十五條】

(第二百三十三條)

三七 一一三

三〇 六 六

三四 二 七

二五 一 八

二六 四 五

三六 二 〇

三九 五 六

二六 二 二七五

二八 一 一六

二九 二 八二

三〇 二 八二

三三 五 一〇四

三三 四 五

三二 六 七

三四 四 三

三五 五 三

○判決ハ言渡ナル方式ニ因リ言渡ノ瞬間ニ其裁判所ニ於テ動カスヘカラサルノ效力ヲ有シ外部ニ對シテ發生スヘキモノトス從テ言渡ナキ判決ハ形式上縱令完全ニ編製セラレ又適式ニ當事者ニ送達セラレタリトスルモ實質上一箇ノ書面ニシテ外部ニ對シテ判決タル效力ヲ有セス

【第二百三十六條】

○判決ニハ訴訟ノ主體タル當事者及ヒ裁判所ノ名稱ヲ掲クルノ外當事者ノ陳述シタル事實及ヒ爭點ノ摘示殊ニ其提出シタル申立即チ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ヲ表示シ而シテ其事實及ヒ爭點ニ對スル裁判ノ理由ヲ付シ其申立ニ對シ之ヲ是認シ若クハ之ヲ否認スル主文ヲ掲クヘキモノトス

【同五言】

民事訴訟法第二百三十六條第二號ノ規定ニ於ケル事項タルヤ少クモ判決ノ基本タル事實上ノ關係ヲ摘示シ及ヒ如何ナル判決ヲ受クヘキ申立ヲ爲シタルヤチ表示セサルヘカラス
判決ニ當事者ノ提出シタル一定ノ申立及ヒ其陳述シタル事實及ヒ爭點ノ要領ヲ掲載セサルハ違法ナリ

○準備書面及ヒ判決ニ原告「何某外幾名」ト記載シタル場合ニ於テ其幾名ノ何人ナルヤハ訴狀添附ノ委任狀ニ總體ノ原告氏名住所等存スルヲ以テ訴狀ニ之カ表示ヲ掲ケタルモノト看做スコトヲ得ヘキカ故ニ民事訴訟

三七	三七	三九	三九
三九	三九	四一	四一
四一	四一	四三	四三
四三	四三	四五	四五

訟法第五條第一號第九十條第一項第一號及ヒ第二百三十六條第一號ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○終局判決原本ニハ少ナクモ各當事者ノ氏名住所ヲ掲記スヘキモノナレトモ勝訴ノ共同訴訟人ノ氏名住所ヲ畧記スルカ如キハ敗訴者ノ不利トナラス且ツ當事者表示ノ欠缺ハ民事訴訟法ニ所謂常ニ法律ニ違背シタルモノニ非サルヲ以テ上告ノ理由トナラス

○民事訴訟法第二百三十六條ニ依レハ判決ニハ別ニ訴訟代理人ノ氏名ヲ掲クヘキ規定ナキカ故ニ裁判所カ誤リテ辯論ノ際出廷セサル訴訟代理人ノ氏名ヲ判決ニ掲ケタルハ必要ナラサル事項ヲ掲ケタルニ過キサルヲ以テ此瑕疵ハ判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス

○民事訴訟法第二百三十六條第一號ノ規定ニ於ケル法定代理人ノ氏名ハ之ヲ判決ニ掲クヘキヲ本則トスルモ同條第三號ニ所謂裁判ノ理由ノ如ク之ヲ掲ケサルモ絶對的ノ上告理由タルヘキモノニ非ス

○判決中當事者ノ表示ニ株式會社支店ノ文詞アルトキハ其意義ハ法人タル會社ヲ指スモノニシテ同支店カ獨立シテ訴訟當事者タルノ旨趣ニ非ス

○當事者ノ法律上代理人ノ氏名ハ當事者ノ身分又ハ職業ト均シク必スシ

二六	二六	二八	二八
二八	二八	三〇	三〇
三〇	三〇	三二	三二
三二	三二	三四	三四

モ判決ニ掲載スルコトヲ要セス

○民事訴訟法第二百三十六條第一號ニ於ケル當事者及ヒ法律上代理人ノ表示ハ其何人ナルヤヲ人違ノ恐ナキ程度ニ記載スレハ足ルモノニシテ必スシモ詳畧ノ差アルコトヲ許ササル法意ニ非ス

(同主旨)

判決書ニ掲ケル當事者ノ表示ハ當事者以外ノ人ニ紛レナキ方法ニ於テ記載スレハ足レリ故ニ其身分職業住所ハ之ヲ畧記スルカ又ハ其記載ニ相違ノ廉アリトスルモ其何人ナリヤチ知リ得ヘキトキハ表示ノ效力ヲ失フモノニ非ス

判決書ニ掲クヘキ當事者ノ表示ハ其當事者以外ノ人ニ紛レナキ方法ニ於テ記載スレハ足ル故ニ身分職業ヲ畧記スルモ表示ノ效力ナシト云フヲ得ス

○口頭辯論調書ハ明確ニスヘキ諸件ヲ除ク外細大漏サス筆記スヘキモノニ非ス故ニ之ニ記載セラレサルノミヲ以テ原院カ其陳述セサル事項ヲ判文ニ掲載シタリト云フヲ得ス

○判決書中事實摘示ノ部ニハ當事者カ爲シタル攻撃防禦ノ方法ヲ逐一掲載スルヲ要セス

○判決書ニ掲クヘキ事實及ヒ争點ハ其要旨ヲ摘示スレハ足レリ

○判決中争點ノ摘示ヲ欠クモ如何ナル事項カ争點ナルヤヲ知了シ得ルニ於テハ判決ノ瑕疵トナラス

三六	三五	三三	三〇	三〇	二九
五三	六七	一三三	九三	一	四
				四〇	一〇三

○裁判所カ當事者ノ供述ヲ掲クルニ當リ證券印税規則違反ノ證書ヲ引用スルモ判決ノ説明ニ掲ケテ判斷ノ資料ニ採用セサル上ハ判決ノ當否ニ影響ナキヲ以テ之ヲ不法ト云フヲ得ス

○民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ所謂事實及ヒ争點ノ摘示云云ハ辯論ヲ經タル係争事實ニシテ判決ヲ爲スニ必要ナルモノヲ明カニスルヲ以テ足レリトス

○請求ノ原因タル事實ノ申立ヲ摘示セサル判決ハ民事訴訟法第二百三十六條ニ違背シタル不法ノ判決タルヲ免レス

○裁判所カ其判決ニ掲クヘキ事實ノ範圍ハ請求權ノ由テ生スル法律上並ニ事實上ノ關係ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナルモノヲ以テ限度トシ必スシモ其原因發生ノ日時場所等總テ之ヲ掲クルコトヲ要セス

○裁判所カ判決ヲ以テ當事者ノ一方ニ或給付ヲ命スル場合ニハ給付ノ目的タルモノノ種類數量品質等其給付ノ確定ニ必要ナル事項ヲ判決ニ明示セサルヘカラス

○民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ所謂其提出シタル申立トハ同法第二百二十二條ノ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立即チ一定ノ申立ヲ指シタルモノトス

三	三	三	三	三	三
九	八	七	七	七	七
二元	五	三	三	三	三

○民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ所謂當事者ノ口頭演述ニハ當事者ノ提出シタル證據方法殊ニ證據調アリタルトキハ其結果ヲモ包含スヘキヲ以テ之カ口頭ノ演述ヲ爲シタル場合ニハ事實ノ摘示ヲ掲クルヲ通例トスルモ理由中ニ併セテ之ヲ説明スルコトヲ妨ケス

○裁判所カ判決ノ事實摘示ニ當事者ノ提出シタル證據方法及ヒ證據調ノ結果ヲ掲記セサルコトアルモ此一事ヲ以テ破毀ノ理由トスルニ足ラス(同旨)

判決ノ事實摘示ニ當事者ノ提出シタル證據ヲ掲ケサルハ違法ナリト雖モ之カ爲メニ其判決ヲ破毀スルニ足ラサルモノトス

- 無證ノ陳述ニ對シテハ承審官ハ説明スルヲ要セス
- 一ノ契約證書ヲ無効ナラシメテ他ノ契約證書ニ羈束セラルヘキモノト爲サンニハ必ス其理由ヲ示ササルヘカラス之ヲ示ササルトキハ理由ナキ不法ノ裁判ナリ
- 判決ノ説明前段後段同一ノ理由ニ歸スル場合ニ於テ既ニ之ヲ前段ニ説明シタルトキハ再ヒ之ヲ後段ニ説明スルヲ要セス
- 法律ノ解釋ニ關スル單純ノ問題ハ縱令一箇ノ爭點トナルモ其解釋ニ就キ判文上自ラ判旨ノアル所明カナル上ハ特ニ其爭點ニ對シ判決ヲ爲サ

三九	三七	二四	二五	二五	二五
七二	一四九	一三三	一	一	一
七二	二四九	一三三	一	一	一
七二	二四九	一三三	一	一	一

サルモ爲メニ本案ノ結果ニ影響ヲ及ボササルモノトス

- 單ニ組合營業ノ實權ヲ有スルノ故ヲ以テ營業者ト認メ速斷シタル裁判ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ
- 原判文中ニ「數回ノ督促ヲ受ケ」云云ノ文字ハ以テ付遲滞ノ理由ニ供シタルモノト云フヲ得ヘシ
- 證書ヲ正當ノモノト判定セシ理由ヲ示スニ於テハ該證書成立ノ原因ハ説明ヲ要セスシテ明カナリ
- 後見人ノ幼者ヲ保護監督スルヤ必スシモ幼者ノ近傍ニ在ルヲ要セス裁判ニ於テ後見人ヲ有名無實ノ後見人ト爲スニハ必ス確乎タル證據理由ヲ示ササルヘカラス但幼者ノ家族カ後見人ノ認承ヲ竣タスシテ負債ヲ設ケタル事迹アルカ爲メ其後見人ヲ有名無實ト云フヲ得ス
- 尙モ債權ノ有無ヲ判定スルニハ必ス一定ノ當事者ナカルヘカラサルヲ以テ其確認裁判ノ效力ヲ當事者以外ニ及ボスヘキモノトスル裁判ニハ必ス別段ノ權理由アルコトヲ要ス
- 會社解散スルトキハ將來ノ行爲ニ係ル賣買取引ハ之ヲ繼續スルノ必要ナキニ依リ其約務ノ消滅ハ當然ノ結果ナルヲ以テ特ニ之カ説明ヲ付セサルモ違法ノ裁判ニ非ス

二五	二五	二五	二五	二五	二五
一	四	四	三	二	二
二六	四	四	三	二	二
二六	四	四	三	二	二

○凡ソ義務ノ存在ヲ明認シタル場合ハ出訴期限ヲ適用スヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ此立證アルニ拘ハラヌ出訴期限ヲ適用スルニハ必ス其理由ヲ説示セサルヘカラス

○異議ヲ生シ捺印ヲモ爲サス契約成立ニ至ラサルカ如キ事ノ重要ノ論點タルトキ裁判所ニ於テ之ヲ排斥セントスルトキハ必ス其理由ヲ付セサルヘカラス其理由ヲ付セサルトキハ違法タルヲ免レス

○原判文前段ニ於テ年期小作證書ヲ差入レタル事實アリト断定シタルハ甲者外四名ヲ除クノ控訴人ノミニ係レルニ其後段ニ至リ更ニ此五名ニ對スル何等ノ理由ヲモ示サスシテ此五名モ亦自餘ノ者等ト同一ニ前契約ノ期限滿了シタルモノトシ新小作證書ヲ差入ルヘキ責務アリト爲シタルハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ

○判旨カ論地ハ一般ニ農業上通行ヲ要スル者ノ爲メ存スヘキ一ノ公道ナリトノ旨趣明瞭ニシテ且甲者ニ於テ該道路ノ開通ヲ得ハ己レカ所有スル乙地ヨリ丙地ニ通行スルニ最モ必要ナルコトヲ主張スルモノナレハ其利益アルコトハ別ニ説明ヲ要セスシテ明カナルニ因リ此點ニ付キ殊ニ説明ヲ與ヘサルモ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

○訴求ヲ司法裁判ニ屬スヘキモノニ非スト判定シタレハ之ニ對シ復タ理

二五	六	二六
二五	六	二四
二六	二	四二七
二六	二	四〇八

由ヲ説明シテ判斷ヲ下スノ必要ナシ

○曹洞宗ニ於テ事務取扱ナル役員ヲ置クヘキモノナルヤ否ヤノ爭ハ宗教ニ關スルモノニシテ其事務取扱ナル者カ役僧ナルト否トニ依テ爭ノ性質ヲ異ニスルモノニ非サレハ原院カ事務取扱ナル者ヲ役僧ナリト断定シテ其理由ヲ付セサルモ不法ノ裁判ニ非ス

○當事者ノ認メサル委任狀ニ依レル登記ヲ正當ナリト判センニハ其理由ヲ示ササルヘカラス

(同案三)

争アル證據ヲ採テ以テ判定ノ材料ニ供セント欲セハ先ツ其事實ノ理由ヲ示ササルヘカラス
原院カ法廷ニ提出セサル證據ヲ裁判ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ縱令該證據ヲ法廷ニ提出シタルトスルモ當事者カ該證據ニ不服ナルニ其文詞ヲ援用シテ之カ裁判ヲ爲サンニハ相當ノ理由ヲ示ササルヘカラス

○甲者籍ヲ其生家ニ有シ且其家ヲ相續スヘキ權利アリト決スル上ハ縱令一時離縁トナリシ父ノ實家ニ養育セララルモ爲メニ相續權ヲ失却スヘキモノニ非サレハ原裁判カ此等ノ陳述ニ對シ説明ヲ與ヘサルモ不當ニ非ス

○裁判官カ自由ナル心證ニ依リ事實ノ適度ヲ思料シテ養料ノ供給額ヲ指定シタルコト其判文上知了シ得ルニ於テハ此外ニ其理由ノ明示ヲ望ム

二七	六	二七
二七	六	二二
二七	六	五三
二五	四	二二六
二七	一	一九二
二七	四	四〇〇

○虐待又ハ侮辱ヲ請求ノ原因トスル離婚ノ訴ニ於テ請求者カ其事實ヲ知リタルトキヨリ一年内ニ訴ヲ提起シタル事實ヲ確定セスシテ其請求ヲ容レタル判決ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ

三四九

○民法施行前ニ於テ未成年者ノ爲セル法律行為ニ付テハ未成年者ノ能力ニ付キ事實承審官ノ認定スル程度如何ニ因リ法律ノ適用ヲ異ニスルヲ以テ承審官ハ其認タル程度ニ付キ明確ニ其事實理由ヲ説示セサルヘカラス

三五四

○後見人カ其任務ヲ辭シタルヤ否ヤノ争點ヲ判断スルニ當テハ民法第九百五條第九百四條ノ手續ヲ爲シタルヤ否ヤニ依テ之ヲ斷定スルヲ得ス必ス他ニ其辭任ノ有效ナルヤ否ヤヲ決スヘキ相當ノ理由ナカルヘカラス

三五二

○主要ナル争點ニ對シ起訴者ノ主張ヲ證明スルニ足ルモノナキコトヲ説明シタル以上ハ之ヲ以テ其請求ヲ排斥スルニ充分ナルカ故ニ主要ナラサル證據ニ付キ特ニ説明ヲ爲スノ要ナシ

三六九

○判決ハ裁判所カ眞實ナリト認ムル所ノ事實ニ付キ其心證ヲ得タル證據理由ヲ説明スルヲ以テ足ルモノニシテ反對ノ證據ニ對シ一一排斥ノ理由ヲ付スル要ナシ

三六九

○當事者雙方ノ争點ヲ判断スルニ當リ一方ノ立證ヲ是認シ其理由ヲ示シテ判断ノ旨趣ヲ説明シタル以上ハ他ノ一方ノ立證ヲ採用セサル理由ノ如キハ必スシモ之ヲ判決ノ理由ニ掲クルヲ要セス

三六七

○判決ノ理由ハ其主文ヲ維持シ得ヘキヲ以テ足ルモノトス
○裁判所カ或事實ヲ以テ係争事實ヲ判定スルノ資料ト爲ス場合ニ於テハ唯其資料タル旨ヲ説示スレハ足ルモノニシテ更ニ進ンテ其資料タル所以ヲ説示スルノ責ナシ

三六七

○判決ヲ爲スニ當リ外國ノ文書若クハ外國ノ文字ヲ引用スルノ必要アルトキ即チ固有名詞若クハ商標ニ用キタル外國語ノ如キ外國ノ文字其儘若クハ其音ヲ我國ノ假名ニテ表示スルコトノ必要アルトキハ格別然ラサル場合ニ於テハ之ヲ日本語ニ譯解シテ其意義ヲ開示セサルヘカラス
○民法施行前ト雖モ永小作權ハ特約ナキ以上地主ニ於テ隨意ニ之ヲ消滅セシメ小作地ヲ引上ケ得サルコトハ一般ニ認メラレタル慣習ナレハ裁判所ハ其存在ノ根據ニ付キ特ニ説明ヲ加フルノ要ナシ

三七一

○判決ハ之ニ對スル理由ヲ具備スレハ足ル從テ其理由ニ對スル理由殊ニ裁判所カ職權ヲ以テ爲シタル證書ノ解釋ニ付テハ理由ヲ付スルノ要ナシ

三七一

- 甲者カ乙者ニ其所有ノ家屋ヲ毀壞セラレタリトシテ損害賠償ヲ請求シ乙者カ之ニ對シ該家屋ハ競落ニ因リ自己ノ所有ニ歸セシコトヲ答辯シタルトキハ事實裁判所ハ先ツ其家屋カ甲乙何人ノ所有ナルヤヲ確定シ而シテ甲者ノ所有ニ係ルモノタルニ於テハ乙者カ如何ナル意思若クハ如何ナル誤信ニ因リテ之ヲ毀壞セシカノ事實ヲ確定セサルヘカラス
- 賃借人カ其借家ニ火ヲ失シタル場合ト雖モ重大ナル過失ノ存セサル以上ハ賠償ノ責ヲ負フコトナシ從テ其失火ニ付キ重大ナル過失アリシヤ否ヤヲ審究セス單ニ失火ノ過失ニ基因セサルコトヲ認メ得ヘキ立證ヲ爲ササル理由ヲ以テ賠償ノ責任アリト爲シタル判決ハ不法ナリ
- 家屋カ一部燒失シ一部殘存スル場合ニ於テハ其程度形狀如何ニ依リ法律上或ハ之ヲ家屋ト認メ或ハ之ヲ家屋ニ非スト認ムヘキモノナレハ其殘存部分ノミニテハ家屋トシテノ存在ヲ失フモノト斷定スルニハ先ツ殘存ノ程度形狀如何ヲ判示セサルヘカラス
- 裁判所カ採用セサリシ證據ニ付テハ唯一ノ證據ナルト否トヲ論セス不採用ノ理由ヲ説明スルノ責務ナシ
- 債務者カ既ニ係争債務ヲ辨濟シタルコトヲ抗辯シ債權者ノ交付シタル金員受取證ヲ提出セル場合ニ其證書ノ成立ニシテ真正ナル以上ハ之ヲ

三	三	三	三
二六九	六九〇	一八二	一六七

- 排斥スルニハ何故ニ同證ノ金圓カ係争債務ノ辨濟ニ充テラレタルモノト認メ得サルヤヲ說示セサルヘカラス
- 裁判所カ第三者ノ作成シタル私署證書ヲ採用スルハ即チ其真正ニ作成アリタルコトヲ自認スルモノナレハ特ニ其理由ヲ明示スルノ要ナシ
- 或法律ノ規定ハ或事實ニ該當スルヤ否ヤカ争ト爲リタル場合ニ於テ其規定該當セサルトキハ唯其旨ヲ說示スレハ足ルモノニシテ更ニ進ンテ何故ニ該當セサルカヲ詳說スルノ要ナシ
- 裁判所カ信用セサル證據ヲ排斥スルニ當リテハ唯其信スルニ足ラサル旨ヲ說示スレハ足ルモノニシテ更ニ進ンテ之カ理由ヲ説明スルコトヲ要セス又當事者ノ舉ケタル證據ヲ採用セサル場合ニハ其理由ヲ說示スルノ職責ナキモノトス

(同前)

凡ソ裁判ハ不必要ト認ムル諸證ニ對シ一説明ヲ與フルノ責任ヲ有セス其事柄ヲ分別スルニ必要ト認ムル證ニ據リ判決シテ可ナリ

證據ノ採否ハ承審官ノ自由權内ニ在レハ不必要トシテ採用セサル證據ニ對シ一説明ヲ與フル責任ナシ

證據ノ鑑定及ヒ取捨ハ事實裁判所ノ心證判斷ニ一任スヘキモノナルヲ以テ事實裁判所カ縱令證據ヲ排斥スルモ強テ排斥ノ理由ヲ明示スルノ義務ヲ負ハシムルコト能ハス

三	三	三	三	三	三	三
二四〇	二〇八	二一八	五七	五七	二四四	二六八

裁判ハ主タル事項ニ對シ其理由ヲ説明シタル上ハ證人ノ證言其他各證據ニ對シ逐一説明スルノ義務ナシ

裁判官ハ判決ヲ爲スニ重要ナル争點ヲ裁判スヘキモノニシテ其他ノ争點ヲ裁判スルノ義務ナシ

事實承審官ハ各證據物ノ取捨ニ就キ逐一其理由ヲ付スルノ責任ナシ

相手方ノ與知セサルモノニシテ當然之ヲ羈束スヘキ效力ナキ書面ヲ以テ證據力ナシト判示シタル上ハ他ニ排斥ノ理由ヲ説明スル要ナシ

推定ノ一材料タルニ過キサル證據ニ對シ事實裁判官ハ必ス特ニ排斥ノ理由ヲ辯明セサルヘカラサルノ義務ナシ

裁判所ハ當事者ノ提出シタル各證據ニ對シ必スシモ逐一採否ノ理由ヲ辯明スル義務ナシ

裁判所ハ採用セサル證據ニ對シ一理由ヲ付スル義務ナシ

鑑定ハ當事者ノ申立有無ニ拘ハラズ裁判官ノ心證補助ニ止マルモノナレハ之ヲ排斥スルニ付キ特ニ理由ヲ付スルノ要ナシ

裁判所ハ採用セサル事實及ヒ證據ニ對シ一説明セサルヘカラサルノ義務ナシ

裁判所ハ當事者ノ提出セル各證據ニ對シ一説明ヲ爲スノ義務ヲ有セス

裁判所ハ其排斥スル所ノ證據ニ付キ理由ヲ説明セサルヘカラサルノ義務ヲ有セス

裁判所ハ事實判斷ノ因リテ生シタル根據ヲ説明シタルトキハ必スシモ其入證排斥ノ理由ヲ説明スルヲ要セス

同一ノ證言中ニ様ノ申立アル場合ニ於テ其一ヲ採リ判斷ノ資料ニ供スルニ當リ特ニ其取捨ノ理由ヲ説明セサルモ違法ニ非ス

三二	三二	三〇	三〇	三〇	二九	二九	二九	二八	二七	二七	二六
八	六	三	二	一	九	二	一	一			二
四六	七二	一〇九	三四	一〇	三三	九	四	二七	三三	五	二七

事實裁判所ハ證人ノ陳述シタル各事項ニ付キ一採否ノ説明ヲ與ヘサルヘカラサルノ義務ナシ

判決主文ニ示シタル如ク判斷セサルヲ得サル所以ヲ辯明スルニ足ル理由ヲ判示シタル以上ハ判決理由ハ既ニ具備スルモノナルヲ以テ其採用セサリシ證據方法ニ付テハ之カ理由ヲ説明スルノ必要ナシ

事實裁判所ハ事實判斷ノ基本タル證據ニ付キ説明スルヲ以テ足ルヘク當事者ノ提出セル證據ニ付キ一説明スルノ義務ナシ

争點ヲ判斷スル理由ヲ明示シタル以上ハ之ニ關スル證據方法ヲ排斥スル理由ヲ明示スルノ必要ナシ

凡ソ立證ヲ斥クルニハ必ス排斥ノ理由ヲ付セサルヘカラズ若シ之ヲ付セサルトキハ違法ノ裁判ナリ

○裁判所カ事實上債權ノ消滅セル事蹟ヲ認ムルモ其原因ノ何タルヤヲ明知シ難キ場合ニハ唯債權ノ消滅ヲ認メタル事蹟ヲ判示スルヲ以テ足り

必スシモ辨濟時効其他ノ原因ニ依リテ斯ノ如キ事實關係ヲ生シタルコトヲ明示スルノ要ナシトス

○未成年者ニ對シ商取引ニ基ク債務ノ履行ヲ請求スル事件ニ於テ裁判所カ其取引當時ノ狀況ニ鑑ミ後見人之ヲ許容シタルコトヲ判示セルニ止マリ果シテ親族會ノ同意ヲ得テ許容シタルモノナルヤ否ヤヲ確定スル

三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
二四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

- コトナク直ニ其取引ヲ取消シ得サルモノト断定シタルハ不法ナリ
- 婚姻取消ノ請求カ民法第七百八十四條第一號ノ期間ヲ經過シタルヤ否ヤハ裁判所ノ職權調査ニ屬スル事項ナレトモ苟モ其期間中ニ提起セラレタル以上ハ特ニ之カ調査ノ結果ヲ判示スルコトヲ要セス又縱令其調査ヲ爲ササリシトスルモ法律ヲ適用スルニ當リ何等該規定ニ違背シタル所ナキトキハ之ヲ以テ不服ノ理由トスルヲ得ス
- 手形ノ裏書讓渡ニシテ虚偽假裝ナル以上ハ其被裏書人ハ之ニ因リテ何等ノ權利ヲ取得セサルモ爾後該手形ヲ讓受ケタル第三者モ亦手形上ノ權利ヲ取得セサルモノトスルニハ其惡意ナルコトヲ判示セサルヘカラス
- 同借主ノ一人カ期日ニ至リ辨濟ヲ爲ササルトキハ他ノ者ニ於テ引受ケ辨濟スヘキコトヲ約定シタル場合ニ裁判所カ債權者ノ連帶請求ヲ排斥スルニハ其債務ノ連帶ニ非サル理由ヲ判示セサルヘカラス
- 當事者カ或私書ヲ否認シタルニ拘ハラス其成立ノ真正ナル理由ヲ判示セスシテ之ヲ採用シタル判決ハ不法ナリ
- 本案ノ判決ト同時ニ檢眞ニ付キ判斷ヲ與フルトキハ特ニ檢眞ニ付テノ主文ヲ掲クルヲ要セス本案判決ノ理由中其判斷ノ因テ生スル理由ヲ説

四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
二六九	九一九	八四七	四三	一一三〇

明スレハ足レリ

- 係争物件數筆ニ涉ルモ其物件ノ何物タルヤニ付キ當事者間ニ争ナキトキハ判決主文ニ該物件ヲ逐一明記セサルモ之ヲ知り得ヘキ程度ニ於テ掲クレハ足ルモノトス
- 訴ノ變更ナリトノ申立ハ相手方ノ防禦方法ニ過キサレハ之ニ對スル裁判ハ判決主文ニ掲クヘキモノニ非ス
- 判決ノ主文ハ物ノ數量又ハ行爲ノ時間等ニ關シテハ其數量ヲ明示シ又ハ其時間及ヒ之カ起算點ヲ明示スヘキヲ常トス
- 判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限り確定力ヲ生ス故ニ當事者カ其執行ヲ爲シ又ハ將來之ヲ遵奉スルニ付テモ其確定力ヲ生シタル事項ノ範圍内ニ限ルヲ以テ判決主文ハ當事者ノ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ヲ省畧シ得サルヲ常トス
- 裁判所カ原告ノ請求ヲ全部是認スル場合ニハ其判決主文ハ原告ノ一定ノ申立ト相符合スルヲ常トス
- 原告カ一定ノ申立ニ於テ被告ハ原告及ヒ訴外甲者ト共同シ登記手續ヲ爲スヘキ旨ノ申立ヲ爲シタル場合ト雖モ其實被告及ヒ甲者ニ對シ請求權アルコトヲ申立テタルニ過キサルトキハ被告ノミニ對シテ登記手續

三〇	三五	三五	三四	三三	三〇
七	二〇	二〇	九	九	七
一	九五	九五	八五	一七	一
	二四九				

ヲ命スルモ違法ニ非ス

○判決ニ裁判所ノ記載ナキモ當該裁判所ノ判事カ署名シ且民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ所屬書記ノ作成シタル原判決謄本ニ依リ何裁判所ノ判決ナルコトヲ確ムルニ足ルトキハ其判決ハ違法ニ非ス

○判決ヲ爲シタル年月日ヲ判決原本ニ記載スルコトハ民事訴訟法ニ於ケル必要事項ニ非ス

【第二百二十七條】

○判決正本ニ記載スル所ノ日附ハ判決言渡ノ日附ニシテ原本作成ノ日附ニ非ス

○判決ノ原本ニ裁判長ノ署名捺印ナキモ民事訴訟法第二百三十七條ノ手續ヲ爲ストキハ上告ノ理由トナラス

○判決原本ニ書記ノ署名捺印ヲ欠クモ判決ノ當否ニ影響ナキヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○判決中ノ著シキ誤謬ヲ定數ノ判事會議ノ上訂正スルコトニ決シ其判事ニ中差支アリテ署名捺印スル能ハサルモノアルトキハ民事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ之ヲ附記スルコトヲ得

○判決原本ニ所屬官署ノ印ヲ押捺スヘントノ規定ハ何レノ法律規則ニモ

三九	二四九
三〇	二四九
三一	二四九
三二	二四九
三三	二四九
三四	二四九
三五	二四九
三六	二四九
三七	二四九
三八	二四九
三九	二四九

之アルコトナシ

○民事訴訟法第二百三十七條第二項ノ規定ハ專ラ判事ヲシテ判決ノ後其原本ノ作成ヲ遅延セサラシムルカ爲メニ外ナラス故ニ若シ判事カ數、此規定ニ背戾スルニ於テハ懲戒處分ヲ受クルノ責ヲ免レサルヘント雖モ判決ノ效力ハ之カ爲メ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス

【第二百二十八條】

○判決正本ノ作成及ヒ送達ハ第一審裁判所ノ書記之ヲ爲スヲ通則トシ唯訴訟カ上級裁判所ニ繫屬シ其記録カ未タ第一審裁判所ノ書記ニ返還セラレサルトキニ於テハ上級裁判所ノ書記之ヲ爲スヘキモノトス

○判決正本ハ一定ノ方式ニ依リ作成シタル判決ノ認證謄本ニ外ナラサレハ必スシモ判決ノ認證謄本ニ依リテ之ヲ作成スルコト能ハサルモノニ非ス

○未成年ノ當事者ニ送達セラレタル判決カ其儘確定スルヤ否ヤハ法律上ノ問題ナルカ故ニ縱令當事者間ニ爭ナシトスルモ裁判所ハ之カ爲メニ羈束セラルヘキモノニ非ス(第二百二十八條三六年一〇三五頁參照)

【第二百二十九條】

○認證シタル判決謄本ニ書記ノ署名捺印ナキハ手續上ノ瑕疵タルニ止マ

三三	二四五
三四	二四五
三五	二四五
三六	二四五
三七	二四五
三八	二四五
三九	二四五
四〇	二四五
四一	二四五
四二	二四五
四三	二四五
四四	二四五
四五	二四五

○判決中ノ著シキ誤謬ニ付テハ其裁判ヲ爲シタル裁判所ハ更正ヲ爲スノ職責ヲ有スルモノナレハ其事件カ上告審ニ繫屬スル場合ト雖モ著シキ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ更正ヲ爲ササルヘカラス

(同前旨)

著シキ誤謬ハ法律ノ規定ニ則リ原裁判所ニ對シ更正ヲ求メ得ヘキモノナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
違算若クハ著シキ誤謬ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ更正シ得ヘキモノナレハ上告ノ理由トナラス

書損ハ申請又ハ職權ニ因テ更正シ得ヘキモノナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス
判文中ノ誤字ノ如キハ民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ之カ更正ヲ求ムヘキモノニシテ上告ノ理由ト爲スヘキモノニ非ス

判決中ノ或文辭カ誤寫ナルコト著明ナルトキハ民事訴訟法第二百四十一條第一項ニ依リ更正ヲ求ムヘクシテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

判決中ノ違算書損及ヒ此ニ類スル著シキ誤謬ハ何時ニテモ更正ヲ求ムルヲ得ヘク上告ノ理由トナラス

判決中ノ著シキ誤謬ハ更正ヲ求ムヘクシテ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

判決中ノ違算書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ハ何時ニテモ其裁判所ニ更正ヲ求ムルヲ得ヘク之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

判決ニ當事者ノ氏名ヲ遺脱シタルハ著シキ誤謬ナルヲ以テ其更正ヲ求メ得ヘク以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

三三	二九	二九	二八	二八	二六	二六	二五	二四
三	九	六	二	一	二	二	一	九
四二	一〇八	三七	三六	五	二六	九二	三二	一九

○判決ノ誤謬ヲ更正シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法第二百四十一條第三項ニ依リ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ規定アルヲ以テ原判決ニ對シ上告ニ於テ重ネテ此點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

○控訴審ノ判決ニ違算ノ點アルトキハ民事訴訟法第四百八條第二百四十一條ノ規定ニ依リ同審ニ對シ其更正ヲ求ムヘキモノナレハ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

○判決主文ニ於ケル目的物ノ稱呼カ穩當ナラサル場合ト雖モ起訴者自身ノ誤謬ニ基クトキハ更正ヲ申立ツルコトヲ得ス

○判決中當事者ノ表示ニ法定代理人ノ氏名ヲ脱漏シタル場合ニ於テ申立ニ因リ之ヲ補充スルハ民事訴訟法第二百四十一條ノ更正決定ニ屬スヘキモノニシテ同法第二百四十二條ニ所謂追加ノ裁判ヲ以テ判決ノ補充ヲ爲スモノニ該當セス從テ上訴期間ハ判決ノ送達ヨリ起算スヘク更正決定ノ送達ニ因リテ延長セラルヘキモノニ非ス

第二百四十二條

『第二百四十二條』

○第一審裁判所カ其債務ヲ無利息ノ貸借ナリト認定シ利息ノ請求ヲ排斥シタルモノニテ利息ノ裁判ヲ脱漏シタルニ非サルニ第二審裁判所ハ之ヲ利息ノ裁判ヲ脱漏シタルモノトシナカラ其裁判ヲ爲ササリシハ不法

三五	三六	三七	三六
一	二二六	三三六	三六五
一五七			

ナリ
○追加裁判ノ申立ヲ爲シ得ヘキ場合ハ主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ニ付キ裁判ヲ脱漏シタルトキニ限り上告論旨ニ對スル説明ヲ遺脱シタル場合ハ追加裁判ヲ求ムルヲ得ス

(同主旨)

民事訴訟法第二百四十二條ハ主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ノ全部若クハ一部ノ裁判ヲ爲スニ際シ脱漏シタル場合ニ適用スヘキ法條ニシテ自認ニ關スル證據ノ説明等ノ事ハ此中ニ包含セラレサルモノトス

○主タル請求ノ判決ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ民事訴訟法第二百四十二條ニ依リ追加裁判ヲ求ムヘキモノニシテ之ヲ理由トシ上訴ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

○請求ノ一部ニ就テノミ判決ヲ爲シ其他ノ部分ニ就テ判決ヲ爲サザリシトキハ追加裁判ノ申立ヲ爲スヘク以テ上訴ノ理由ト爲スヲ得ス

(同主旨)

第二審カ一部ノ請求ニ對シ判決ヲ脱漏シタルトスル場合ニハ民事訴訟法第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ補充ノ判決ヲ受クルハ格別第二審ノ終局判決ヲ受ケスシテ直ニ上告ヲ爲スヲ得ス
請求金ノ利子ニ付キ裁判ノ脱漏アルトキハ追加裁判ヲ求ムルコトヲ得ルモ之ヲ上告理由ト爲スコトヲ得ス

二六	二	二一九
三〇	二	二〇
二五	二	二七
三三	三	三五
三二	一〇	三〇
二六	二	一九
二八	三	一六

○當事者カ自己ノ懈怠ニ因リ檢眞ノ申立ヲ爲サス若クハ申立ツヘキ事項ヲ脱漏シタル等ノ場合ニ於テ追加裁判ヲ申請スルコトヲ許スノ規定ナシ

○控訴審カ附帶控訴ノ申立ニ付テ判決セサル場合ニ在リテハ當事者ハ追加裁判ノ申立ヲ爲シ得ルニ止マリ援テ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○判決中當事者ノ表示ニ法定代理人ノ氏名ヲ脱漏シタル場合ニ於テ申立ニ因リ之ヲ補充スルハ民事訴訟法第二百四十一條ノ更正決定ニ屬スヘキモノニシテ同法第二百四十二條ニ所謂追加ノ裁判ヲ以テ判決ノ補充ヲ爲スモノニ該當セス從テ上訴期間ハ判決ノ送達ヨリ起算スヘク更正決定ノ送達ニ因リテ延長セラルヘキモノニ非ス

第二百四十四條

第二百四十四條

○代理人ノ受ケタル判決主文ハ本人ニ於テ確定ノ效力ヲ有スルモノトス
○前後ノ訴訟カ互ニ其原因及ヒ目的ヲ異ニスルトキハ後ノ訴訟ハ前ノ確定判決ノ效力ニ羈束セラルルコトナシ
○判決ハ主文ニ包含スルモノノ外確定力ヲ有セス故ニ通常訴訟ノ理由カ前ノ證書訴訟ノ理由ニ抵觸スルモノ上告ノ理由トナラス
○判決確定力ハ其主文ニ包含スルモノニ限り其理由中ニ引用シタル數多

三三	一〇	八〇
三七	一	二八三
三八	一	三六五
二六	一	五九
二八	五	七
二九	七	四

ノ證據ニマテ其效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス

○判決理由ノ全部ハ固ヨリ確定スルモノニ非スト雖モ判決主文ノ因テ生シタル理由即チ判決ノ基礎タルヘキ理由ハ自ラ主文ニ包含セラルルモノタルヲ以テ主文ト共ニ確定スルモノトス

○判決ハ主文ニ包含スルモノニ限り確定力ヲ有スルモ其意味ノ範圍ヲ解釋スルニハ主文ニ密著ノ關係ヲ有スル理由ヲ援用スルハ當然ナリ

(同主旨)

判決主文ニ包含スヘキ事項ハ其判決理由ニ依リ會得スヘキモノトス

○當事者カ判決ノ理由ヲ確定判決ノ效力トシテ援用シタル場合ニ於テ其理由カ直接ニ主文ヲ生シタルモノナルトキハ裁判所ヲ羈束スルモ單一ノ證據トシテ援用シタルトキハ之ヲ羈束セス

(同主旨)

判決ノ理由ハ確定ノ執行力ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ第一審ト第二審ト其理由ニ於テ異ナル所アルモ第二審ノ判決主文ニシテ棄却ナルトキハ其結果タル單一審判決ヲ確定シタルニ止マリ直ニ其理由ニ依リ第一審判決ヲ變更羈束スルモノニ非ス(同一判例二五年三卷六頁) 判決ノ理由ハ確定セス故ニ之ノミニ對シ上告ヲ許サス

判決ハ其主文ノミ確定シ既判力モ亦主文ニ包含スルモノニ限り理由ノ如キハ既判ノ効ナシ

○判決主文ハ理由ヲ竣テ適法ニ存立スヘキモ理由ハ獨立シテ確定力ヲ有

三〇	五	六一
三三	四	一一
三三	二	四〇
二六	三	一四
三三	〇	九
二六	一	四一
二六	二	一九
二六	二	五〇

スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第二百四十四條ノ意義ハ訴又ハ反訴ヲ以テ主張シタル請求ニ對スル裁判ニ限り確定スト云フニ在リト解釋セサルヘカラス

○判決ハ當事者ノ提出シタル請求ヲ是認シ又ハ否認シタルモノ即チ判決主文ニ包含スルモノニ限り確定力ヲ有スルモノトス

○係争地ノ所有者ニ非サル旨ノ確定判決ハ其主張者ヨリ輾轉シテ係争地ヲ取得シタルト主張スル者ニ其效力ヲ及ホスモノトシテ毫モ妨アルコトナシ

○裏書ニ因リ手形ヲ所持スル事實ヲ以テ請求ノ原因トシタル訴訟ニ於テ裏書ノ無効ナル事由ニ依リ請求ヲ棄却シタル確定判決ハ其主文中ニ裏書無効ノ事項ヲ包含スルヲ以テ該事項ハ確定力ヲ有スルモノトス
○一事不再理ノ原則ハ既判力即チ實體上確定力ヲ生シタル範圍内ニ限り之ヲ適用スヘキモノトス

○判決ハ主文ニ包含スルモノニ限り確定力ヲ有シ其主文ニ包含セサル理由ハ確定スルモノニ非ス故ニ小作契約ヲ原因ト爲シ或年度間ノ延滞小作料ノ引渡ヲ請求シタル訴訟ニ於テ原告ノ請求ヲ棄却セル判決ハ該年度以後ニ於ケル小作料ノ請求ノ當否ニ付テハ其確定力ノ效果ヲ及ホス

三五	二	七九
三五	一	一五
三五	四	三七
三五	七	四
三五	二	八九
三五		九三

ヘキモノニ非ス

○一事不再理ノ原則ヲ主張スルニハ當事者雙方同一タルヘキハ勿論其目的ノ事物モ亦同一ニシテ先ノ裁判確定シタルコトヲ要ス

○刑事裁判所カ犯罪ノ證據十分ナラサルコトヲ理由トシ無罪ノ判決ヲ爲シタル場合ニ於テ民事裁判所カ同一ノ資料ヲ證據トシテ犯罪行爲ヲ構成スヘキ事實アルコトヲ認定スルモ之ヲ以テ既判力ノ法則ニ戻ルモノト云フヲ得ス

○民事ノ確定判決ハ取消又ハ原狀回復ノ訴ニ因リ取消サレサル以上其效力ヲ失フヘキモノニ非ス故ニ其判決ノ證據ト爲リタル事實カ他ノ刑事判決ニ於テ反對ニ認定セラレ民事ノ確定判決ニ從ヘハ請求權ヲ有スル者カ刑事判決ノ事實ニ依レハ請求權ヲ有セサルコトト爲ルモ之カ爲メ確定判決ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○確定判決ノ效力ハ如何ナル場合ト雖モ訴訟ノ當事者及ヒ其承繼人ニ對スルノ外直接ニ之ヲ裁判外ノ人ニ推及スルコトヲ得ス

(同三三)

既判効チ及ホスヘキ範圍ハ同一物ナル事件ニ限ルト同時ニ同一人ノ間即チ確定判決ヲ受ケタル當事者間若クハ其一般承繼人ノ間ニ限ルモノニシテ其以外ノ第三者ニ付テハ縱令同一物件

ヲ買得シ其權利ヲ承繼シタル者ト雖モ該確定判決ノ效力ニ依リ當然利益ヲ得若クハ之ニ羈束セラルヘキモノニ非ス

○口頭辯論ノ結果ヲ享受スヘカラサル第三者ニ對シ判決ノ效力ヲ推及シタル裁判ハ違法ナリ

○確定判決ハ其判決ヲ經タル事件ニ付キ當事者ヲ羈束スルモ之ト請求ノ目的ヲ同ウセサル事件ニ付テハ其效力ヲ及ホスコトナシ

〔第二百四十五條〕

○決定ノ理由明カナルニ於テハ基ク所ノ法條ヲ明示セサルモ不法ト云フヲ得ス

○裁判所ノ一旦決定シタル事項ハ列席判事交渉ノ爲メ其效ヲ失フヘキモノニ非ス

○決定原本ニハ必スシモ決定ヲ爲シタル判事ノ署名捺印ヲ要スルモノニ非ス其決定書中ノ記載若クハ之ニ關スル審問調書又ハ其他ノ事由ニ因リ定數ノ判事カ適法ノ手續ヲ履行シ之ヲ爲シタル事實ヲ明確ナラシムルヲ以テ足ルモノトス

第三節 闕席判決

○法廷ニ出頭シタル一方カ相手方闕席ノ儘判決アリタシトノ申立及ヒ故

三七	一三
三七	一三五
三	六
三	二六
三	一〇〇

三六	八五
三九	三三
四〇	一〇四
四二	六
四三	四
四五	一

障棄却ノ申立ノ如キハ口頭辯論ノ一部ニ屬シ書面ヲ要スル限ニ在ラス
從テ印紙ノ貼用ヲ命スヘキモノニ非ス

○當事者ノ一方カ辯論期日ニ闕席シタル爲メ其一方ノ陳述ヲ聽カスシテ
爲シタル判決ト雖モ懈怠ノ結果ニ基カサル以上ハ其判決ハ對席判決ニ
シテ闕席判決ニ非ス

○前回ノ口頭辯論期日ニ闕席判決ノ申立アリタルモ裁判所カ其闕席判決
ヲ爲サス次回ノ口頭辯論期日ニ當事者雙方出席シ適法ニ總テノ辯論ヲ
終了シタル以上ハ曩キノ闕席判決ノ申立ハ自然消滅ニ歸シタルモノナ
ルニ依リ闕席判決ヲ爲ササリシコトヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得
ス

〔第二百四十六條〕

○訴訟代理人カ辯論期日ニ辭任届ヲ差出シタルトキ其委任者本人ニ對シ
更ニ呼出狀ヲ發セス出頭シタル相手方ノ申立ニ依リ闕席判決ヲ爲シタ
ルハ相當ナリ

○當事者ノ一方カ判決ニ接著スル口頭辯論期日ニ出頭セス又ハ出頭スル
モ辯論ヲ爲ササルトキハ縱令前ノ期日ニ於テ辯論ヲ爲シタルコトアル
モ相手方ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス

二七	三〇	三〇	二九	三〇
八	一	九	八	九
三	五	三	三	九

〔第二百五十四條〕

○開廷期日ヲ指定セサルトキハ當事者ノ出廷セサルハ當然ノコトニシテ
闕席裁判ヲ爲スコトヲ得ス

○定期汽船カ濃霧ノ爲メ發航日時ヲ繰上ケ爲メニ乗船ノ機ヲ失シ口頭辯
論期日ニ出頭セサル場合ハ其出頭セサル者ノ爲メ民事訴訟法第二百五
十四條第二號ニ所謂避クヘカラサル事變ヲ生シタルモノトス

〔第二百五十六條〕

○單ニ判決ノ日附ト訴訟ノ番號ノミヲ記スル闕席判決ノ故障申立書ニ於

三〇	二四	四〇	三三	三〇
二	一	二八〇	九	二〇
三	一八六	二八〇	六	四

テ判決日附ヲ誤記シタルモノノ如キハ闕席判決表示ノ要件ヲ缺キタルモノトス

○民事訴訟法第二百五十六條ニ闕席判決ノ表示トアルハ他ノ判決ト識別シ得ヘキ方法ニ依リ其判決ヲ表示スルヲ以テ足ルモノニシテ必スシモ闕席判決ノ主文ヲ記載スルコトヲ要セス

(同第三)

故障申立書中闕席判決言渡ノ日附ニ誤記アルモ其他ノ要件記載アリテ毫モ他ノ事件ト混同スヘキモノニ非サルトキハ民事訴訟法第二百五十六條第一號ノ表示ヲ欠キタルモノト云フヲ得ス

民事訴訟法第二百五十六條第二項第一ノ所謂闕席判決ノ表示トハ他ノ判決ト識別シ得ヘキ方法ヲ以テ故障ヲ申立ツル闕席判決ヲ表示スルハ足ルモノニシテ必スシモ其判決ノ全文若クハ主文ノ全部ヲ記載セサルヘカラサルモノニ非ス(同一判例二七年一九八頁、二八年三六五頁、二八年三卷一頁、二九年七卷一九頁)

○民事訴訟法第二百五十六條第二項ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ闕席判決ヲ表示スルニ當リテ該判決文全部ヲ掲クルコトヲ要スルノ意義ニ非サレトモ少クモ其主文言渡ノ年月日及ヒ當事者ノ氏名若クハ事件ノ番號等ヲ掲クヘキモノトス

(第二百五十七條)

『第二百五十七條』

三〇	三	六二
三六	一	一四六
三一	一	一五
三四	二	六
三九		八三

(第二百五十八條)

○判然許スヘカラサル故障トシテ却下シタル裁判長ノ命令ハ原狀回復ノ判決ヲ以テ取消シ得ヘキモノニ非ス

(第二百五十九條)

『第二百五十九條』

○第一審裁判所ニ於テ適法ノ呼出狀正本ヲ送達シタル證アラサルニ第二審ニ於テ之ヲ合式ノ呼出ヲ受ケタルモノト同視シ其故障申立人ニ懈怠ノ責アルモノト爲シ民事訴訟法第四百十九條ヲ適用シテ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリ

(第二百六十條)

『第二百六十條』

○闕席判決ニ對スル故障申立ノ許否ハ重キヲ其闕席ノ怠慢ニ出テタルヤ否ノ調査ニ措クヘキニ非ス其法式期間等法律上之ヲ許スヘキヤ否ヲ調査スルニ在リ

(第二百六十一條)

『第二百六十一條』

○故障ヲ適法ナリトスルトキハ決定ノ言渡ヲ爲スノ手續ヲ要セス直ニ闕席前ノ程度ニ復シ新辯論ニ進行セシムヘキモノトス

(同第三)

闕席判決ニ付キ故障申立アリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許スヘキヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ故障ヲ申立テタルヤ否ヤヲ調査シ此三要件ヲ缺カサルトキ

三	八	九
二六	二	二〇六
二五	四	六一
三〇	二	一四

ハ之ヲ受理シ闕席前ノ程度ニ復スヘキモノトス
故障ニ付テハ裁判所ニ於テ其故障申立書ヲ職權上調査シ適法ナリト爲ストキハ之ヲ許シ直ニ
本案ノ辯論期日ヲ定ムヘクシテ故障ノ適法ナルヤ否ニ付キ別段ノ口頭辯論ヲ開クヘキモノニ
非ス

○民事訴訟法中故障ノ申立ヲ適法ナリトスル場合ニ其理由ヲ明示シテ裁
判スヘキ旨ノ規定ナケレハ苟モ事實上之ヲ適法ト爲シタル事蹟存在ス
ル以上ハ其適法ナル旨ヲ判文ニ説示セサルモ違法ニ非ス

（同旨）

故障ノ申立ヲ適法ナリトスルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ復スヘキ旨ヲ告グルヲ以テ足レリ
トシ直ニ其故障ノ適法ナルコトヲ裁判スルノ要ナキモノトス

○故障ヲ適法トスルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ復スヘキモノナルヲ以
テ闕席前ノ口頭辯論ハ依然其效力ヲ有スルモノトス

『第二百六十一條』

（第二百六十一條）

○抗告裁判所ニ於テ故障ヲ適法ト爲シタルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ
復シタルニ付キ故障ヲ受ケタル裁判所ハ本案ノ對審裁判ヲ爲ササルヘ
カラス又控訴裁判所ハ故障ヲ受ケタル裁判所カ右ニ拘ハラス再ヒ故障
ノ判決ヲ下スモ之ヲ以テ闕席判決ヲ維持スル第一審裁判ト看做スコト
ヲ得ス

二五	一	三五
四	五	六
四	六	七
	八	九
	一〇	一一
	一二	一三
	一四	一五
	一六	一七
	一八	一九
	二〇	二一
	二二	二三
	二四	二五
	二六	二七
	二八	二九
	三〇	三一
	三二	三三
	三四	三五
	三六	三七
	三八	三九
	四〇	四一
	四二	四三
	四四	四五
	四六	四七
	四八	四九
	五〇	五一
	五二	五三
	五四	五五
	五六	五七
	五八	五九
	六〇	六一
	六二	六三
	六四	六五
	六六	六七
	六八	六九
	七〇	七一
	七二	七三
	七四	七五
	七六	七七
	七八	七九
	八〇	八一
	八二	八三
	八四	八五
	八六	八七
	八八	八九
	九〇	九一
	九二	九三
	九四	九五
	九六	九七
	九八	九九
	一〇〇	一〇一

○故障ノ申立中特ニ闕席判決ノ廢棄ヲ求ムル申立ナキモ裁判所ハ之ヲ廢
棄シテ判決ヲ爲スコトヲ得

○裁判所ハ其言渡シタル終局判決及ヒ中間判決ノ中ニ包含シタル裁判ニ
羈束セラルルハ當然ナルモ適法ナル故障ヲ受理シ新辯論ニ基キ判決ヲ
爲ス場合ニ於テハ前闕席判決ニ羈束セラルルモノニ非サルコトハ民事
訴訟法第二百六十一條ノ規定ニ依リテ明カナリ

○新辯論ニ基キ爲スヘキ判決カ闕席判決ニ符合スルニ拘ハラス闕席判決
ノ不適法ナリシヲ理由トシテ之ヲ廢棄シタル判決ハ失當ナリ然レトモ
其闕席判決ヲ維持スル旨ヲ言渡スト之ヲ廢棄シテ更ニ同一旨趣ノ判決
ヲ言渡ストハ結果ニ於テ異ナル所ナキヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラ
ス

（同旨）

新辯論ニ基キ爲スヘキ判決カ闕席判決ノ主文ト符合スルトキハ其闕席判決カ訴訟手續ニ違背
シ又ハ理由ニ不當ノ廉アルモ之ヲ廢棄スヘキモノニ非ス

○新辯論ニ基キテ爲スヘキ判決カ闕席判決ト符合セサルニ拘ハラス新判
決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄セサルハ穩當ナラス然レトモ闕席判決ヲ廢棄
セサルカ爲メ其判決カ形式上存在スルモ毫モ新判決ニ影響ヲ及ホササ

三	三	三	二
三	一	四	九
四	五	四	四

○證人カ過去ノ事ヲ陳フルニ付テハ自己ノ見聞セル事實ヲ記憶ニ依リ陳述スレハ足ル故ニ證人カ其現況ニ付キ再調査ヲ爲シタルモノニ非サレハ證言トシテ信憑力ヲ有セストノ主旨ニテ之ヲ排斥シタル裁判ハ不法ナリ

○孫祖ノ間柄ナレハ相手方ト共謀シテ虚偽ノ負債ヲ作爲スルカ如キ人情ニ背反スル事實ナシトノ理由ヲ以テ人證及ヒ鑑定ノ申請ヲ排斥シタルハ法理上必無ニ非サル事實ヲ探テ必無ナリト確定シタル不法アルモノナリ

○當事者ノ一方ヨリ提出スル證據カ對手人タル他ノ一方ヨリ提出スル證據ニ牴觸スルハ固ヨリ其所ナルニ依リ之ノミヲ以テ證據排斥ノ理由ト爲スヘカラサルコトハ勿論ナリ

○相手方ノ提出シタル證據ヲ利用セントスルトキハ明カニ之ヲ援用スル旨ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ裁判所ハ自ら進ンテ之ヲ取捨スルコトヲ得ス〔同一判例一九年六卷五七頁〕

○事實裁判所ハ當事者ノ一方ノ提出セサル證據ニ依リ(檢證及ヒ鑑定ハ格別)他ノ一方ニ不利益ナル判斷ヲ下スコトヲ得サルモノトス

○先ニ取調ヲ爲シタル一方ノ者ノ證據ヲ偏信シ豫斷ヲ以テ他ノ一方ノ者

三	一	二六
三	五	六
三	二	五
三	二	六
三	六	九

ノ證據方法ヲ排斥スルカ如キハ探證上ノ法則ニ違背スルモノトス

(同主)

證言ノ信シ得ヘキヤ否ヤハ其證人ヲ訊問シテ供述ヲ聽キタル上心證ヲ以テ之ヲ決スヘキモノトシテ故ニ豫斷ヲ以テ其證言ハ信シ難シト爲シ人證ノ申出ヲ排斥スルヲ得ス

人證ノ申立アリタル場合ニ於テ其證言ヲ信用スルニ足ラスト豫斷シテ其中立ヲ排斥スルハ違法ナリ

凡ソ人證ヲ以テ證明セントスル事實ニシテ信用スルニ足ルヤ否ヤハ親シク其證人ヲ訊問シテ供述ヲ聽キタル上心證ヲ以テ之ヲ決スヘキモノニシテ證人ヲ訊問セス豫メ想像ヲ爲シ其證言ヲ信シ難シトシテ人證ノ申出ヲ排斥スルカ如キハ證據法上許スヘキモノニ非ス

(反對)

證人ノ陳述スヘキ事柄ヲ豫想シ其豫想通り證人ヲ申出タル者ニ利益ナル證言ヲ爲スモノトスルモ之ヲ信用スルニ足ラサルコトヲ定メ以テ其申請ノ當否ヲ判定スルハ不法ニ非サルモノトス

○甲乙二箇ノ事件ヲ併合審理スルニ當リ甲號事件ニ付キ證人ノ囑託訊問ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ該證言ヲ採用スルニハ調書ニ依據スルモ又其供述自體ヲ摘録スルモ共ニ人證タルヲ妨ケス從テ甲號事件ニ關スル證言ヲ乙號事件ノ人證トシテ採用スルモ不法ニ非ス

○裁判所カ當事者ノ鑑定申請ニ因リ受命判事ヲシテ之カ取調ヲ爲サシムヘキ旨ノ證據決定ヲ爲シタル場合ト雖モ爾後當事者ニ於テ其申立ヲ抛

三	一〇	一〇八
三	一〇	一
三	二	三五
三	二	五
三	一	六
三	二	六

- 棄スルトキハ該決定ハ自ラ消滅ニ歸スヘキモノトス
- 當事者カ書證ニ對シ認否ノ申立ヲ爲ス以前ト雖モ裁判所ハ其書證ニ付キ證人ノ取調ヲ爲シ得ルモノトス
- 債務者ノ無資力ハ強制執行ノ結果若クハ破産手續ニ依リテノミ證セラ
- ルルモノニ非スシテ之ヲ證スルニハ法律上何等ノ制限ナシ
- 當事者カ現ニ法廷ニ在ル者ヲ證人トシテ訊問ヲ求ムル場合ニハ裁判所ハ別ニ決定ヲ爲スノ責ナシ從テ其申請ハ書面ヲ以テスルノ要ナキハ勿論印紙ノ貼用ヲモ要セサルモノトス

〔同主旨〕

訟廷ニ在ル人又ハ物件ニ付キ之カ訊問取調ヲ爲サンコトノ申立ハ其申請書ヲ作ルヲ要セス從テ訴訟用印紙ノ貼用ヲ要セス
裁判所ニ出頭セル者ヲ證人トシテ取調ヲ求ムルニハ證據調ノ申立書ヲ要セス又裁判所ニ於テモ證據決定ヲ要セス

〔第二百七十三條〕

- 證據調ノ申請ニ付テハ終局判決前ニ其許否ノ裁判ヲ爲スヘキハ當然ナレトモ申請者カ其裁判ヲ受クル權利ヲ拋棄セシトキハ格別ナリ
- 受訴裁判所ニ出頭シタル證人ヲ受命判事ヲシテ取調ヘシメタルハ違法ナリ

三九	三九	四〇	二六	三三	二六	三三
一八八	二八〇	二七七	四	八	二	二
			一三六	二	一六	一五

〔第二百七十四條〕

- 民事訴訟法第二百七十三條ノ規定ニ依リ受訴裁判所カ其部員一名ヲシテ證據調ヲ爲サシムルコトノ決定ヲ爲ササルトキ又ハ裁判長カ受命判事ヲ指名セサルトキハ部員ノ一名ト雖モ自ラ受命判事トナリテ證據調ヲ爲スノ職權ナキモノトス
- 一タヒ證人訊問ヲ他裁判所ニ囑託スヘキコトヲ決定シタルモ之ヲ囑託セスシテ自ラ同證人ヲ訊問スルハ該囑託ノ決定ヲ變更シテ自ラ訊問シタルニ外ナラサレハ不適法ニ非ス
- 受託判事ハ囑託ヲ受ケタル臨檢ノ事項ヲ明確ニスル爲メ必要ト認ムル場合ニ於テハ職權ヲ於テ臨檢中鑑定ヲ命スルモ妨ナシ
- 區裁判所判事カ受訴裁判所ノ囑託ニ基キ證據調ヲ爲ス場合ニ於テハ其公行ヲ禁シタル法規ナキノミナラス證據調ハ口頭辯論ノ一部ナルヲ以テ特別ノ事情アルニ非サレハ之ヲ公行スヘキモノトス
- 訴訟當事者カ其主張スル事實ヲ證明スルカ爲メ證人數名ノ召喚ヲ申請シタルニ其數名ノ内直接利害ノ關係ヲ有スル者ニモセヨ總テ此數名ヲ不必要トシテ其申請ヲ斥ケタルハ民事訴訟法第二百七十四條ノ規定ニ違背セシ不法ノ裁判ナリ

三三	三七	三五	二六	二二	二二
二〇九	六四	八	三	二	二
		五	三		三

(同主旨)

裁判所ハ當事者ノ中立テタル數多ノ證據中其調フヘキ限度ヲ定メ得ルモ當事者カ召喚訊問ヲ請求シタル證人ヲ總テ拒絕スルコトヲ得ス

數多ノ證據中其調フヘキ限度ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ルト雖モ申立テタル證人訊問ヲ全ク拒絕シタルハ違法タルヲ免レヌ

○書證提出ノ後ニ於テ同一事實ヲ立證スル爲メ申請シタル證人ノ訊問ハ唯一ノ證據方法ニ非サルヲ以テ裁判所ハ民事訴訟法第二百七十四條第一項ニ從ヒ之ヲ排斥スルモ違法ニ非ス

(同主旨)

反證トシテ既ニ書證ヲ提出シタルモ仍ホ同一事實ヲ證センカ爲メ更ニ人證ヲ申出テタルハ唯一ノ防禦方法ニ非サルコト明カナリ此場合ニ裁判所カ其申請ヲ許ササルハ民事訴訟法第二百七十四條第一項ニ據リ證據調ノ限度ヲ定メタルモノト認ムルヲ得ヘシ

○當事者カ同一ノ事實ニ付キ數多ノ證據調ヲ申立テタル場合ニ於テ裁判所カ其一タル證人喚問ノ申請ヲ却下シタルハ民事訴訟法第二百七十四條ニ所謂證據調ノ限度ヲ定メタルモノニシテ其職權ニ屬スル處置ナリトス

(同主旨)

數多ノ證據中其限度ヲ定ムルハ裁判官ノ職權ニアルヲ以テ實地臨檢ノ申請ヲ不必要ナリトシテ棄却シタルハトテ不法ナリト云フヲ得ス

二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四
二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五
二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六
二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七
二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八
三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九
三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇
三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一
三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二
三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三

數多ノ證據中其調フヘキ限度ハ裁判所之ヲ定ム

○民法施行前出訴期限經過シタル場合ニ於テ債務者カ之ヲ援用シテ抗辯方法ト爲シタルトキハ其相手方カ辨濟ノ未了ヲ立證センカ爲メ爲シタル人證ノ申出ハ之ヲ却下スルモ不法ニ非ス

(同主旨)

證人喚問ノ申請カ證書ノ解釋ヲ確メントスルニ在ルトキ裁判官カ證書ノ文詞ニ依リ意義明瞭モモ疑ナキ場合ニハ必スシモ其申請ヲ容ルルノ義務アラズ職權ヲ以テ之ヲ棄却スルヲ至當トス

我訴訟法ノ主義ニ於テ裁判所ハ漫ニ當事者ノ申出タル證據方法ヲ擯斥スルコトヲ許サスト雖モ全ク事實ノ判定ニ關係ナキ證據ノ申出ヲモ斥クルヲ得ストノ義ニ非ス故ニ證言ノ有無カ事實ノ判斷ニ關係ナシト云フニ歸スル場合ニ在テハ縱令證人訊問ノ申請ヲ採用セサルモ之ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラズ

不必要ナル證據ノ眞否ヲ確定スル爲メ申立テタル證人訊問ヲ拒絕シタルモ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

裁判所ニ於テ證人出廷シ申請人申出ノ通り供述ヲ爲スモ申請人ノ勝訴トナラサルコトノ心證ヲ得タルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トニ拘ハラズ其申請ヲ却下スルコトヲ得

○當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フヘキ限度ハ裁判所之ヲ定ムトノ民事訴訟法第二百七十四條ノ規定ハ一ノ事實ヲ證明スル爲メ數多ノ證據申出ヲ爲シタル場合ニ適用スルニ止マルモノトス

二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六
二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七
二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八
三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九
三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇
三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一
三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二
三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三
三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四
三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五
三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六
三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七
三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八
四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九
四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇
四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一
四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二
四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三
四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四
四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五
四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六
四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七
四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八
五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九
五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇
五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一
五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二
五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三
五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四
五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五
五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六
五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七
五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八
六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九
六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇
六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一
六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二
六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三
六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四
六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五
六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六
六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七
六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八
七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九
七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇
七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一
七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二
七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三
七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四
七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五
七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六
七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七
七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八
八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九
八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇
八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一
八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二
八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三
八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四
八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五
八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六
八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七
八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八
九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九
九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇

(同前)

一ノ事實ヲ證スル爲メ當事者雙方ヨリ數多ノ證據方法ヲ申立テタル場合ニ於テ其全部又ハ一部ヲ取調フヘキヤノ限度ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムヘキモノナリ

○裁判所ハ當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フヘキ限度ヲ定ムルコトヲ得ルモ當事者カ唯一ノ證據方法ヲ申立テタル場合ニ於テハ其申立ノ不合法ナラサル限リハ之ヲ却下シ舉證ナキ理由ヲ以テ其申立者ニ對シ敗訴ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

(同前)

一ノ事實ヲ證センカ爲メ數多ノ證據ヲ提出シタル場合ニ於テ證人喚問ノ申請ヲ許否スルハ固ヨリ裁判所ノ權内ニ屬スト雖モ(民訴二七四條)一事實ヲ證スル唯一ノ證據トシテ證人喚問ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ容ササルハ證據提出ノ途ヲ拒絕スル筋合ナルヲ以テ民事訴訟法規定ノ精神ニ違背スルモノナリト云ハサルヲ得ス

村長カ記憶セシ事項ヲ證明シタルニ止マリ法律上村長ノ資格ヲ以テ作リタル公正證書ト看做スコトヲ得サルモノニ對シ之カ反證タル唯一ノ證據調ノ申請ヲ排斥シ該證明ヲ採用シタルハ不法ナリ

當事者カ申請シタル證據ノ外他ニ證明ノ具ナキ場合ニ其申請ヲ却下シ敗訴ヲ言渡シタル裁判ハ不法ナリ

或事實ノ主張ニ對シ唯一ノ證據タル證人ノ申請ヲ許容セス而シテ其主張ナ口頭無證ノ供述トシテ排斥シタル裁判ハ證據ニ關スル訴訟手續ニ違反セルモノトス

二九	二九	二六	二七	三五	二九
一〇	八	一		五	二
一一	八五	五七	三〇	六	三

當事者カ唯一ノ證據決定ノ申請ヲ爲シタルニ拘ハラズ判決ニ必要ナシトシテ之ヲ斥ケ立證ナシトコトヲ以テ其請求ノ理由ナシト判斷シタル裁判ハ不法ナリ

當事者ノ提供セル證據方法ヲ排斥シ其立證ナキヲ根據トシテ敗訴ヲ言渡シタルハ立證ノ途ヲ杜絶シ不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判ナリ

立證方法ヲ拒絕シ其證明ナキヲ責ムルハ不當ナリ

數多ノ證據中其調フヘキ限度ヲ定ムルハ事實裁判所ノ自由權内ニ屬スト雖モ係爭事實ヲ證明スヘキ唯一ノ證據ヲ申出テタル場合ニハ裁判所ハ其證據調ヲ爲スノ責務アリトス

一件記録ニ編綴セル新聞席判決ノ外尙ホ其以前ニ一箇ノ閣席判決アリタリトノ事實ヲ證明セシカ爲メ該記録ニ編綴シテラサレ口頭辯論調書及ヒ閣席判決原本ノ取寄申請ヲ排斥シタル判決ハ唯一ノ立證方法ヲ拒絕シタル違法アルモノトス

證人カ當事者主張ノ如ク證言スルモ爭點ニ不必要ナルコト瞭然タルトキハ其訊問申請ヲ却下スルハ當然ニシテ唯一ノ證據方法ヲ拒絕シタルカ如キ違法ノ裁判ニ非ス

第一審ニ於テ人證ノ申立ヲ却下シタルヲ不服トシテ控訴ヲ爲シ尙ホ同一人證ノ申立ヲ爲シタルトキハ其人證ハ唯一ノ證據ナルヲ以テ控訴審ハ之ヲ取調フヘキモノトス

○法律上ノ問題ヲ解決スルノミヲ以テ事件ノ勝敗ヲ決シ得ルカ又ハ當事者ノ立證セントスル事實ニ關セス他ノ事實理由ニ依リ勝敗ヲ決シ得ヘキ場合ニ於テハ立證方法ハ不必要ニ屬スルカ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ其申立ヲ棄却スルコトヲ得ヘシ

○當事者雙方カ數多ノ證據ヲ舉ケテ辯論ヲ爲シタル後其一方ヨリ更ニ新

三六	三四	三三	三三	三三	三三	三三
	五	一〇	六	四	九	二
五〇一	一	一六	一七	七六	八	八

事實ヲ主張シ檢證ヲ申請シタル場合ニ裁判所ニ於テ其新證據方法ヲ採用シ之カ證據調ヲ爲スモ既ニ得タル事實上ノ心證ヲ翻スニ足ラサルモノト認ムルトキハ之ヲ許ササルコトヲ得ヘシ

○當事者ニ對シ唯一ナル證據ノ提出ヲ拒絕シテ其主張セシ事實ト反對ノ事實アルコトヲ是認シタル判決ハ不法ナリ

○唯一ノ證據方法ト雖モ直接爭點事實ニ對スルモノニ非サルトキハ裁判所ハ其證據調ノ申請ヲ許否スルコトヲ得ヘキハ勿論之ヲ排斥シタル後其立證旨趣ニ反對ナル事實ヲ認定スルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

爭點ノ判斷ニ適切ナラサル證據方法ハ縱令唯一ノモノト雖モ之カ取調ヲ爲ササルコトヲ得

○當事者カ同一ノ立證方法トシテ二名ノ人證ヲ申出テタル場合ニハ其一名ノミヲ訊問シ他ノ訊問ヲ許可セサルモ違法ニ非ス

○裁判所カ係爭事實ヲ認定スルニ當リ自ラ檢證ヲ必要ト認ムルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲シ得ルト同時ニ其必要ヲ認メサルニ於テハ縱令當事者ノ申立アルモ檢證ヲ爲ササルコトヲ得而シテ此場合ニハ其證據方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ立證タルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

(同主旨)

三	三	三	三	三	四〇
二三五	八三六	二八〇	一八六〇	二五五九	一五五

檢證ナルモノハ裁判官カ自動的ニ現物ヲ實檢シ考證ヲ確ムル方法ナレハ其事實ヲ認定スルニ當リ檢證ヲ爲ササルハ十分考證ヲ得ヘカラスト認ムルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲シ得ルト同時ニ當事者ノ申立アルモ他ノ方法若クハ狀況等ニ依リ十分ナル考證ヲ得更ニ檢證ヲ爲スモ既ニ確メタル考證ヲ變スヘキ事情ナカルヘシト認ムルトキハ之ヲ爲ササルコトヲ得ヘキモノトス

○證據決定ハ當事者ノ提出セル證據中取調ヲ要スヘキモノニ付テ之ヲ爲シ其取調ヲ必要トセサルモノニ付テハ別ニ決定ヲ爲スヲ要セサルモノトス

(同主旨)

立證方法ヲ許容セサル場合ニ於テハ必スシモ決定ヲ以テ之ヲ言渡スコトヲ要セス

新期日ヲ指定シ證據調ヲ爲ス場合ニハ證據決定ヲ以テ證據調ヲ命スヘキモノナレトモ其證據調ヲ必要トセサル場合ニハ決定ヲ爲スヲ要セス

裁判所ニ於テ證據調ノ申請ヲ許容セサル場合ハ必スシモ之カ裁判ヲ爲スヲ要セス

證據決定ハ當事者ノ提出セル證據中取調フヘキモノニ付キ之ヲ爲シ其取調ヲ要セサルモノニ付テハ別ニ決定ヲ爲スヘキモノニ非ス

○受訴裁判所ニ於テ當事者ノ演述ニ引續キ直ニ證據調ヲ爲ストキハ證據決定ヲ爲スノ要ナシ

【第二百七十五條】

○民事訴訟法第二百七十五條ニ所謂證據調ニ付キ不定時間ノ障碍アルトキトハ證人タルヘキ者外國ニ在ルトキノ如ク直ニ證據調ヲ爲シ得サル

三	三	二九	二九	二九	三	三
五三	六七	九七	三六	七九	一六二	七〇六

〔第二百七十六條〕

場合ヲ意味スルモノニシテ鑑定人ノ報告遅延スル場合ニ該當セス

○證據決定ヲ爲スニ當リ證人ノ表示ヲ缺キタル不法アルモ其不法ヲ責問セザリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲ヌヲ得ス

○人證ノ申出及ヒ證據決定ニ訊問スヘキ證人ノ氏名知レタルトキハ其氏名ヲ明示スヘキハ勿論ナレトモ若シ知レサルトキハ其人ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ掲記セハ右ノ申出若クハ決定ノ效力ニ妨アルヘカラス

〔第二百七十七條〕

○擅ニ證據決定ヲ變更シ決定ニ依テ定メタル對照印章以外ノ印影ト係爭書證ノ印影トヲ對照鑑定セシメ其結果ニ依リ判決ヲ與ヘタルハ不法ヲ免レス

〔第二百七十八條〕

○證據決定ノ際受命判事ヲ指名セス又ハ受命判事指名ノ事項カ口頭辯論調書ニ記載ナカリシト雖モ爲メニ右受命判事ノ爲シタル證據調ヲ全然無効ナリトスルヲ得ス

〔第二百七十九條〕

(刑)

○裁判長カ合議裁判所ヲ代表シテ囑託ヲ爲スコトハ固ヨリ相當ノ處分ナ

〔第二百八十條〕

レハ之ヲ無効ノ囑託訊問調書ト云フヲ得ス

○民事訴訟法第二百八十條ノ法規ハ當事者ヲシテ可成的便宜ヲ得セシメントノ主意ニ出テタルモノニシテ期日通知ナキ爲メ證據調ヲ當然無効タラシムル精神ニ非ス而シテ當事者カ自己ノ過失ナクシテ出頭セザリシトキハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ證據調追完又ハ補充ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノナルニ絶ヘテ其事ナク徒ニ期日通知ナキヲ以テ論告スルモ上告適法ノ理由ナキモノトス

○受託判事カ證據調ノ期日及ヒ場所ヲ當事者ニ通知セサルモ其證據調ヲ以テ當然無効ナリト云フヲ得ヌ唯相手方ハ通知ノ欠缺ヲ理由トシテ其效力ヲ爭フコトヲ得ルニ過キス

第六節 人證

○代言人ハ法律上證人タルノ資格ヲ有スルモノナレハ嘗テ和解ノ調停ヲ試ミタル代言人カ證人タレハトテ證言ノ效力ナシト云フヲ得ス

○口頭辯論調書ニ列席シタル三名ノ判事ヲ列記シ之ヲ證人訊問調書ニ添附スル場合ニ於テハ其訊問調書ニ判事列席ノコトヲ記スルノ要ナキヲ以テ之ニ記載ナケレハトテ構成ノ法式ヲ闕キタル不法ノ證據調ト云フ

三五	一	四六
三五	四	一
三五	九	一四五
二七		四〇〇
三〇	六	五

二七		三四
二七		四一九
三	九	七
二六	二	二九

ヲ得ス

○民事訴訟法中證人ニ關スル制限ノ規定ハ類推適用ヲ許スヘキモノニ非ス

○證人ノ供述シタル事實ヲ爭ハサルコトノミヲ以テ相手方カ之ヲ認メタルモノト云フヲ得ス

○民事訴訟法ニ於テハ宣誓ヲ爲サシテ供述シタル者モ宣誓ヲ爲シタル上供述シタル者モ共ニ證人ニシテ其供述ハ孰レモ證言ナリ

(同旨)

○忌避ノ原因アリト認メタル證人ヲ參考人トシテ訊問セザリモ不法ト爲スヲ得ス

○民事訴訟法中參考人ノ名稱ナク唯宣誓ノ上陳述スル者ト然ラサル者トノ區別アルノミ故ニ其資格ニ於テハ共ニ證人ト名稱スヘキモノトス

○宣誓ヲ爲シテ證言スル者ト宣誓ヲ爲サシテ參考ノ爲メ陳述スル者トチ間ハ法律上凡テ之ヲ證人ト稱ス

○民事訴訟法ノ證人トハ單ニ過去ノ事實ヲ供述スル第三者ヲ云フモノニシテ其供述ニ付キ宣誓ヲ爲シタル者ノミヲ證人ト云フニ非ス宣誓ヲ爲サス參考ノ爲メ供述ヲ爲ス者モ亦證人タリ

○證人ハ鑑定人ト異ナリ自ラ見聞シタル事實ヲ陳述スヘキモノニシテ其意見ヲ陳述スヘキモノニ非サレハ證人ノ意見ハ裁判所ノ判斷ノ資料ト爲スヘキモノニ非ス

二六	二	三六五
三二	六	三五
三三	八	三
三三	二	八六
二九	五	六三
三三	四	七一
三三	五	八四
三四	五	二七

○本案訴訟ニ利害關係ヲ有スル者ト雖モ當事者ニ於テ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ之ニ宣誓セシメ證人トシテ訊問シ其證言調書ヲ證據トスルモ不法ニ非ス

○證人ハ五官ノ作用ニ依リ直接ニ知リタル事實ニ限り證言スヘキモノニシテ慣例ノ存否ノ如キハ證人ノ證言シ得ヘキモノニ非ス

○會社ト其取締役トノ間ニハ會社ノ業務執行ニ付キ代表關係アルニ止マリ各別個ノ人格ヲ有スルモノトス而シテ取締役ハ自ラ會社ヲ代表セサル訴訟ニ於テ證人タル資格ヲ有セストノ規定ナシ

【第二百八十九條】

○民事訴訟法第二百八十九條ニ所謂證言トハ自己ノ見聞ニ因リ係爭事實ニ付キ知得シタルコトヲ裁判所ニ於テ供述スルノ義ナリトス而シテ證人自ラ係爭事實ニ直接干與セルニ因リ之ヲ知得シタルト將タ當事者若クハ他人ヨリ聴取リタルニ因リテ之ヲ知得シタルトハ問フ所ニ非ス

【第二百九十一條】

○人證ノ申出及ヒ證據決定ニ訊問スヘキ證人ノ氏名知シタルトキハ其氏名ヲ明示スヘキハ勿論ナレトモ若シ知レサルトキハ其人ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ掲記セハ右ノ申出若クハ決定ノ效力ニ妨アルヘカラス

三四	二	二四
三五	二	四一
三六	三	三九
四〇	四	四六
四五	九	四五

〔第二百九十七條〕

○民事上原告又ハ被告ト親戚ノ關係ヲ有スル者ハ證言ヲ拒ムノ權利アルモ證人タルノ資格ナキ者ニ非ス

○民事訴訟法第二百九十七條第一項三號ハ證言ヲ拒ミ得ル者ヲ明示シタルマテニシテ裁判官ニ對シ證人訊問前ニ必ス其關係ヲ尋問スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス

○證人カ當事者一方ノ親戚ナルカ爲メ法律上宣誓セシムヘキモノニ非サルトキト雖モ相手方ニ於テ其證言ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テサリシ場合ニハ該證言ヲ證據トシテ採用スルモ違法ニ非ス

○證人ト原告若クハ被告トノ間ニ雇傭關係ノ存スル以上ハ使用者カ自然人タルト法人タルトニ因リテ民事訴訟法第二百九十七條ノ適用ヲ異ニスルモノニ非ス

○株式會社ノ監査役ハ會社ノ機關ニシテ會社ノ雇人ニ非ス
○民事訴訟法第二百九十七條第二項ハ訓示的ノ規定ニ過キサカ故ニ右ノ規定ニ違背シテ證人ヲ訊問シタルニ拘ハラズ判決裁判所ハ自由採證ノ通則ニ依リ評定ヲ遂ケ其證言ヲ採用スルニ妨ナシ

〔第二百九十八條〕

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ハ例ヘハ證言ノ結果ニ依リ證人等カ保證人共同債務者若クハ償還義務者トシテ其義務ヲ履行セサルヘカサルニ至リ又ハ債權者ヲシテ證人等ニ對シ債權ノ執行ヲ容易ナラシムルニ至ルカ如キ場合ヲ云フモノトス

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ノ規定ハ問ニ付テノ證人ノ答辯カ未タ確定セサル債務ニ付キ自己ノ債務タルコトヲ認諾スヘキトキノ如ク直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシムヘキ場合ニ於テ其適用ヲ受クヘキモノトス

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ノ規定ハ本訴訟ノ當事者間ノ權利關係ニ付キ其當事者ノ一方ト權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ在ル場合又ハ其一方ノ保證人ト爲リタル場合ノ如ク本訴訟ノ裁判ニ依リ直ニ損害ヲ生スヘキ場合ニ適用スヘキ法意ニシテ間接ニ利害ノ關係ヲ生スル場合ノ如キハ之ニ屬セス

○婚姻事項ニ關シテハ親族ト雖モ證人タルノ資格ヲ有ス

○民事訴訟法第二百九十九條第二號ハ家族ノ關係ニ因リ生スル財産上ノ爭訟ノ場合ヲ云フモノニシテ本分家ノ關係アルヤ否ヤヲ爭フカ如キ場

○民事訴訟法第二百九十九條

○民事訴訟法第二百九十九條

○民事訴訟法第二百九十九條

二七	四二五
二六	一〇六
二三	一
三七	八〇二
三三	三三七
三四	二〇

三五	二七九
三五	二〇
三六	四二〇
二九	一三四

合ニ適用スヘキ條規ニ非ス

○禁治産者ノ管財人カ其資格ニテ爲シタル行爲ハ民事訴訟法第二百九十九條第四號ノ代理人トシテ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲トアルニ該當スルヲ以テ管財人ハ縱令直接ノ利害關係アリトスルモ其行爲ニ關シ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

○民事訴訟法第二百九十九條第四號ニ所謂前主トハ權利又ハ義務ノ被承繼人ヲ指稱セルモノトス

○主タル債務者ハ保證人ニ對スル關係ニ於テハ民事訴訟法第二百九十九條第四號ノ所謂前主ニ非ス故ニ債權者ヨリ保證人ニ對スル訴訟ニ於テ其債務關係ニ付キ主タル債務者ヲ證人トシテ訊問スル場合ニハ同條ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

【第三百一一條】

○證言拒絶ニ付テノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スヘキ者ハ其證言拒絶ノ當否ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者即チ證言拒絶事件ノ當事者タル證人喚問ヲ申請セル者及ヒ證人トシテ指名セラレタル者ナルヲ要ス

○民事訴訟法第三百一一條ニ規定セル證言拒絶ノ當否ヲ裁判スルニ付キ當事者ヲ審訊スル手續ハ本案ニ關スル受訴裁判所カ裁判ヲ爲ス場合ニ付

三	六
三	四
四〇	七三
四〇	七三
三五	二
三五	八三

テノ手續ニシテ抗告裁判所カ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス場合ニ行フヘキ手續ニ非ス

【第三百二一條】

○民事訴訟法第三百二一條ニ謂フ原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ムトハ毫モ證言拒絶ノ事由ヲ陳述スルコトナク證言ヲ拒ムノ謂ニシテ證人カ拒絶ノ事由ヲ陳述セル場合ハ縱令其原因正當ナラサルトキト雖モ之ヲ以テ原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ムモノト云フヲ得ス

【第三百二二條】

○證人カ當事者ノ一方ト親族關係ヲ有シ且其訊問事項ハ證人ニ於テ其當事者ノ祖父ノ病氣ヲ看護セシコトアリヤ其死亡前數日間ノ容體如何トノ二點ナルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得從テ此場合ニ相手方ヨリ提出シタル忌避ノ申請ハ其原因アルモノトス

○民事訴訟法第二百九十九條ハ同第二百九十七條ノ例外規定ナルカ故ニ同法第三百三條ハ此例外規定ニ當ル場合ヲ除外シ唯證言ヲ拒ミ得ヘキ證人ノミヲ忌避セシムルノ法意ナリトス

(同第三條)

民事訴訟法第三百三條ハ同第二百九十七條ノ場合ニ限リ忌避スルコトヲ得ル規定ニシテ同第

三	六
三	四
三六	九四
三七	二五
三九	五三

二百九十九條ノ例外規定ノ場合ニモ尙ホ忌避スルコトヲ得ルノ法意ニ非ス
民事訴訟法第三百三條ハ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ親族カ之ヲ拒マサルトキハ相手方チンテ其
證人チ忌避スルコトヲ得セシムル法意ニシテ證人カ同法第二百九十九條ニ從ヒ其證言ヲ拒ミ
得サル事項ヲ證言スヘキ場合ニ於テモ之ヲ忌避スルコトヲ得セシムル旨趣ニ非ス

○證人カ當事者ノ一方ト親族關係ヲ有スルモ民事訴訟法第二百九十九條
ニ依リ證言ヲ拒絕シ得サル場合ニ於テハ之ヲ忌避スルコトヲ許サス

(同主旨)

證人カ抗告人ト民事訴訟法第二百九十七條第一號ノ關係アルモ其訊問事項ニシテ同法第二百
九十九條第四號ニ該當スルトキハ之ヲ忌避スルヲ得ス

○民事訴訟法ノ證人忌避ニ關スル規定ハ其人證カ舉證者ノ爲メ唯一ノ證
據タル場合ト否トヲ論セス之ヲ適用スヘキモノナリ

○裁判所カ證人忌避ノ原因アリト決定シタルニ拘ハラス尙ホ之ヲ訊問ス
ルハ不法ナリトス故ニ縱令其供述ノ援用ニ對シ忌避ノ申請人ニ於テ特
ニ異議ヲ留メサルモ責問權ヲ拋棄シタリト認ムヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第三百三條ノ證人忌避ノ規定ハ證人カ同法第二百九十七條
第一號乃至第三號ノ關係アリテ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ場合ニノミ適
用スヘキモノニシテ同第二百九十九條ニ依リ證人カ其證言ヲ拒ムコト
ヲ得サル事項ヲ證言スル場合ニハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス(同一判

例三五年八卷三四頁

(同主旨)

民事訴訟法第三百三條ノ規定ハ證人カ同法第二百九十七條ニ依リ證言ヲ拒ムコトヲ得ル場合
ニノミ適用スヘキモノニシテ同第二百九十九條ニ依リ證言ヲ拒ムコトヲ得サル場合ニ適用ス
ヘキモノニ非ス

【第三百五條】

○證人忌避ノ決定ハ必ス其理由ヲ付スルコトヲ要スルモノニ非サルヲ以
テ單ニ其理由ノ明示ナキコトノミヲ以テ直ニ之ヲ違法ト爲スコトヲ得
ス

○忌避ノ原因アリト宣言スル決定ハ終局判決前ニ爲シタル裁判ナリト雖
モ之ニ對シ不服ヲ申立テ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルコトヲ得ス

(同主旨)

忌避ノ原因アリト宣言スル決定ハ民事訴訟法第四百三十三條但書前半ノ規定ニ該當スルモノ
ニシテ上級審ヲ羈束スル裁判ナリトス

【第三百六條】

○證人ノ人違ナラサルコトヲ判然ナラシメタルコトハ之ヲ證人訊問調書
ニ記載スルコトヲ要セザレハ反對事實ノ證明セラレサル限りハ其人違
ナラサルコトヲ判然ナラシメタルモノト做スヲ相當トス

三五	三	二二
三六	三	二二
三七	三	二二
三八	三	二二
三九	三	二二
四〇	三	二二
四一	三	二二
四二	三	二二
四三	三	二二
四四	三	二二
四五	三	二二
四六	三	二二
四七	三	二二
四八	三	二二
四九	三	二二
五〇	三	二二
五一	三	二二
五二	三	二二
五三	三	二二
五四	三	二二
五五	三	二二
五六	三	二二
五七	三	二二
五八	三	二二
五九	三	二二
六〇	三	二二
六一	三	二二
六二	三	二二
六三	三	二二
六四	三	二二
六五	三	二二
六六	三	二二
六七	三	二二
六八	三	二二
六九	三	二二
七〇	三	二二
七一	三	二二
七二	三	二二
七三	三	二二
七四	三	二二
七五	三	二二
七六	三	二二
七七	三	二二
七八	三	二二
七九	三	二二
八〇	三	二二
八一	三	二二
八二	三	二二
八三	三	二二
八四	三	二二
八五	三	二二
八六	三	二二
八七	三	二二
八八	三	二二
八九	三	二二
九〇	三	二二
九一	三	二二
九二	三	二二
九三	三	二二
九四	三	二二
九五	三	二二
九六	三	二二
九七	三	二二
九八	三	二二
九九	三	二二
一〇〇	三	二二

○民事訴訟法第二百六條第一項ニ各別ニ宣誓ヲ爲サシムヘシトアルハ各別ニ宣誓ノ式ヲ履踐セシムヘキ法意ニシテ他ノ證人ノ在ラサル場合ニ於テ宣誓ヲ爲サシムヘシトノ旨趣ニ非ス

〔第三百七條〕

○同一ノ事柄ニ付キ同一ノ證人ヲ繼續シテ訊問スヘキ場合ニ於テハ最初ノ日ニ一タヒ宣誓セシムルトキハ其效力ハ其後ノ訊問ニ及フヘキカ故ニ訊問ノ都度更ニ宣誓セシムルコトヲ要セサルモノトス

〔第三百八條〕

○宣誓ノ法式ヲ爲ス以上ハ偽證罪ノ諭示ヲ爲ササルモ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

○證人ノ宣誓前ニ於テ偽證ノ罰ヲ諭示スルノ手續ヲ爲ササリシトキト雖モ之カ爲メニ其爲シタル證言自體カ無効ニ屬スヘキモノニ非ス

〔第三百十條〕

○民事訴訟法第二百十條ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルモノト雖モ證人タルニ外ナラサレハ申請者ニ於テ既ニ證人喚問ノ申請ヲ取消シタル以上ハ參考人トシテモ訊問スルヲ得サルモノトス

○證人ハ宣誓ヲ爲サシメタル上之ヲ訊問スルヲ原則ト爲スモ民事訴訟法

三九	三五	二五	三五	三九
三	二	二	六	三
九	二	三	六	三
	二〇		六二	
	二〇		六二	

第三百十條第一號乃至第五號ニ該當スル者ハ單ニ參考ノ爲メ訊問スルコトヲ得ルノミニシテ之ニ宣誓セシムルコトヲ得サルモノトス

○裁判所ハ證人カ相牴觸シタル供述ヲ爲シタル場合ニ於テ其内一ヲ以テ眞實トシ明確ヲ缺ク所ナシト認メタルトキハ再訊問ヲ爲スヲ要セス又單ニ參考ノ爲メ供述ヲ聽キタル證人ノ證言ト雖モ信スルニ足ルモノト思料スルニ於テハ宣誓ノ上供述シタル證人ノ證言ト同一ニ之ヲ採用スルコトヲ得

○民事訴訟法第二百十條ノ訴訟手續ノ違背ハ當事者ニ於テ何等ノ異議ヲ述ヘサルトキハ裁判所カ其證言ヲ採用スルモ不法ニ非ス

〔同三〕

證人タル資格ナキ者ノ宣誓シタル證言ト雖モ當事者之ニ異議ヲ唱ヘサル以上ハ裁判所ハ其證言ヲ採用スルニ於テ何等ノ妨ナシ

○民事訴訟法第二百十條ニ依リ事實參考ノ爲メニ訊問セラレタル者モ證人タルニ外ナラサレハ其者ノ供述ニシテ心證上採用スルニ足レリト思料スルトキハ裁判所ハ之ヲ採用シテ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルモノトス

○民事訴訟法第二百十條第一號乃至第五號ニ列記シタル者ハ宣誓ヲ爲サ

三一	三三	三四	三五	三五
一	八	二	五	五
七	二	七	九	九
	二	七	九	九

シメスシテ參考ノ爲メニ訊問スヘキモノナルモ是レ亦證人ニシテ參考人ト稱スヘキモノニ非ス

(同主旨)

民事訴訟法中參考人ノ名稱ヲ以テ規定シタル法條ナシ故ニ證人トシテ呼出シ參考ノ爲メ訊問スルモ違法ニ非ス

參考ノ爲メ訊問シタル者ニ證人ノ名稱ヲ用ヒ及ヒ其供述ニ證言ノ名稱ヲ付シテ之ヲ判斷ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス

民事訴訟法中宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ訊問シタル者ニ對シ參考人ノ名稱ヲ附シタル規定ナケレハ此等ノ者モ證人ノ名稱中ニ包含スヘキモノトス

(反對)

對手者ノ代人カ若シ係争物件ノ一部ノ所有者ナルニ於テハ訴訟ノ成績ニ直接ニ利害關係ヲ有スヘキモノナルヲ以テ參考ノ爲メ訊問スルヲ得ルモ證人ト爲ヌヲ得サルハ法律ノ規定スル所ナリ然ルニ原院カ該代人ハ果シテ係争物件ノ一部ノ所有者タルヤ否ヤヲ判決セス且少該代人ヲ證人トシテ訊問シ其證言ヲ採リタルハ爭點ヲ判セスシテ法律ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリ

○民事訴訟法第三百十條第四號ハ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ得ルニ過キサレハ自ら進ンテ宣誓證言シ又忌避ノ申立ナキトキハ證人トシテ訊問シ其證言ヲ採用スルモ可ナリ

○訊問ニ付テノ答辯カ證人ノ刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アル場合ニ於テ之ニ

宣誓ヲ爲サシメ訊問シ其證言ヲ採用シタル判決ハ訴訟手續ニ違背セル不法ノ裁判ナリ

(同主旨)

證人トシテ呼出サレタル者カ當事者ノ提出セル證言ニ反對ノ證言ヲ爲セハ私書偽造者クハ變造行使ノ共犯人トシテ刑事訴追ヲ招ク恐アルトキハ民事訴訟法第二百九十八條第三號第三十條第四號ノ場合ニ該當ス故ニ其者ニ宣誓ヲ爲サシメタル上其證言ニ據リテ證言ノ真正ナルコトヲ斷定シタル裁判ハ不法ナリ

證人カ當事者ト親族ノ關係アルトキハ民事訴訟法第三百十條ノ規定ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問セサルヘカラス故ニ之ニ宣誓ヲ爲サシメタル上其證言ヲ採テ判決ヲ爲シタルハ違法ナリ

○民事訴訟法第二百九十七條ノ規定ハ其第一二三號該當ノモノニ證言ヲ拒ムノ權利ヲ付與シタルニ過キス從テ此等ノ者ニ對スル同第三百十條ノ規定ハ當事者ニ於テ有效ニ拋棄シ得サルモノニ非サルヲ以テ上告人カ原審ニ於テ異議ヲ申立テス既ニ其責問權ヲ喪失シタル以上ハ之ヲ理由トシテ原審ノ違法ヲ責ムルヲ得ス

○訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係アルモノヲ參考ノ爲メ訊問シタルハ相當ナリ

○保證人ハ民事訴訟法第三百十條第五號ニ該當スル者ナルニ依リ宣誓ヲ

三	三	三	三	三	三
七	二	五	五	二	二
六	六	九	九	六	六
九	九	〇	〇	六	六
九	九	〇	〇	六	六

爲サシメスシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルヲ得ヘキモ普通證人ト同シク之ニ宣誓ヲ爲サシメタル上其證言ヲ採リテ裁判ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ

○證人ニシテ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スルトキハ縱令當事者カ其直接ノ利害關係ヲ有セサル旨ノ意見ヲ申立テタリトスルモ之ニ宣誓ヲ爲サシメ訊問スヘキモノニ非ス

○株式會社ノ監査役ハ取締役差支ノ場合ニハ其代理ヲ爲シ且取締役ニ對スル訴訟ニ付キ會社ヲ代表スルコトアルモ會社ニ關スル訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ非ス

○證人カ事件ニ利害ノ關係ヲ有スルヤ否ヤヲ認メ其證言ノ信否ヲ判斷スルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス

○裁判所カ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲシテ宣誓ヲ爲サシメ之ヲ訊問シタル場合ト雖モ當事者ニ於テ其不法ヲ責問セザリシ以上ハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

(同宣言)

宣誓ヲ爲サシムヘカラサル證人ニ宣誓ヲ爲サシメタル場合ト雖モ當事者之ニ異議ヲ唱ヘスシテ結審シタルトキハ其證人ノ宣誓ニ付キ當事者自ラ責問權ヲ有效ニ拋棄シタルモノト看做サ

三二	三	三二
三三	一〇	六〇
三四	三	一七
三五	一	六
三六		三三

ル

訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人ト爲シ宣誓セシメテ訊問シタルハ手續上違法ナリト雖モ當事者ニ於テ之ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テス該證言ニ據リ裁判ヲ受ケタル以上ハ後日ニ至リ其手續ノ違法ナルコトヲ理由トシテ裁判ヲ非難スルコトヲ得ス

訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルハ訴訟手續ニ違背スト雖モ其證據調ノ際當事者カ異議ヲ申立テサルトキハ最早手續違背ヲ理由トシテ其證言ヲ排斥スルヲ得サルモノトス

裁判所カ民事訴訟法第三百十條第五號ニ該當スル者ニ宣誓ヲ爲サシメテ訊問シタルニ當事者ニ於テ其證言ニ對シ何等ノ異議ヲ申述セサルトキハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノトス

裁判所カ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リ宣誓ヲ爲サシメタル場合ト雖モ當事者ニ於テ何等ノ異議ヲ申立テザリシトキハ後日ニ至リ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

(反對)

民事訴訟法第三百十條ニ掲ケタル者ハ總テ宣誓ヲ爲サシメス參考ノ爲メ訊問スルヲ得ヘキ者ナレハ之ニ對シ宣誓ヲ爲サシメ訊問スルハ不法ナリ隨テ其陳述ヲ採テ判斷ノ資料ニ供シタルモ亦違法ナリ

(第三百十六條)

○證人訊問調書ニ民事訴訟法第三百十六條ノ命スル所ヲ記載セサルハ違法ナルモ此違法ハ其證人ノ供述ヲ裁判ノ資料ト爲スノ妨ト爲ラサルモ

民事訴訟法 第一審ノ訴訟手續 地方裁判所ノ訴訟手續 人證 七三五

三三	六	七一
三四	五	三四
三五	二	一〇〇
三六		三九二
三〇	九	一七

第三百十七條

○民事訴訟法第三百十七條ノ所謂證人ノ再訊問トハ同一審ニ於テ再ヒ同
一ノ證人ヲ訊問スルノ義ナルカ故ニ同法第三百二十二條ニ依リ該規定
ヲ鑑定ニ準用スル場合モ亦同一審ニ於テ再鑑定ヲ命スヘキ時ニ限ルモ
ノトス

○裁判所ハ證人カ相抵觸シタル供述ヲ爲シタル場合ニ於テ其内一ヲ以テ
眞實トシ明確ヲ缺ク所ナシト認メタルトキハ再訊問ヲ爲スヲ要セス又
單ニ參考ノ爲メ供述ヲ聽キタル證人ノ證言ト雖モ信スルニ足ルモノト
思料スルニ於テハ宣誓ノ上供述シタル證人ノ證言ト同一ニ之ヲ採用ス
ルコトヲ得

○證人カ其供述更正ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ該證人ノ供述ヲ採用セ
ンニハ其再訊問ヲ爲ササルヘカラス

(同主旨)

宣誓ヲ爲シタル證人カ事實相違ノ供述ヲ爲シタルトキ裁判官言渡前ニ在リテハ之ヲ更正シテ偽
證ノ罰ヲ免ルルコトヲ得故ニ證人ヨリ其供述ノ更正ヲ申立タル上ハ裁判所ハ民事訴訟法第三
百十七條ニ從ヒ更ニ再訊問ヲ爲スニ非サレハ其供述ヲ採テ裁判ノ材料ニ供スルコトヲ得ス

三四	三
三九	四
三九	六
三九	七
三九	八
三九	九
三九	一〇
三九	一一
三九	一二
三九	一三
三九	一四
三九	一五
三九	一六
三九	一七
三九	一八
三九	一九
三九	二〇
三九	二一
三九	二二
三九	二三
三九	二四
三九	二五
三九	二六
三九	二七
三九	二八
三九	二九
三九	三〇
三九	三一
三九	三二
三九	三三
三九	三四
三九	三五
三九	三六
三九	三七
三九	三八
三九	三九
三九	四〇
三九	四一
三九	四二
三九	四三
三九	四四
三九	四五
三九	四六
三九	四七
三九	四八
三九	四九
三九	五〇
三九	五一
三九	五二
三九	五三
三九	五四
三九	五五
三九	五六
三九	五七
三九	五八
三九	五九
三九	六〇
三九	六一
三九	六二
三九	六三
三九	六四
三九	六五
三九	六六
三九	六七
三九	六八
三九	六九
三九	七〇
三九	七一
三九	七二
三九	七三
三九	七四
三九	七五
三九	七六
三九	七七
三九	七八
三九	七九
三九	八〇
三九	八一
三九	八二
三九	八三
三九	八四
三九	八五
三九	八六
三九	八七
三九	八八
三九	八九
三九	九〇
三九	九一
三九	九二
三九	九三
三九	九四
三九	九五
三九	九六
三九	九七
三九	九八
三九	九九
三九	一〇〇

第三百十九條

第七節 鑑定

○受命判事若クハ受託判事ノ爲シタル裁判ノ變更ヲ求ムルニハ先ツ受託
裁判所ノ裁判ヲ求メサルヘカラス

第七節 鑑定

○印影ノ眞否ニ付キ争アリテ之ヲ鑑定セシムル場合ニ際リ其基本ト爲ス
ヘキ印鑑ニ付キ争ヒアルヲ措キ其印鑑ニ基キタルハ適法ノモノニ非ス
從テ此鑑定書ヲ裁判ノ材料ニ供シタルハ不法タルヲ免レス

○意見書ナルモノハ鑑定書ノ如ク熟事者ニ於テ宣誓ノ上調査シタル結果
ヲ書面ニ調製シタルモノト異ナリ單ニ自己ノ所見ヲ書面ニ表ハシタル
ニ過キササルヲ以テ裁判上證據物件トシテ見ルヲ得ス故ニ之ヲ鑑定書ト
シテ裁判ノ資料ニ供シタルハ不法ナリトス

○當事者ノ一方カ指名シタル鑑定人ニ對シ相手方ニ於テ異議ヲ述ヘサル
トキハ裁判所ハ其鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルモ不法ニ非ス

○鑑定ハ檢眞ノ一方法ナルモ鑑定アリタルヲ以テ檢眞アリタルモノト爲
スヲ得ス

○鑑定ハ當事者ノ申立有無ニ拘ハラス裁判官ノ心證補助ニ止マルモノナ
レハ之ヲ排斥スルニ付キ特ニ理由ヲ付スルノ要ナシ

三	八	二〇
二七	三	三
二六	一	六
二四	四	九
二五	五	二
二〇	一〇	三

○相手方ノ否認スル印章ハ直ニ探テ鑑定ノ對照物ト爲スヘカラスト雖モ裁判所カ其印章ヲ真正ナリト判斷シテ之ヲ鑑定ノ材料ニ採用スルハ違法ニ非ス

○鑑定ノ結果カ契約ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノナラサルトキハ其申請ヲ却下スルモ違法ニ非ス

○裁判所カ印判鑑定人ノ智識ヲ假ラスシテ自ラ印章ノ異同ヲ判定シ得ヘキ場合ニハ敢テ印判鑑定人ノ鑑定ヲ要スヘキモノ非ス

〔同三三〕

裁判所ハ鑑定人ノ説ニ從フノ義務ナキコト言テ峽タス例之檢眞ノ上印影ノ同一ナルコトヲ認メタルトキハ即チ同村ニ同一ノ印願ヲ所持スルモノ兩三名アリトノ事ヲ證明セラレタル場合ノ如キハ確然某ノ印影ナリトノ心證ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ鑑定ヲ採ラサルモ不當ニ非ス
鑑定ハ裁判官ノ知識ヲ補助スルノ要具ニ過キサレハ之ヲ要スルト否トハ一ニ裁判官ノ心證判斷ニ屬ス

鑑定ハ裁判所ノ考案ヲ補助スルニ過キス故ニ裁判所ハ係争事項ノ眞偽ヲ自ラ判斷シ得ヘシト認ムルトキハ鑑定ノ申請ヲ採用セサルヘカラサルノ義務ナシ

鑑定ハ専ラ判事ノ心證ヲ補助スルノ具タルニ過キササルヲ以テ當事者ノ申立アリト雖モ裁判所ハ必スシモ之ヲ命スルコトヲ要セス

鑑定ハ裁判官ノ考案ヲ助クルニ過キスシテ他ノ證據方法ト異ナル故ニ裁判官カ自ラ其係争事項ニ付キ判斷ヲ爲シ得ヘキモノト爲シ鑑定ヲ必要ト認メサルトキハ申請ニ係ル鑑定方法ヲ却

三	三	三	三	三	三	三
一	三	二	二	六	二	五
四	二	四	二	三	二	六
七	二	四	三	三	八	五

下スルモ不法ニ非ス

〔第三百二十四條〕

○鑑定ニ關スル證據決定ニ於テ鑑定人ノ員數ヲ指定セサルトキハ一旦三名ノ鑑定人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後特ニ其員數ヲ減スヘキ決定ヲ爲スコトナク期日ニ出廷セル二名ノミニ鑑定ヲ命シテ判決ヲ爲スモ違法ニ非ス

〔第三百二十三條〕

○鑑定ノ事項カ事物其物ノ表明ニ係ルトキハ民事訴訟法第三百二十三條ニ所謂人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス
○過去ニ屬スル商品ノ市價カ幾何ナリシヤヲ鑑別セシムル場合ニハ鑑定ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ民事訴訟法第三百二十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノトス
○係争時日ニ於テ或慣習ノ存在シタルヤ否ヤハ民事訴訟法第三百二十三條ニ所謂過去ノ事實ニ該當スルカ故ニ此等ノ事實ニ實驗アル者ノ訊問ニ因リ之ヲ證明スル場合ハ同條ニ依リ人證ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス
○他人ヲ喚問シテ某地方ノ辯護士カ訴訟上金庫ニ供託ヲ爲ス場合ニ於ケ

三	三	三	三	三	三	三
一	三	二	二	六	二	五
四	二	四	二	三	二	六
七	二	四	三	三	八	五

ル慣例ノ存否ヲ立證スル場合ニハ民事訴訟法第三百三十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノトス

(同三三)

他人ヲ喚問シテ或慣習ノ有無ヲ立證スルハ所謂鑑定證人ナルモノニシテ民事訴訟法第三百三十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノトス

○民事訴訟法第三百三十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用シテ訊問スヘキ鑑定人ニ對シ單純ナル鑑定人ニ付テノ規定ヲ適用シテ鑑定ヲ命シタル場合ト雖モ當事者ニ於テ何等ノ異議ヲ述ヘサルトキハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノナレハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

第八節 書證

○村役場ニ於テ爲シタル證明ハ普通ノ公正證書ト同一視スヘキモノニ非ス

○官吏ノ資格ヲ以テ官廳ノ爲メニ債務ヲ約スルニ際シテハ證券印紙ノ貼用ヲ要セス官名ヲ用フルノ外官印若クハ廳印ヲ押捺スルヲ常トス乃チ茲ニ官名ノ肩書アルノミニテ私印ヲ押捺シ證券印紙ヲ貼用シタル證書アルトキハ之ヲ官廳ノ債務ナリト判定スルヲ得ス仍ホ其債務ヲ縣債ナリト主張セントスル者ハ相當長官ノ委任若クハ其他適法ノ方法ニ依テ

三元 二元七

三元 二元四

三元 二元

三元 二元

之カ立證ヲ爲スノ責任ヲ有スルモノトス

○明治十七年中被上告人ヨリ上告人ニ宛タル地所賣渡證書ニシテ之ニ所轄戶長代理筆生ノ奥書アリ且原院ノ口頭辯論書ニモ之ニ付テ當事者間ニ異論アリシ形跡ヲ存セス斯ク公證ヲ經タル地所賣買證書ハ法律上ノ所謂公正證書ニシテ私署證書ニ非サルナリ

○金錢判取帳ニ第三者カ義務者ノ爲メ支拂フ金錢ヲ記載スルモ其帳簿ノ性質ニ背カス

○證書ニ印章押捺ノ有無ヲ判別スルハ事實上ノ關係ナルヲ以テ第二審ニ原本ノ調査ヲ請求シ其事實ノ確認ヲ經タル上ニ非サレハ上告審ニ於テ之ヲ押捺ナキモノトシテ立論スルコトヲ得ス

○登記濟ノ認證アル地所書入證書ハ公正證書ニ非ス

○證書ノ謄本トシテ記録ニ編入シアル上ハ裁判所ニ其證書ヲ提出シタルモノト看做ス

○證書中ノ押印スヘキ要部下ハ習慣上金額記載アル部分ノ如キモノヲ指シ期限ノ如キハ普通要部下看做スヘキモノニ非ス

○智覺精神ヲ喪失シタルモノニ非サル限リハ本人カ疾病其他ノ障礙ニ依リ自由ニ執筆スル能ハサル場合ニ於テ他人ノ扶助ヲ受ケ書記シタルモ

二元 二元

二元 二元

二元 二元

二元 二元

二元 二元

二元 二元

○豫審調書又ハ司法警察官ノ聴取書ト雖モ民事上書證トシテ證據力ヲ有スルモノトス而シテ其記載事項カ舉證者自身ノ供述ニ係ルト否トニ因リテ何等ノ區別ナシ

○拒絕者ニ面會スルコト能ハサル場合ニ於テ拒絕證書ニ其理由ヲ記載セサルトキハ該證書ハ無効ナリトスルモ之ヲ手形ノ呈示アリタルヤ否ヤノ證據トスルニ何等ノ妨ナシ

〔第三百三十一條〕

○證書中記載ノ事柄ニシテ舉證者ノ利益トナルヘキモノアルトキハ其證書ハ其性質又ハ成立ノ如何ニ拘ハラズ民事訴訟法第三百三十六條第二號ニ該當スル證書ナリトス

○商人カ其取引上相手方ニ交付シタル通帳ハ賣主カ賣渡事實ヲ證スルノ具タルト同時ニ買主ノ爲メニモ亦買受物品ノ數額品質及ヒ代價等ヲ證スルノ具ナリトス從テ民事訴訟法第三百三十六條第二號ニ所謂證書カ其旨趣ニ因リ舉證者及ヒ相手方ニ共通ナルモノニ該當ス

〔第三百三十二條〕

○當事者ノ一方ヨリ相手方ノ手ニ存スル證書ノ提出ヲ命センコトノ申立アルトキト雖モ裁判所ハ證書ニ依リ證スヘキ事實ノ重要ニシテ且申立

三元 一四九三

三元 一五五二

二元 九二五

三元 五〇

〔第三百四十條〕

○當事者ノ一方カ相手方ノ手ニ存スル書證提出ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ縱令相手方カ之ヲ所持セサル旨ヲ申立ツルモ裁判所カ證書ニ依リ證スヘキ事實ヲ重要ナリト認メ且申立ヲ正當ト爲シタルトキハ相手方本人ヲ訊問シテ其取捨ヲ決セサルヘカラス

〔第三百四十一條〕

○當事者ノ一方カ相手方ノ手ニ存スル書證提出ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ縱令相手方カ之ヲ所持セサル旨ヲ申立ツルモ裁判所カ證書ニ依リ證スヘキ事實ヲ重要ナリト認メ且申立ヲ正當ト爲シタルトキハ相手方本人ヲ訊問シテ其取捨ヲ決セサルヘカラス

(同旨)

舉證者カ相手方ノ提出義務アル證書ノ提出ヲ申請シ相手方カ此證書ヲ受取リタルコトナシト陳述シタル場合ニ於テ裁判所カ民事訴訟法第三百四十條以下ノ規定ニ依ラス其申請ヲ排斥シタルハ不法ナリ

〔第三百四十二條〕

○官吏ノ作成シタル報告書ニシテ一件記録ニ添附セラレ現ニ裁判所ニ提出シアルモノニ付テハ民事訴訟法第三百四十六條ニ規定スル證書送付ノ申立ヲ爲スヘキモノニ非ス從テ舉證者ハ唯之ヲ援用スレハ足ルモノトス

三元 六

三元 一五

二元 一二五

三元 八六

